

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,生
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：言語学とは
- 第2回 言語学概論（1）ソシユール以前とソシユールの言語学 レポートⅠ「ソシユールの言語学」
- 第3回 言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
- 第4回 言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
- 第5回 言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷
- 第6回 言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
- 第7回 社会と言語の関係
- 第8回 言語の接触と選択（1）語種
- 第9回 言語の接触と選択（2）ことばの選択
- 第10回 ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
- 第11回 コミュニケーション（1）定義・性質
- 第12回 コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
- 第13回 コミュニケーション（3）コンテキスト
- 第14回 コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
- 第15回 言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

- 学習時間の目安：合計 6 0 時間
- ・ 配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
 - ・ 授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
 - ・ 授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

基本物理（44152）

前期

Basic Physics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 中山広文

授業の概要

物理の本質は論理的にものを考える力である。どのような考え方をしてこのような法則に気づいたのか，この法則からどのような仮定をすると実際の自然現象が説明できるようになるのかというプロセスを追っていくと，論理的な積み上げが理解できるようになる。

この講義は，力学的な内容を通してこれらのプロセスを体験することによって論理的な考え方を身につけるとともに，論理的な積み上げができることによって物理が少しずつ楽しくなるような内容である。

到達目標

- ・ニュートンの3法則を理解することによって、物体がどのような運動をするかを予測できる。
- ・様々な物理現象をエネルギーの変換と保存の観点から説明できる。

評価方法

課題提出等の平常点 4 0 %（到達目標1-2を評価）と定期試験の成績 6 0 %（到達目標1-2を評価）で評価する。

注意事項

- ・演習課題は必ず解くこと。

授業計画

回数	内容
第1回	力の表し方と合成・分解（1）
第2回	力の表し方と合成・分解（2）
第3回	力の種類
第4回	力のつりあい
第5回	作用反作用の法則
第6回	剛体と力のモーメント
第7回	速度と加速度
第8回	慣性の法則
第9回	運動方程式（1）
第10回	運動方程式（2）
第11回	重力場と重力による運動
第12回	仕事
第13回	運動エネルギー・位置エネルギー
第14回	力学的エネルギー
第15回	運動量

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

毎回復習として、演習課題を出題する。解答はWeb上の解答フォームへの入力を基本とする。

教科書

使用しない

参考書

初歩の物理－力学・電磁気入門－ 小野文久著 裳華房

備考

(なし)

基本英語（44201）

前期

Basic English

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

リメディアルのクラスとして高校3年生までに身につけるべき文法事項を総復習する。
英語IとIIの準備や補助として、特に学科のクラス編成でアルファベットの後に2のついているクラスの学生に受けることを勧める。

到達目標

- 1 基本的な英文法事項を包括的に復習し応用できる。
- 2 書き換え問題や会話文の穴埋めを通して英語I・IIや英会話I・IIに必要な英作・英会話力の基礎を身につけ応用できる。

評価方法

小テスト30%（到達目標2） 中間テスト30%（到達目標1） 定期テスト40%（到達目標1）

注意事項

苦手意識をなくすために積極的に学ぼう。リメディアルクラスであるので、卒業単位にはカウントされない。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明
第2回	b e動詞
第3回	一般動詞
第4回	未来形・進行形
第5回	助動詞
第6回	能動態・受動態
第7回	動名詞・分詞
第8回	中間まとめ
第9回	不定詞
第10回	現在完了形・過去形
第11回	名詞・冠詞・数詞
第12回	代名詞
第13回	形容詞・副詞
第14回	前置詞
第15回	接続詞

授業外学習

小テスト用の勉強 30分
復習 1時間半（CDでの音読を含む）
次回の予習 2時間

教科書

English Grammar Onward & Upward, Shigeru Shibagakiほか著（センゲージラーニング）
ISBN978-4-86312-054-9

参考書

使いやすい辞書
図書館のebSCO 英文多読教材

備考

（なし）

Basic English

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

リメディアルのクラスとして高校3年生までに身につけるべき文法事項を総復習する。
英語IとIIの準備や補助として、特に学科のクラス編成でアルファベットの後に2のついているクラスの学生に受けることを勧める。

到達目標

- 1 基本的な英文法事項を包括的に復習し応用できる。
- 2 書き換え問題や会話文の穴埋めを通して英語I・IIや英会話I・IIに必要な英作・英会話力の基礎を身につけ応用できる。

評価方法

小テスト30% （到達目標 2） 中間テスト30% （到達目標 1） 定期テスト40%（到達目標 1）

注意事項

苦手意識をなくすために積極的に学ぼう。リメディアルクラスであるので、卒業単位にはカウントされない。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明
第2回	b e動詞
第3回	一般動詞
第4回	未来形・進行形
第5回	助動詞
第6回	能動態・受動態
第7回	動名詞・分詞
第8回	中間まとめ
第9回	不定詞
第10回	現在完了形・過去形
第11回	名詞・冠詞・数詞
第12回	代名詞
第13回	形容詞・副詞
第14回	前置詞
第15回	接続詞

授業外学習

小テスト用の勉強 30分
復習 1時間半 （CDでの音読を含む）
次回の予習 2時間

教科書

English Grammar Onward & Upward, Shigeru Shibagakiほか著（センゲージラーニング）
ISBN978-4-86312-054-9

参考書

使いやすい辞書
図書館のebSCO 英文多読教材

備考

（なし）

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,生
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：言語学とは
- 第2回 言語学概論（1）ソシユール以前とソシユールの言語学 レポートⅠ「ソシユールの言語学」
- 第3回 言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
- 第4回 言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
- 第5回 言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷
- 第6回 言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
- 第7回 社会と言語の関係
- 第8回 言語の接触と選択（1）語種
- 第9回 言語の接触と選択（2）ことばの選択
- 第10回 ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
- 第11回 コミュニケーション（1）定義・性質
- 第12回 コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
- 第13回 コミュニケーション（3）コンテキスト
- 第14回 コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
- 第15回 言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

- 学習時間の目安：合計 6 0 時間
- ・ 配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
 - ・ 授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
 - ・ 授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,生
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：言語学とは
- 第2回 言語学概論（1）ソシユール以前とソシユールの言語学 レポートⅠ「ソシユールの言語学」
- 第3回 言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
- 第4回 言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
- 第5回 言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷
- 第6回 言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
- 第7回 社会と言語の関係
- 第8回 言語の接触と選択（1）語種
- 第9回 言語の接触と選択（2）ことばの選択
- 第10回 ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
- 第11回 コミュニケーション（1）定義・性質
- 第12回 コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
- 第13回 コミュニケーション（3）コンテキスト
- 第14回 コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
- 第15回 言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

- 学習時間の目安：合計 6 0 時間
- ・ 配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
 - ・ 授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
 - ・ 授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

人間と環境（44351）

後期

Human Beings and Environment

教養科目

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲 明  加計 悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。

アクティブラーニング（調査学習）：この授業では、バイオテクノロジーや生物学分野のノーベル賞など私たちの生活にかかわる先端の生物学研究について調べ、課題レポートしてまとめることを課している。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡）課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計）課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・ 予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。
- ・ 各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・ 課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

（なし）

基本数学（44353）

前期

Basic Mathematics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 洲脇史朗

授業の概要

大学での講義受講や卒論作成のためには、さまざまな計算に習熟していることが望ましい。ただし、それは広範囲に及ぶため、この講義では特に重要と思われる内容に絞って講義をする。毎回の課題として、受講ノートの作成を求め、それをレポートとして提出する。

到達目標

- 1.高校までに学んだ基礎的な数学を復習し、毎回の演習を通してその定着を図り、今後の大学での授業や研究に役立てることができる。
- 2.自分が所属する学科で必要とされる数学的知識を確認し、卒業研究に対応できる数学力を獲得するための学習計画を作成することができる。

評価方法

到達目標 1：毎回のレポート提出（30％）、定期試験（50％）

到達目標 2：各自が所属する学科で卒業までに必要とされる数学力を調べ、その数学力を獲得するための学習計画の提出（20％）

注意事項

積極的な取り組みを継続すること。

授業計画

回数	内容
第1回	数と文字式
第2回	一次方程式
第3回	因数分解
第4回	二次方程式
第5回	図形と三角比
第6回	三角関数
第7回	指数関数
第8回	対数関数
第9回	微分法Ⅰ
第10回	微分法Ⅱ
第11回	積分法Ⅰ
第12回	積分法Ⅱ
第13回	数列
第14回	極限
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

前回の講義で学んだ内容を必ず復習してから、授業に臨むこと。
卒業研究までに必要な数学力を調べること。

教科書

教科書使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書

高校までの、使い慣れた数学参考書を持参し、利用すること。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

人間と環境（44401）

前期

Human Beings and Environment

教養科目

年次	1 年
対象	21 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲 明  加計 悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。

アクティブラーニング（調査学習）：この授業では、バイオテクノロジーや生物学分野のノーベル賞など私たちの生活にかかわる先端の生物学研究について調べ、課題レポートしてまとめることを課している。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡）課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計）課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・ 予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。
- ・ 各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・ 課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

（なし）

Basic Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 佐藤恒夫

授業の概要

自然現象や物質の化学的性質を理論的に考えて説明するには、化学の基礎的な知識が必要である。この講義では、多くの化学的な基礎知識を身につけて自然現象や物質の化学的な性質を論理的に説明できる力を養う。そのために、化学の法則や基本的な定義を学ぶとともに、その根底にある原子論や化学反応の量的な変化を理解する。

到達目標

- 1 基本化学の考え方を、化学反応式、基礎理論、物質の化学的性質などを用いて理解し説明できる。
- 2 基本化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける基本化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20％（到達目標1を評価）、レポート20％（到達目標2を評価）、定期試験60％（到達目標1，3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教養の「化学」も受講するとより理解が深まる。
- ・関数電卓を用意しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	人間生活と化学
第2回	物質の成り立ちⅠ：物質の成分、物質の三態
第3回	物質の成り立ちⅡ：原子の構造と電子配置、周期表と元素の性質
第4回	化学結合Ⅰ：イオン結合
第5回	化学結合Ⅱ：共有結合
第6回	化学結合Ⅲ：金属結合
第7回	物質量と化学反応Ⅰ：原子量、分子量、式量
第8回	物質量と化学反応Ⅱ：物質量、溶液の濃度
第9回	物質量と化学反応Ⅲ：化学反応式、化学反応の量的関係
第10回	酸と塩基Ⅰ：酸と塩基、水素イオン濃度とpH
第11回	酸と塩基Ⅱ：塩の性質
第12回	酸と塩基Ⅲ：酸と塩基の中和
第13回	酸化還元反応Ⅰ：酸化と還元、酸化剤と還元剤
第14回	酸化還元反応Ⅱ：電池

回数	内容
第15回	酸化還元反応Ⅲ：電気分解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み。概略をつかんでおくこと。
- ・復習として、課題レポートを6回出題する。
- ・レポートなどは、最初に人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

化学基礎の必修整理ノート・文栄堂・ト部吉庸・9784578242789

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

Basic Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 佐藤恒夫

授業の概要

自然現象や物質の化学的性質を理論的に考えて説明するには、化学の基礎的な知識が必要である。この講義では、多くの化学的な基礎知識を身につけて自然現象や物質の化学的な性質を論理的に説明できる力を養う。そのために、化学の法則や基本的な定義を学ぶとともに、その根底にある原子論や化学反応の量的な変化を理解する。

到達目標

- 1 基本化学の考え方を、化学反応式、基礎理論、物質の化学的性質などを用いて理解し説明できる。
- 2 基本化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける基本化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20％（到達目標1を評価）、レポート20％（到達目標2を評価）、定期試験60％（到達目標1，3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教養の「化学」も受講するとより理解が深まる。
- ・関数電卓を用意しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	人間生活と化学
第2回	物質の成り立ちⅠ：物質の成分、物質の三態
第3回	物質の成り立ちⅡ：原子の構造と電子配置、周期表と元素の性質
第4回	化学結合Ⅰ：イオン結合
第5回	化学結合Ⅱ：共有結合
第6回	化学結合Ⅲ：金属結合
第7回	物質量と化学反応Ⅰ：原子量、分子量、式量
第8回	物質量と化学反応Ⅱ：物質量、溶液の濃度
第9回	物質量と化学反応Ⅲ：化学反応式、化学反応の量的関係
第10回	酸と塩基Ⅰ：酸と塩基、水素イオン濃度とpH
第11回	酸と塩基Ⅱ：塩の性質
第12回	酸と塩基Ⅲ：酸と塩基の中和
第13回	酸化還元反応Ⅰ：酸化と還元、酸化剤と還元剤
第14回	酸化還元反応Ⅱ：電池

回数	内容
第15回	酸化還元反応Ⅲ：電気分解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み。概略をつかんでおくこと。
- ・復習として、課題レポートを6回出題する。
- ・レポートなどは、最初に人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

化学基礎の必修整理ノート・文栄堂・ト部吉庸・9784578242789

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

English Ⅲ

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

基本英語や英語I・IIなどで身につけた英語力のうち特に読解力を用い、実際に英米人のために書かれた読み物を扱う。
授業を受動的に聞くのではなく、自ら耳や口を使うことで、学習者が活動する授業内容としたい。
CNNの学生向けニュースを扱うことで、ネイティブスピーカーに対峙しても動じない力と度胸を養う。
学部や大学院の専門書のみならず、多岐にわたる就職対策にも役立てることができるはずである。

到達目標

- 1 日本人ではなく英語話者向けに書かれた英文を理解できる
- 2 辞書を丁寧にひくことで、語彙を広げ活用できる
- 3 解読で終わらないように、正しい発音で音読をして、読んだ内容を取り込み自分のものにできる
- 4 英米人の文化や価値観を理解できる
- 5 映像で補いながらリスニングができる

評価方法

- 授業に取り組む態度・姿勢を含めて以下のように評価する
- ・小テスト 30%（快適な授業環境のため、始業チャイムとともに配布し実施する）（到達目標 2）
 - ・中間テスト 30%（到達目標1・3・4）
 - ・定期テスト 40%（到達目標1・3・4・5）

注意事項

選択科目であるので、少々困難に思われても辞書を丁寧にひき、内容を理解しようとする意志をもって取り組んで欲しい。
授業を快適に進めるため、宿題を欠かさず、積極的かつ自発的に学ぶ姿勢を望む。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	水と共にある東京
第3回	実は謎の多いサメの生態
第4回	ある森林監視員の生活
第5回	風と共に生きる
第6回	M R I で探る犬の気持ち
第7回	熱中症対策はしっかりと
第8回	Review
第9回	冒険という名の旅行
第10回	新世代のニッポンの姿
第11回	イギリス王室の伝統
第12回	ダ・ヴィンチをめぐる論争

回数	内容
第13回	災害で活躍するロボット
第14回	街の移動はレンタルスクーターで
第15回	商品名開発の秘訣

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ Vocabulary 関連のExercise(Vocabulary/Vocabulary Exercise/ Topic Paragraph)を済ませる 1時間
- ・ 小テスト用と内容理解の復習 1.5時間
- ・ 付属のCDを用いてシャドーイングをする 毎日15分×6

教科書

CNN 10 Student News Vol.9

Fuyuhiko Sekidoほか

朝日出版社

ISBN978-4-255-15662-0

参考書

英和辞典か英英辞典（使い易いならば電子辞書でもかまわない）、スマートフォンの使用は認めない

備考

（なし）

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 Y
単位数	2. 0 単位
担当教員	 太田由佳

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。

評価方法

- 小テスト（40％）（到達目標3を評価）
- 中間テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）
- 定期テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

授業計画

- | | |
|------|--|
| 回数 | 内容 |
| 第1回 | オリエンテーション・自己紹介 |
| 第2回 | Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message |
| 第3回 | Chapter 2 Overtourism is a Problem! |
| 第4回 | Chapter 3 Gender Equality in the Workplace |
| 第5回 | Chapter 4 Changing Definitions of Beauty |
| 第6回 | Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance |
| 第7回 | Chapter 6 Nature and Health |
| 第8回 | Chapter 1~6中間テスト・解説 |
| 第9回 | Chapter 8 Trees: A Gift from Nature |
| 第10回 | Chapter 9 Tattoos |
| 第11回 | Chapter 10 Redefining Gender and Marriage |
| 第12回 | Chapter 11 All the Lonely People |
| 第13回 | Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet |
| 第14回 | Chapter 13 Jeans Go Global! |
| 第15回 | Chapter 14 Helping People with Disabilities |

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時予習として、わからない語彙などを事前に調べておくこと。
毎回小テストを行うので、復習をしておく。

教科書

Changing Times, Changing Worlds やさしく読める社会事情
Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi
(成美堂)
ISBN978-4-7919-7207-4

参考書

英和辞典

備考

(なし)

英語 I（88103）

前期

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 Y
単位数	2. 0 単位
担当教員	 長谷川真紀

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。SDGsに基づいた英文を読み、日本・世界の現状を理解し、自分たちに何ができるかを考える。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 語彙を広げ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題（20％）（到達目標1・2）, 小テスト・中間まとめ（40％）（到達目標1・2）, 定期考査（40％）（到達目標1・2）

注意事項

教科書、辞書、ファイルを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Chapter 1: Global Perspectives (Reading)
第3回	Chapter 1: Global Perspectives (Listening)
第4回	Chapter 2: Climate Change (Reading)
第5回	Chapter 2: Climate Change (Listening)
第6回	Chapter 3: Water (Reading)
第7回	Chapter 3: Water (Listening)
第8回	Review Chap1~3
第9回	Chapter 4: Clean Energy (Reading)
第10回	Chapter 4: Clean Energy (Listening)
第11回	Chapter 5: Poverty (Reading)
第12回	Chapter 5: Poverty (Listening)
第13回	Chapter 6: Hunger (Reading)
第14回	Chapter 6: Hunger (Listening)
第15回	Review Chap4~6

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：「Vocabulary List」「Reading Preview, Check Your Understanding」「Vocabulary Review」の問題を解く。「Reading Passage」の意味

調べをしておく。(60分)

復習:「Reading Passage」や「Listening Comprehension」の音読・シャドーイングをする。(30分×6)

教科書

書名: Living as Global Citizens

著者: 小関 一也, ケビン マクマナス

出版社: 南雲堂

ISBN 978-4-523-17931-3

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

英語 I（88104）

前期

English I

教養科目

年次	1年
対象	27 ～ 17 B
単位数	2. 0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。
- 4 基本的な英語（日常生活やビジネスの場面でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標 1・3・4 を評価）、レポート（15％）（到達目標 2 を評価）、定期試験（40％）（到達目標 1・3・4 を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1: Restaurants
第3回	Unit 2: Entertainment
第4回	Unit 3 Business
第5回	Unit 4 Office
第6回	Unit 5 Telephone
第7回	Unit 6 Letters & E-mails
第8回	Unit 7 Health
第9回	Unit 8 The Bank & The Post Office
第10回	Unit 9 New Products
第11回	Unit 10 Travel
第12回	Unit 11 Daily Life
第13回	Unit 12 Job Applications
第14回	Unit 13 Shopping
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や英語表現を記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び関連した課題を授業までに解いておく。

教科書

書名：BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST —basic—

著者名：Yoshizuka Hiroshi, Graham Skerritt 出版社：成美堂 ISBN978-4-7919-7232-6 C1082

参考書

特になし

備考

特になし

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 B
単位数	2．0 単位
担当教員	 太田由佳

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。

評価方法

小テスト（40％）（到達目標3を評価）
中間テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）
定期テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・自己紹介
第2回	Unit 1 On My Way to Silicon Valley
第3回	Unit 2 Welcome to San Francisco
第4回	Unit 3 First Day of Internship
第5回	Unit 4 Fun Times, but . . .
第6回	Unit 5 They Look Good on You
第7回	Unit 6 Tech Talk
第8回	Unit 1~6 中間テスト・解説
第9回	Unit 7 You're Sitting on It . . .
第10回	Unit 8 Going Green
第11回	Unit 9 Time to Work
第12回	Unit 10 Know Your Business
第13回	Unit 11 The Job Interview
第14回	Unit 12 Is Your Company Right for You?
第15回	Unit 13 Email Matters

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時予習として、わからない語彙などを事前に調べておくこと。
(巻末のWord List参照)
毎回小テストを行うので、復習をしておく。

教科書

English Booster!
Robert Hickling, Yasuhiro Ichikawa
(金星堂)
ISBN978-4-7647-4113-3

参考書

英和辞典

備考

(なし)

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 Glenn Sumner

授業の概要

初級者向けのやさしい英会話のフレーズでペア・ワークやグループ・ワークやロールプレイで会話力を養成します。
学生全員参加の活気溢れる授業を提供します。
見やすく書きやすいレイアウトと楽しく学べる工夫が一杯です。
英会話の様々な場面で自信を持って話せるようになることを目的としています。
各ユニットでは、 1 つの基本フレーズを学習し、 そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話を練習、英会話の場面に沿った実践的なリーディングとリスニングの問題に挑戦。

到達目標

- 1 リスニングとスピーキングに重点を置いた基本的な英会話のスキルを身につけ応用できる。
- 2 英語の外国の文化、社会、あるいは通貨、興味のある場所などを理解し説明できる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。
評価は授業態度(予習を含む)(20%)（到達目標 1 ・ 2 ）、宿題(10%)（到達目標 1 ）、小テスト／研究課題(20%)（到達目標 2 ）、定期試験(50%)（到達目標 1 ）で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
Unit 1: Pleased to meet you | Unit 2: I'm from Nagoya
Unit 3: I'm retired now | Unit 4: This is my family
Unit 5: How are you? | Unit 6: Could you say that again, please?
Unit 7: I live in an apartment | Unit 8: Do you have a garden?
Unit 9: Do you have any hobbies? | Unit 10: I have rice and miso soup for breakfast
Units 1-10のまとめ
Open topic | Interview / Speaking test
Unit 11: Let's go to an Italian restaurant | Unit 12: Thank you for the chocolates
Unit 13: I like to watch variety shows | Unit 14: How was your weekend?
Unit 15: These pancakes are delicious! | Unit 16: How do you celebrate?
Unit 17: How do you keep in shape? | Unit 18: How much is this sweater?
Unit 19: I'm looking for some souvenirs | Unit 20: See you soon!
Units 11-20のまとめ
Units 1-20 Full review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間
Making friends 1の教科書を用いたインターネットのウェブ上で復習する。また、宿題や、研究課題などの提出。次に勉強するユニットの内容に含まれた、新しい単語の予習。

教科書

参考書

なし

備考

なし

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 K
単位数	2. 0 単位
担当教員	 長谷川真紀

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。異文化理解に基づいた各テーマを理解するとともに、様々な問題を自分と関連させながら考え、異文化についての理解を深める。

到達目標

- 1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2. 語彙の広げ活用できる。
- 3. 英語で自分の意見を伝えることができる。

評価方法

授業貢献度・課題（20％）（到達目標1・2・3）、小テスト・中間まとめ（40％）（到達目標1・2・3）、定期考査（40％）（到達目標1・2・3）

注意事項

教科書、辞書、ファイルを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	1. Playing rugby in the U.S. part 1 (Reading)
第3回	1. Playing rugby in the U.S. part 1 (Writing)
第4回	2. Playing rugby in the U.S. part 2 (Reading)
第5回	2. Playing rugby in the U.S. part 2 (Writing)
第6回	3. Vegetarianism (Reading)
第7回	3. Vegetarianism (Writing)
第8回	Review 1~3
第9回	4. English (Reading)
第10回	4. English (Writing)
第11回	5. ESL Class (Reading)
第12回	5. ESL Class (Writing)
第13回	6. Drinking (Reading)
第14回	6. Drinking (Writing)
第15回	Review 4~6

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：「Reading Passage」の意味調べをしておく。「Comprehension」「Practice and Writing」の問題を解く。（60分）
復習：「暗記用例文」を暗記し、「Reading Passage」の音読・シャドーイングをする。（30分×6）

教科書

書名：A Gate to Intercultural Communication: 異文化理解のための実践学習
著者：佐藤臨太郎
出版社：松柏社
ISBN 978-4-88198-645-5

参考書

特になし

備考

音声はストリーミングできます。

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 K
単位数	2．0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 辞書を引き続けずにすむ程度の基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

小テスト（30％）（到達目標3）、中間テスト（30％）（到達目標1・2）、定期テスト（40％）（到達目標1・2）

注意事項

英和辞典を持参し、積極的に取り組むこと。よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。学生番号順に席を指定するが、事情がある場合は調整するので個人的に相談してほしい。時間割上可能であれば、基本英語（水2）の履修が望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明・自己紹介
第2回	Marathon Men and Women
第3回	Healthy Choices
第4回	Laughing Matters
第5回	Animation the Japanese Way
第6回	Dreams Come True?
第7回	The Statue of Liberty
第8回	中間まとめ
第9回	The Taj Mahal and Shah Jahan
第10回	Universal Design
第11回	Mars One
第12回	Getting Around
第13回	The "Meat" of Tomorrow
第14回	Art Crime
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

Reading Step 2 (A・B・C・D)の予習 1.5時間。

CheckLinkなどの全体復習 2時間。

小テスト用復習 30分。

教科書

Reading Steps (Robert Hickling ほか) (金星堂)

ISBN978-4-7647-3992-5

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

(なし)

英会話 I（88109）

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 太田由佳

授業の概要

英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。
海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1 自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につけ応用できる。
- 2 ペアワーク・発表などクラスメイトや教員に話しかけることを通して、英語でのコミュニケーションを積極的に行える。
- 3 頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口をついて出るようになる。

評価方法

授業態度・小テスト（40％）（到達目標1を評価）
中間テスト（口頭発表、筆記）（30％）（到達目標 2, 3を評価）
定期テスト（口頭発表、筆記）（30％）（到達目標 2, 3を評価）

注意事項

教科書を必ず持参する。積極的に声を出して、英会話を楽しむ。

授業計画

- | 回数 | 内容 |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・自己紹介 |
| 第2回 | Unit 2 Daily Life |
| 第3回 | Unit 3 Weekend Events |
| 第4回 | Unit 4 Small Talk |
| 第5回 | Unit 5 Likes and Dislikes |
| 第6回 | Unit 6 Student Life |
| 第7回 | Unit 7 Family |
| 第8回 | 中間まとめ・テスト |
| 第9回 | Unit 8 Friends |
| 第10回 | Unit 9 Going Out |
| 第11回 | Unit 10 Restaurants |
| 第12回 | Unit 11 Shopping |
| 第13回 | Unit 12 Strengths and Weaknesses |
| 第14回 | Unit 13 Places |
| 第15回 | Unit 14 Vacations |

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

毎時予習として、わからない語彙などを事前に調べておくこと。
毎回小テストを行うので、復習をしておく。

教科書

Free Talking: Basic Strategies for Building Communication
Adam Gyenes, Matthew Guay, Laren Eldevist, Yuki Hasegawa
(National Geographic Learning)
ISBN978-4-86312-349-6

参考書

英和辞典

備考

(なし)

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	27～17Y
単位数	2.0単位
担当教員	 太田由佳

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。

評価方法

- 小テスト（40％）（到達目標3を評価）
- 中間テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）
- 定期テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

授業計画

- | 回数 | 内容 |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | Unit 1 Bare Bones |
| 第3回 | Unit 2 Mummy Mystery |
| 第4回 | Unit 3 Swim with Seahorses |
| 第5回 | Unit 4 Mission to Mars |
| 第6回 | Unit 5 Feed the World |
| 第7回 | Unit 6 Into the Rain Forest |
| 第8回 | Unit 1~6 中間テスト・解説 |
| 第9回 | Unit 7 Turn Up the Heat |
| 第10回 | Unit 8 Free Fall |
| 第11回 | Unit 9 The Hidden Lives of Leaves |
| 第12回 | Unit 10 Getting the Shot |
| 第13回 | Unit 11 Attack of the Germs |
| 第14回 | Unit 12 Just Like the Earth? |
| 第15回 | Unit 13 The Skin You're In |

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時予習として、わからない語彙などを事前に調べておくこと。
毎回小テストを行うので、復習をしておく。

教科書

Science Frontiers

Keiko Hattori, Toshio Hidaka, Yayoi Yamashita, Kana Matsuda, Judy Noguchi
(National Geographic Learning)
ISBN978-4-86312-289-5

参考書

英和辞典

備考

(なし)

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	27～17Y
単位数	2.0単位
担当教員	 長谷川真紀

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。SDGsに基づいた英文を読み、日本・世界の現状を理解し、自分たちに何ができるかを考える。

到達目標

- 1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2. 語彙を広げ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題（20％）（到達目標1・2）、小テスト・中間まとめ（40％）（到達目標1・2）、定期考査（40％）（到達目標1・2）

注意事項

教科書、辞書、ファイルを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Chapter 7: Children (Reading)
第3回	Chapter 7: Children (Listening)
第4回	Chapter 8: Gender (Reading)
第5回	Chapter 8: Gender (Listening)
第6回	Chapter 9: Refugees (Reading)
第7回	Chapter 9: Refugees (Listening)
第8回	Review Chap7~9
第9回	Chapter 10: Insects (Reading)
第10回	Chapter 10: Insects (Listening)
第11回	Chapter 11: Vegetarianism (Reading)
第12回	Chapter 11: Vegetarianism (Listening)
第13回	Chapter 12: Plastic Waste (Reading)
第14回	Chapter 12: Plastic Waste (Listening)
第15回	Review Chap10~12

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：「Vocabulary List」「Reading Preview, Check Your Understanding」「Vocabulary Review」の問題を解く。「Reading Passage」の意味

調べをしておく。(60分)

復習:「Reading Passage」や「Listening Comprehension」の音読・シャドーイングをする。(30分×6)

教科書

書名: Living as Global Citizens

著者: 小関 一也, ケビン マクマナス

出版社: 南雲堂

ISBN 978-4-523-17931-3

参考書

特になし

備考

(なし)

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	27 ～ 17 B
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。
- 4 基本的な英語（日常生活やビジネスの場面でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標1・3・4を評価）、レポート（15％）（到達目標2を評価）、定期試験（40％）（到達目標1・3・4を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1: Eating Out
第3回	Unit 2: Travel
第4回	Unit 3: Amusement
第5回	Unit 4: Meetings
第6回	Unit 5: Personnel
第7回	Unit 1～Unit 5のまとめ
第8回	Unit 6: Shopping
第9回	Unit 7. Advertisement
第10回	Unit 8. Daily life
第11回	Unit 9: Office Work
第12回	Unit 10. Business
第13回	Unit 11. Traffic
第14回	Unit 6- Unit 11のまとめ
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文を記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び関連した課題を授業までに解いておく。

教科書

書名：書名：STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING

TEST Level 1 –BASIC–

著者名：Yasuyuki Kitao, Harumi Nishida, Shiho Hayashi, Brian Covert 出版社：Asahi Press ISBN978-4-255-15614-9 C1082

参考書

特になし

備考

特になし

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	27～17B
単位数	2.0単位
担当教員	 太田由佳

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。

評価方法

- 小テスト（40％）（到達目標3を評価）
- 中間テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）
- 定期テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

授業計画

- | 回数 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | Unit 1 Secret Taste Cells—In Some Surprising Places |
| 第3回 | Unit 2 Singing Sand |
| 第4回 | Unit 3 Christmas Tree Science |
| 第5回 | Unit 4 Watch a Zebrafish Think |
| 第6回 | Unit 5 The Time-Traveling Flower |
| 第7回 | Unit 6 Super Seaweed-Slurping Gut Bugs |
| 第8回 | Unit 1~6 中間テスト・解説 |
| 第9回 | Unit 7 Self-Driving Cars Will Make the World a Better Place |
| 第10回 | Unit 8 Your Brain on Music |
| 第11回 | Unit 9 Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools |
| 第12回 | Unit 10 Too Quick to Be Roadkill |
| 第13回 | Unit 11 Meet Your Mighty Microbes |
| 第14回 | Unit 12 Raise Your Hand, Robots Go to School |
| 第15回 | Unit 13 Jet Lag = Brain Damage for Hamsters |

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時予習として、わからない語彙などを事前に調べておくこと。
毎回小テストを行うので、復習をしておく。

教科書

Science for Fun!
Keiko Hattori, Yayoi Yamashita, Yumi Hasegawa, Robert Perkins
(金星堂)
ISBN978-4-7647-4046-4

参考書

英和辞典

備考

(なし)

英会話Ⅱ（88155）

後期

English Conversation Ⅱ

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 Glenn Sumner

授業の概要

初級者向けのやさしい英会話のフレーズでペア・ワークやグループ・ワークやロールプレイで会話力を養成します。
学生全員参加の活気溢れる授業を提供します。
見やすく書きやすいレイアウトと楽しく学べる工夫が一杯です。
英会話の様々な場面で自信を持って話せるようになることを目的としています。
各ユニットでは、 1 つの基本フレーズを学習し、そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話を練習、英会話の場面に沿った実践的なリーディングとリスニングの問題に挑戦。

到達目標

1. リスニングとスピーキングに重点を置いた基本的な英会話のスキルを身につけ応用できる。
2. 英語の外国の文化、社会、あるいは通貨、興味のある場所などについて理解し説明できる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。
評価は授業態度(予習を含む)(20%)（到達目標 1 ・ 2 ）、宿題(10%)（到達目標 1 ）、小テスト／研究課題(20%)（到達目標 2 ）、定期試験(50%)（到達目標 1 ）で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
Unit 1: TELL ME ABOUT YOUR FAMILY | Unit 2: I LIKE CLASSICAL MUSIC BEST
Unit 3: WHAT BLOOD TYPE ARE YOU? | Unit 4: WHAT A BEAUTIFUL COAT!
Unit 5: WOULD YOU LIKE TO COME OVER FOR COFFEE? | Unit 6: ARE YOU GOING TO WATCH THE GAME TONIGHT?
Unit 7: DO YOU HAVE ANY PETS? | Unit 8: I'M TAKING A COMPUTER CLASS THESE DAYS
Unit 9: I'M GOING TO WASH THE CAR | Unit 10: I'M LOOKING FOR THE SUBWAY STATION
Units 1-10のまとめ
Open topic | Speaking test
Unit 11: DO YOU REMEMBER WHEN YOU WERE IN HIGH SCHOOL? | Unit 12: WOULD YOU LIKE TO TRY SOME JAPANESE FOOD?
Unit 13: WE'RE FLYING TO SINGAPORE | Unit 14: I LIKE TO READ NOVELS
Unit 15: THAT'S WONDERFUL NEWS! | Unit 16: I HAVE A TERRIBLE HEADACHE
Unit 17: I'M SCARED OF SNAKES | Unit 18: IT'S NOT THE SAME IN THE U.S.
Unit 19: HAVE YOU TRIED ACUPUNCTURE? | Unit 20: LET'S KEEP IN TOUCH!
Units 11-20のまとめ
Units 1-20 Full review

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間
Making friends 2の教科書を用いたインターネットのウェブ上で復習する。また、宿題や、研究課題などの提出。次に勉強するユニットの内容に含まれた、新しい単語の予習。

教科書

参考書

なし

備考

なし

年次	1年
対象	27～17K
単位数	2.0単位
担当教員	 長谷川真紀

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。異文化理解に基づいた各テーマを理解するとともに、様々な問題を自分と関連させながら考え、異文化についての理解を深める。

到達目標

- 1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2. 語彙を広げ活用できる。
- 3. 英語で自分の意見を伝えることができる。

評価方法

授業貢献度・課題（20％）（到達目標1・2）、小テスト・中間まとめ（40％）（到達目標1・2）、定期考査（40％）（到達目標1・2）

注意事項

教科書、辞書、ファイルを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	Orientation
第2回	8. The us of the Internet (Reading)
第3回	8. The us of the Internet (Writing)
第4回	9. Lonely elderly people (Reading)
第5回	9. Lonely elderly people (Writing)
第6回	10. Different communication style (Reading)
第7回	10. Different communication style (Listening)
第8回	Review 9~10
第9回	11. Coming to Japan (Reading)
第10回	11. Coming to Japan (Listening)
第11回	12. Going to the gym (Reading)
第12回	12. Going to the gym (Listening)
第13回	14. Same or different? (Reading)
第14回	14. Same or different? (Listening)
第15回	Review 11~14

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：「Reading Passage」の意味調べをしておく。「Comprehension」「Practice and Writing」の問題を解く。（60分）

復習：「暗記用例文」を暗記し、「Reading Passage」の音読・シャドーイングをする。（30分×6）

教科書

書名：A Gate to Intercultural Communication: 異文化理解のための実践学習

著者：佐藤臨太郎

出版社：松柏社

ISBN 978-4-88198-645-5

参考書

特になし

備考

音声はストリーミングできます。

年次	1年
対象	27～17K
単位数	2.0単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語Ⅱにひきつづき英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 辞書を引き続けずにすむ程度の基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

小テスト（30％）（到達目標3）、中間テスト（30％）（到達目標1・2）、定期テスト（40％）（到達目標1・2）

注意事項

英和辞典を持参し、積極的に取り組むこと。よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。話し合いをしやすい席順に席替えをする予定なので、聴取などが困難な学生は快適に受講できる座席になるように申し出てほしい。前期に履修できなかった場合は基本英語を履修することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	英語Iの復習と解説（フィードバック）・概要説明
第2回	Do Animals Know Things We Don't Know?
第3回	Godiva-The Chocolate and the Lady
第4回	Aloha Hawaii
第5回	Everyone Loves a Circus
第6回	Text Messaging
第7回	Wat Type Are You?
第8回	中間まとめ
第9回	Japanese Food Customs
第10回	Mascot Characters
第11回	Trees--One of Nature's Wonders
第12回	Koban at Your Service
第13回	3-D Printers
第14回	Fashion Trends Start Here
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

Step 2 (A・B・C・D)の予習 1.5時間。

CheckLinkなどでの全体復習 2時間。

小テスト用復習 30分。

教科書

Reading Steps (Robert Hickingほか) (金星堂)

ISBN978-4-7647-3992-5

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

(なし)

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 Huynh Khanh

授業の概要

英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。
海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1.日常会話に必要な語彙を覚え、正確に発音することができる。
- 2.人物表現、アドバイス、道案内などを、英語で伝えることができる。
- 3.質問を聞き取り、その質問に対し適切に応答することができる力を身につけ応用できる。

評価方法

授業態度・小テスト：30％（到達目標1）
中間テスト：30％（含口頭発表）（到達目標2・3）
定期テスト：40％（含口頭発表）（到達目標2・3）

注意事項

テキストを必ず購入し、事前に単語調べをし指示された問題を解いておく。

授業計画

回数	内容
第1回	Orientation
第2回	Unit1: Icebreaking
第3回	Unit2: Describing People (Character)
第4回	Unit3: Describing People (Appearance)
第5回	Unit4: Inviting People
第6回	Unit5: Giving Directions
第7回	Unit6: Complaining & Apologizing
第8回	Review: Unit1~6
第9回	Unit7: Giving Advice
第10回	Unit8: Getting Information
第11回	Unit9: Comparing & Contrasting
第12回	Unit10: Talking about Experiences
第13回	Unit11: Interviewing
第14回	Review: Unit7~11
第15回	General Review

授業外学習

学習時間の目安：合計約60時間

単語・問題の予習 30分

小テストの準備 30分

授業の復習としての音読練習 30分×6

教科書

吉富昇 「Communication Builder <改定版>」 （南雲堂）

ISBN: 978-4-523-17632-9

参考書

英和・和英辞典 (電子辞書も可)

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

Chinese I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 趙慧欣

授業の概要

中国語の発音21の字音と36に母音を習う。日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターする
日本語にはない中国語の発音や表現のパターンも考慮した講義内容を配置しており、本文以外に会話文と練習問題を設けているし、回答もテキストにあるので、語学を習得するには練習することは欠かせないことである。学生を主体とした授業を取り組み、自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、自己紹介と簡単な会話ができることを目標とする。

- 1 日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターして活用できる
- 2 基本文法、構文を身につけ応用できる
- 3 中国語で自己紹介ができる

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標2を評価）で総合評価を行う。

注意事項

日本人は中国語を学習する場合、漢字の意味とか日本語と同じのが多いので、習得するのは簡単である。しかし日本語に無い発音があるため、発音の勉強に重点を置く。発音を勉強して初めて聞き取れる、話せるようになるから、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に覚えたセンテンスなどを黒板書いたりする練習をしているので、やれば楽しい学習になる。今まで日本人学生はほとんど優秀な（90点以上）成績を修めている。

授業計画

- 1.日本人の中国語学習の利点と難点
- 2.基本母音
- 3.基本母音の音節
- 4.母音とその表記
- 5.2 1の子音
- 6.子音と母音の音節構成
- 7.断定表現
- 8.「是」を含む文
- 9.時間、曜日、月などに関する表現
- 10.存在表現「在、有」の使い分け
- 11.挨拶言葉
- 12.存在表現「.....着」などの用法
- 13.語順「移動動詞+動作動詞」
- 14.語順「心理動詞+動作動詞」、趣味の表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 中国語の方言、標準語を理解するのにネットで調べてみること
- 第 2回 基本母音 6 つの母音を書きながら覚えること
- 第 3回 母音の音節練習すること
- 第 4回 母音とその表記を覚えるまで練習すること

第 5回 2 1 の子音にある「zh ch sh」「f」を練習すること 第6回 子音と母音構成した音節を練習すること
第 7回 断定表現「是」の構文を理解するのにテキストにある練習問題をする
第 8回 「是」を含む文を理解するのにテキストにある練習問題をする
第 9回 「是」についてテキストにある練習問題をする
第10回 存在表現「在」の用法を理解するのにテキストにある練習問題をする
第11回 「在」含む文を覚えるのに練習問題をする
第12回 「有」の用法を覚えるのに練習問題をする
第13回 「有」を含む文を覚えるのに練習問題をする
第14回 第1課から第5課までの文法ポイントの例文を読み直すこと
第15回 第5課を参照しながら作文の練習をする

教科書

大学教育出版「～独学もできる～中国語の基本表現」著者 趙慧欣・趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など 携帯にある辞書の利用も可能

備考

練習問題を課題として各自でやる、講義中に正解と一緒に確認する

ハングルⅠ（88202）

前期

Korean Ⅰ

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 18 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 河智弘

授業の概要

韓国語の基礎を習得するために必要な文字、発音を学んだ上で、簡単な会話文をロールプレイなどで実践する。

到達目標

- 1．韓国語の基礎的な文字、発音を理解し活用できる。
- 2．韓国語で実際に使える日常会話ができる。

評価方法

授業への取り組みおよび小テスト 6 0 %（到達目標1-2を評価）、期末試験 4 0 %（到達目標1-2を評価）で評価する。

注意事項

授業の中では発表や会話を行うので積極的に取り込むこと。

授業計画

回数	内容
第1回	講義の目的、概要、ハングルとは
第2回	文字（母音と子音）
第3回	パッチムと発音練習
第4回	自己紹介
第5回	名詞・これはいくらですか
第6回	韓国映画のことば
第7回	この人たちは誰ですか
第8回	動詞・読む練習「結婚写真」
第9回	何をしますか
第10回	読む練習「私たち教室」
第11回	何をなさっていますか
第12回	どこに行かれますか
第13回	場所
第14回	読む練習「今日はどこに行かれますか」
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

教科書をよく読んで復習しておくこと。

教科書

KOREAN 初級1 国会刊行会 ISBN978-4-336-05677-1

参考書

辞典等参考文献は適宜案内する。

備考

特になし

保健体育実技 I（88203）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 K,M
単位数	1． 0 単位
担当教員	 菅正樹

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標 1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標 2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標 3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は技術点と課題レポート、到達目標 2 は授業に取り組む姿勢、到達目標 3 は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画 2：バドミントン（基本練習）

授業計画 3：バドミントン（ルールと戦術）

授業計画 4：バドミントン（ゲーム個人戦）

授業計画 5：バドミントン（ゲーム団体戦）

授業計画 6：卓球（基本練習）

授業計画 7：卓球（ルールと戦術）

授業計画 8：卓球（ゲームと個人戦）

授業計画 9：卓球（ゲームと団体戦）

授業計画 10：バレーボール（パス：オーバー・アンダー）

授業計画 11：バレーボール（シートレシーブ）

授業計画 12：バレーボール（アタック・ブロック）

授業計画 13：バレーボール（ゲーム）

授業計画 14：バレーボール（ゲーム）

授業計画 15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 15 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

英会話 I（88204）

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 Huynh Khanh

授業の概要

英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。
海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1 自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につけ活用できる。
- 2 ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行える。
- 3 頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口をついて出るようになる。

評価方法

授業態度・小テスト－30％（到達目標1）、中間テスト－30％（含口頭発表）、（到達目標2・3）、定期テスト－40％（含口頭発表）（到達目標2・3）

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	How was your vacation?
第3回	I think it's exciting!
第4回	Do it before you're 30!
第5回	The best place in the world!
第6回	Where's the party?
第7回	You should try it!
第8回	Review Unit 1～6
第9回	There are too many stories!
第10回	I like people who are smart.
第11回	What were you doing?
第12回	It must be an earthquake!
第13回	I used to sing.
第14回	If you live downtown. . .
第15回	Review Unit 7～12

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

ヴォキャブラリーの予習 30分

小テストの準備 30分

授業の復習としてのシャドーイング練習 30分×6

教科書

Ken Wilson著 Smart Choice 2 (3rd edition) (Oxford)

ISBN 978-0-19-460273-0

参考書

各自使いやすい英和・和英辞典 (電子辞書也可)

備考

(なし)

年次	1 年
対象	27 ～ 17 N,R,,
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標 1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標 2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標 3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は技術点と課題レポート、到達目標 2 は授業に取り組む姿勢、到達目標 3 は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画 2：バドミントン（基本練習）

授業計画 3：バドミントン（ルールと戦術）

授業計画 4：バドミントン（ゲーム個人戦）

授業計画 5：バドミントン（ゲーム団体戦）

授業計画 6：卓球（基本練習）

授業計画 7：卓球（ルールと戦術）

授業計画 8：卓球（ゲームと個人戦）

授業計画 9：卓球（ゲームと団体戦）

授業計画 10：バレーボール（パス：オーバー・アンダー）

授業計画 11：バレーボール（シートレシーブ）

授業計画 12：バレーボール（アタック・ブロック）

授業計画 13：バレーボール（ゲーム）

授業計画 14：バレーボール（ゲーム）

授業計画 15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 15 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

日本語Ⅱ（88206）

前期

Japanese II

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 佐藤友子

授業の概要

今まで学習した中級レベルの日本語を復習し、次の段階に進むための足掛かりとなる授業です。大学の授業に必要なアカデミックジャパニーズを習得し、スムーズに運用できるように、主にN1の文法、語彙に加え、会話能力も高めていきましょう。またニュースなど、世の中の動きにも関心をむけ、自分の意見を述べられるようにしていきます。

到達目標

- 1 N1の文法を学び運用できるようになる。
- 2 N1相当の新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。またそれを通して自分の意見が述べられるようになる。
- 4 日本語能力試験N1合格

評価方法

課題レポート提出・発表・確認テストなど70%(到達目標1-5を評価)と定期試験30%(到達目標1-5を評価)で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・「日本語能力試験N 1 に合格していない学生は、大学が実施する J t e s t の随時試験を必ず受験すること。」

授業計画

回数	内容
第1回	N1文法 1 週1日目 語彙演習 会話「話し言葉の特徴」
第2回	N1文法 1 週 2 日目 語彙演習 会話「話を始める」
第3回	N1文法 1 週 3 日目 語彙演習 会話「新しいものを紹介したいとき」
第4回	N1文法 1 週 4 日目 語彙演習 会話「体験をおもしろく話す」
第5回	N1文法 1 週 4 日目 語彙演習 会話「頼んだり誘ったりする」
第6回	N1文法 1 週 5 日目 語彙演習 会話「言いにくい話」
第7回	N1文法 2 週 1 日目 語彙演習 模試対策
第8回	N1文法 2 週 2 日目 語彙演習 模試対策
第9回	N1文法 2 週 3 日目 語彙演習 模試対策
第10回	JLPT対策
第11回	N1文法 2 週 4 日目 語彙演習 ニュースで聴解
第12回	N1文法 2 週 5 日目 語彙演習 ニュースで聴解
第13回	N1文法 3 週 1 日目 語彙演習 ニュースで聴解
第14回	N1文法 3 週 2 日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習
第15回	N1文法 3 週3日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間 ・授業の前には文法のテキストの予習をしておくこと。 ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。 ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。ニュースなどをみておくこと。毎週順番に関心事などについて、ショートスピーチをしてもらうので、あらかじめ準備しておく。

教科書

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

(なし)

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

本科目は、留学生を対象とした科目である。
大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。
読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。
読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、作文を縮約の応用として位置づけ、三段構成（序論・本論・結論）を意識した作文の実践を行う。
【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.3つの文体（です・ます体（敬体）、だ体（常体）、である体（常体））を区別できる。
- 2.文章縮約のための基礎的な技術が身に付く。
- 3.100～500字程度の文章を読んで、センテンス、段落、全文の論理関係を把握できる。
- 4.三段構成を意識した作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s tの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	短文読解・縮約演習
第3回	中文読解・縮約演習
第4回	作文
第5回	短文読解・縮約演習
第6回	短文読解・縮約演習
第7回	作文
第8回	短文読解・縮約演習
第9回	中文読解・縮約演習
第10回	JLPT対策
第11回	短文読解・縮約演習
第12回	作文
第13回	短文読解・縮約演習

回数	内容
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付された語句リストの意味・用法を調べる。
- ・文体書き換え課題を14回出題する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3
「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

英語 I（88208）

前期

English I

教養科目

年次	1年
対象	27 ～ 17 M
単位数	2. 0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 語彙を広げ活用できる。
- 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 扱われて いる話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に單元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）、レポート(15%)（到達目標 2 ・ 5 を評価）、定期試験（40％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）により成績を表羽化し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1 Small Talk
第3回	Unit 2 Human Relations
第4回	Unit 1～Unit 2 まとめ
第5回	Unit 3 Culture and Globalization
第6回	Unit 4 Healthy Life
第7回	Unit 3～Unit 4 まとめ
第8回	Unit 5 Future Careers
第9回	Unit 6 That Shirt Suits You!
第10回	Unit 5～Unit 6 まとめ
第11回	Unit 7 Taking a Trip
第12回	Unit 8 Do You Like Sports?
第13回	Unit 7～Unit 8 まとめ
第14回	Unit 9 Let's Do Something Fun!
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

TARGET! pre-intermediate , 著者 Akira Morita, Makiko Iio, Takehiro Hashimoto, Yukinobu Satake, Gordon Myskow 金星堂
ISBN978-4-7647-4017-4

参考書

特になし

備考

特になし

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 M
単位数	2. 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 語彙を広げ活用できる。

評価方法

小テスト(30%)(到達目標 3)
中間テスト(30%)（到達目標 1・2）
定期テスト(40%)（到達目標 1・2）

注意事項

（なし）

授業計画

	回数	内容
第1回		Introduction
第2回		Have Aliens Visited Us?
第3回		The Lost City of Atlantis
第4回		The History of Pizza
第5回		The Hottest Chilies
第6回		Training Grizzlies!
第7回		Getting the Shot
第8回		Review Unit 1～3
第9回		I've Found the Titanic!
第10回		Treasure Ship
第11回		At the Scene of a Crime
第12回		The Disease Detective
第13回		Who Was Sacagawea?
第14回		Polar Pioneer
第15回		Review Unit 4～6

授業外学習

Vocabulary Practiceの予習 30分
小テストの勉強 30分
授業後の復習 1時間
Online Workbook 2 時間

教科書
Reading Explorer Foundations Student Book with Online Workbook Access Code (2nd edition) (National Geographic Learning)
ISBN 978-1-305-25450-3

参考書
使いやすい英和辞典（電子辞書も可）

備考
（なし）

年次	1 年
対象	27 ～ 19 B,Y
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標 1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標 2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標 3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40％：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20％）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は技術点と課題レポート、到達目標 2 は授業に取り組む姿勢、到達目標 3 は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画 2：バドミントン（基本練習）

授業計画 3：バドミントン（ルールと戦術）

授業計画 4：バドミントン（ゲーム個人戦）

授業計画 5：バドミントン（ゲーム団体戦）

授業計画 6：卓球（基本練習）

授業計画 7：卓球（ルールと戦術）

授業計画 8：卓球（ゲームと個人戦）

授業計画 9：卓球（ゲームと団体戦）

授業計画 1 0：バレーボール（パス：オーバー・アンダー）

授業計画 1 1：バレーボール（シートレシーブ）

授業計画 1 2：バレーボール（アタック・ブロック）

授業計画 1 3：バレーボール（ゲーム）

授業計画 1 4：バレーボール（ゲーム）

授業計画 1 5：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 趙慧欣

授業の概要

前期に習った発音と基本表現を覚えた後、表現よりやや長い構文、より多くの動詞、接続表現、語順などを習う

到達目標

- 1 より多くの動詞、接続表現、語順を習って、家族の紹介、身近な日常生活に関することを本を頼らずに自分で作文できる
- 2 口頭発表できる
- 3 疑問代名詞を活用して、相手に何かを尋ねることで会話ができる

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標1を評価）で総合評価を行う。

注意事項

初心者には必ず前期から履修することを勧める。前期に既に発音、簡単な構文を勉強した、中国語Ⅰを終了した学生を対象に設定した講義内容である。講義中にテキスト、ノート等を使用し、自主的に練習する体制を取っているので、積極的にやれば楽しい学習になる。日本人には一番簡単な外国語は中国語です。今までほとんどの学生が優秀な成績を修めている。

授業計画

- 1.介詞「在」の使い方
- 2.「在……工作、在……当、是……」表現
- 3.3種類の趣味に関する表現
- 4.動作動詞、趣味の表現
- 5.語順「去+動作動詞」
- 6.作文「私の家族」
- 7.「ながら……」、「不是……就是……」
8. 文における動詞の順序
- 9.交通機関の利用に関する表現
- 10.「不+形容詞」「从～到」の使い方
- 11.構文「動詞+了+数量詞」
- 12「また」に当たる中国語の4つの副詞の使い分け
- 13.構文「昨天我做了很多事情」
- 14.使役表現、仮定表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 介詞「在+動詞」の使い方を理解するのに練習問題をする こと。
- 第 2回 「在……工作、在……当、是……」表現の練習
- 第 3回 趣味に関する表現を整理すること
- 第 4回 作文「我家的早晨」
- 第 5回 交通手段に関する表現を覚えること。
- 第 6回 中国語『移動動詞+動作動詞』の語順を覚えること。
- 第 7回 趣味に関する表現の4種類を理解しながら練習問題を完成すること。
- 第 8回 「動詞+名詞」の用法を理解するのに練習問題をする、「去+動作動詞」の構文を練習し「から～まで」にあたる中国語は二つあるのを覚えること。
- 第 9回 「動詞+了+助数詞」、「また」にあたる中国語の4つの使い分けを理解し、練習問題を参考に練習すること。

第10回 昨日した事を習った表現を用いて作文すること 第9課の練習問題の正解を確認すること

第11回 第10課の文法ポイント 使役表現をまとめて覚えること。

第12回 仮定表現を覚えて作文を書くこと

第13回 命令表現、禁止表現を作文しながら覚えること。

第10課 会話文練習すること。

第14回 習った接続表現で作文を書いてみること。

第15回 ノートの整理をして、復習すること。

教科書

大学出版社 中国語基本表現 著者 趙慧欣 趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など、或いは携帯電話の辞書利用も可能

備考

テキストにある練習問題を各自でやることにする、講義中に回答を確認する。

ハングルⅡ（88252）

後期

Korean Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 18 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 河智弘

授業の概要

基本文型と文法を会話文の中で習得し、日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。前期で学んだ韓国語の基礎を生かして、会話、慣用的な表現などを用いて、読み、書き、聞き取り、話すことをバランスよく習得していくことを目的とする。

到達目標

- 1．韓国語の基礎的な文字、発音を理解し活用できる。
- 2．韓国語で実際に使える日常会話ができる。

評価方法

授業への取り組みおよび小テスト 6 0 %（到達目標1-2を評価）、期末試験 4 0 %（到達目標1-2を評価）で評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	前期の復習
第2回	何番ですか
第3回	銀行はどこにありますか
第4回	読む練習「私の部屋」
第5回	週末何をなさいましたか
第6回	名詞、動詞の過去形
第7回	読む練習「日記」
第8回	韓国ドラマのことば
第9回	市場はどうですか
第10回	形容詞の活用
第11回	りんごはいくらですか
第12回	不規則動詞・形容詞
第13回	何を召し上がりますか
第14回	読む練習「韓国料理」
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

教科書をよく読んで復習しておくこと。

教科書

KOREAN 初級1 国会刊行会 ISBN978-4-336-05677-1

参考書

辞典等参考文献は適宜案内する。

備考

特になし。

保健体育実技Ⅱ（88253）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 K,M
単位数	1． 0 単位
担当教員	 菅正樹

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に保健体育実技Ⅰとは異なる球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標 1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標 2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標 3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40％：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20％）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は技術点と課題レポート、到達目標 2 は授業に取り組む姿勢、到達目標 3 は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画 2：バスケットボール（ドリブル・パス）

授業計画 3：バスケットボール（ランニングシュート・ジャンプシュート）

授業計画 4：バスケットボール（カットインプレー・スクリーンプレー）

授業計画 5：バスケットボール（ルールの確認と戦術）

授業計画 6：バスケットボール（ゲーム）

授業計画 7：バスケットボール（ゲーム）

授業計画 8：フットサル（パス・トラップ）

授業計画 9：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画 1 0：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画 1 1：フットサル（ルールの確認と戦術）

授業計画 1 2：フットサル（ゲーム）

授業計画 1 3：フットサル（ゲーム）

授業計画 1 4：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業計画 1 5：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

保健体育実技Ⅱ（88255）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 N,R,,
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に保健体育実技Ⅰとは異なる球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標 1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標 2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標 3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は技術点と課題レポート、到達目標 2 は授業に取り組む姿勢、到達目標 3 は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画 2：バスケットボール（ドリブル・パス）

授業計画 3：バスケットボール（ランニングシュート・ジャンプシュート）

授業計画 4：バスケットボール（カットインプレー・スクリーンプレー）

授業計画 5：バスケットボール（ルールの確認と戦術）

授業計画 6：バスケットボール（ゲーム）

授業計画 7：バスケットボール（ゲーム）

授業計画 8：フットサル（パス・トラップ）

授業計画 9：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画 1 0：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画 1 1：フットサル（ルールの確認と戦術）

授業計画 1 2：フットサル（ゲーム）

授業計画 1 3：フットサル（ゲーム）

授業計画 1 4：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業計画 1 5：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

日本語Ⅳ（88256）

後期

Japanese IV

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 佐藤友子

授業の概要

大学の授業に必要なアカデミックジャパニーズを習得し、日本語の4 技能において、スムーズに運用できるように、主にN1の文法、語彙に加え、TPOを考えた会話の運用にも取り組みましょう。またニュースなどに関して、注意をむけ関心を持ち、自分の意見を自分の言葉で述べられるようになりましょう。

到達目標

- 1 N1の文法の習得、スムーズな運用
- 2 N1以上の語彙を学び、使うことができる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4 テーマに沿って、自分の意見を持ち、言葉にすることができる。

評価方法

課題レポート提出・発表・確認テストなど70%（到達目標1-5を評価）と定期試験30%（到達目標1-5を評価）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・「日本語能力試験N 1 に合格していない学生は、大学が実施する J t e s t の随時試験を必ず受験すること。」

授業計画

回数	内容
第1回	N1文法3週4日目 語彙演習 会話「相手に安心して話してもらうために」
第2回	N1文法3週5日目 語彙演習 会話「相手の話に共感する」
第3回	N1文法4週1日目 語彙演習 会話「相手の話に共感できない時」
第4回	N1文法4週2日目 語彙演習 会話「相手の話を広げるには」
第5回	N1文法4週3日目 語彙演習 会話「話がわからない時」
第6回	N1文法4週4日目 語彙演習 会話「次の話題に移るとき」
第7回	N1文法4週5日目 語彙演習 模試対策
第8回	N1文法5週 1 日目 語彙演習 模試対策
第9回	N1文法5週 2 日目 語彙演習 模試対策
第10回	JLPT対策
第11回	N1文法 5 週 3 日目 語彙演習 ニュースで聴解
第12回	N1文法 5 週 4 日目 語彙演習 ニュースで聴解
第13回	N1文法 5 週 5 日目 語彙演習 ニュースで聴解
第14回	N1文法6週 1 日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習
第15回	N1文法6週 2 日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習

授業外学習

学習時間の目安 合計60時間

- ・授業の前には文法のテキストを予習しておくこと。
- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。
- ・ニュースなどをみておくこと。毎週順番に関心事などについて、ショートスピーチをしてもらうので、あらかじめ準備しておく。

教科書

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

なし

Japanese IV

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

本科目は、留学生を対象とした科目である。
大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。
読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。
読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、作文を縮約の応用として位置づけ、三段構成（序論・本論・結論）を意識した作文の実践を行う。
【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.敬体の文を「である体」の文に書き換えることができる。
- 2.100～500字程度の文章を、原文の5～6割程度の長さに縮約できる。
- 3.500字程度の文章であれば、2～3回読む程度で大意を把握できる。
- 4.三段構成による作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s t の随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	短文読解・縮約演習
第2回	中文読解・縮約演習
第3回	作文
第4回	短文読解・縮約演習
第5回	中文読解・縮約演習
第6回	作文
第7回	短文読解・縮約演習
第8回	中文読解・縮約演習
第9回	作文
第10回	短文読解・縮約演習
第11回	中文読解・縮約演習
第12回	作文
第13回	短文読解・縮約演習

回数	内容
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付された語句リストの意味・用法を調べる。
- ・文体書き換え課題を14回出題する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3
「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	27 ～ 17 M
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5 扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）、レポート（15％）（到達目標 2 ・ 5 を評価）、定期試験（40％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 10 Art Appreciation
第3回	Unit 9～Unit 10 まとめ
第4回	Unit 11 Let's Eat Out!
第5回	Unit 12 A Career in International Business
第6回	Unit 11～Unit 12 まとめ
第7回	Unit 13 Science for the Future
第8回	Unit 14 Technology and Modern Life
第9回	Unit 13～Unit 14 まとめ
第10回	Unit 15 Saving the Environment
第11回	Special Reading 1
第12回	Unit 15～Special reading 1 まとめ
第13回	Special Reading 2
第14回	Special Reading 3
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解しておく。

教科書

TARGET! pre-intermediate , 著者 Akira Morita, Makiko Iio, Takehiro Hashimoto, Yukinobu Satake, Gordon Myskow 金星堂
ISBN978-4-7647-4017-4

参考書

特になし

備考

特になし

年次	1 年
対象	27 ～ 17 M
単位数	2．0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。

評価方法

- 小テスト（30％）（到達目標 3）
- 中間テスト（30％）（到達目標 1・2）
- 定期テスト（40％）（到達目標 1・2）

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	The Meaning of Dreams
第3回	Seeing the Impossible
第4回	A Penguin Family
第5回	Do Animals Laugh?
第6回	A Love Poem in Stone
第7回	The Great Dome of Florence
第8回	Review Unit 7～9
第9回	A Warming World
第10回	Freaky Forces of Nature
第11回	The Mammoth's Tale
第12回	Sea Monsters
第13回	The Robots Are Coming!
第14回	How Will We Live in 2035?
第15回	Review Unit 10～12

授業外学習

60時間

Vocabulary Practiceの予習 30分

小テストの準備 30分

授業後の復習 1時間

Online Workbook 2時間

教科書

Reading Explorer Foundations Student Book With Online Workbook Access Code (2nd edition) (National Geographic Learning)
ISBN 978-1-305-25450-3

参考書

使いやすい英和辞典（電子辞書も可）

備考

（なし）

年次	1 年
対象	27 ～ 17 B,Y
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に保健体育実技Ⅰとは異なる球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標 1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標 2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標 3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40％：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20％）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は技術点と課題レポート、到達目標 2 は授業に取り組む姿勢、到達目標 3 は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画 2：バスケットボール（ドリブル・パス）

授業計画 3：バスケットボール（ランニングシュート・ジャンプシュート）

授業計画 4：バスケットボール（カットインプレー・スクリーンプレー）

授業計画 5：バスケットボール（ルールの確認と戦術）

授業計画 6：バスケットボール（ゲーム）

授業計画 7：バスケットボール（ゲーム）

授業計画 8：フットサル（パス・トラップ）

授業計画 9：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画 1 0：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画 1 1：フットサル（ルールの確認と戦術）

授業計画 1 2：フットサル（ゲーム）

授業計画 1 3：フットサル（ゲーム）

授業計画 1 4：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業計画 1 5：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

中国語 I（88301）

前期

Chinese I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 趙慧欣

授業の概要

中国語の発音21の字音と36に母音を習う。日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターする
日本語にはない中国語の発音や表現のパターンも考慮した講義内容を配置しており、本文以外に会話文と練習問題を設けているし、回答もテキストにあるので、語学を習得するには練習することは欠かせないことである。学生を主体とした授業を取り組み、自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、自己紹介と簡単な会話ができることを目標とする。

- 1 日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターして活用できる
- 2 基本文法、構文を身につけ応用できる
- 3 中国語で自己紹介ができる

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標2を評価）で総合評価を行う。

注意事項

日本人は中国語を学習する場合、漢字の意味とか日本語と同じのが多いので、習得するのは簡単である。しかし日本語に無い発音があるため、発音の勉強に重点を置く。発音を勉強して初めて聞き取れる、話せるようになるから、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に覚えたセンテンスなどを黒板書いたりする練習をしているので、やれば楽しい学習になる。今まで日本人学生はほとんど優秀な（90点以上）成績を修めている。

授業計画

- 1.日本人の中国語学習の利点と難点
- 2.基本母音
- 3.基本母音の音節
- 4.母音とその表記
- 5.2 1の子音
- 6.子音と母音の音節構成
- 7.断定表現
- 8.「是」を含む文
- 9.時間、曜日、月などに関する表現
- 10.存在表現「在、有」の使い分け
- 11.挨拶言葉
- 12.存在表現「.....着」などの用法
- 13.語順「移動動詞+動作動詞」
- 14.語順「心理動詞+動作動詞」、趣味の表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 中国語の方言、標準語を理解するのにネットで調べてみること
第 2回 基本母音 6 つの母音を書きながら覚えること
第 3回 母音の音節練習すること
第 4回 母音とその表記を覚えるまで練習すること
第 5回 2 1の子音にある「zh ch sh」「f」を練習すること 第6回 子音と母音構成した音節を練習すること

第 7回 断定表現「是」の構文を理解するのにテキストにある練習問題をする

第 8回 「是」を含む文を理解するのにテキストにある練習問題をする

第 9回 「是」についてテキストにある練習問題をする

第10回 存在表現「在」の用法を理解するのにテキストにある練習問題をする

第11回 「在」を含む文を覚えるのに練習問題をする

第12回 「有」の用法を覚えるのに練習問題をする

第13回 「有」を含む文を覚えるのに練習問題をする

第14回 第1課から第 5 課までの文法ポイントの例文を読み直す

第15回 第 5 課を参照しながら作文の練習をする

教科書

大学教育出版「～独学もできる～中国語の基本表現」著者 趙慧欣・趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など 携帯にある辞書の利用も可能

備考

練習問題を課題として各自でやる、講義中に正解と一緒に確認する

年次	1 年
対象	27 ～ 17 K,N,B,Y,M,R,,
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

本講義は、我々人間が基礎的な知識として最低限度理解しておかなくてはならない健康体と健康な生活の関係性について講義する。
内容的には、運動を中心に展開される健康生活を取り巻く色々な事象について取り上げ、健康体の育成への足掛かりを教授するものである。
【アクティブラーニング】グループディスカッションを取り入れています。
【フィードバック】レポートに対する講評を含めた指導を行う。

到達目標

- 1．身体の基本的な構造と機能を理解する
- 2．健康体を維持・増進していく上で必要な生活習慣を把握する
- 3．安全で効果的な健康運動の実践方法を把握する

評価方法

授業に取り組む姿勢（20％：到達目標2・3）、レポート（30％：到達目標2・3）定期試験（50％：到達目標1～3）で総合的に評価する。

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	人間と運動のつながり
第3回	体力とは
第4回	健康とは
第5回	運動処方について
第6回	適度な運動
第7回	健康と運動
第8回	運動強度について
第9回	身体組成
第10回	脂肪分解と運動
第11回	生活習慣病と運動
第12回	ストレスと運動
第13回	休養と健康
第14回	休養と健康
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 30 時間

学内外の図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。
授業内で学んだことを生活の中で実践すること。

教科書

授業時に資料配布

参考書

ヘルスサイエンス 川上雅之他著（不昧堂出版）

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

本科目は、留学生を対象とした科目である。
大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。
読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。
読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、作文を縮約の応用として位置づけ、三段構成（序論・本論・結論）を意識した作文の実践を行う。
【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.3つの文体（です・ます体（敬体）、だ体（常体）、である体（常体））を区別できる。
- 2.文章縮約のための基礎的な技術が身に付く。
- 3.100～500字程度の文章を読んで、センテンス、段落、全文の論理関係を把握できる。
- 4.三段構成を意識した作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s tの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	短文読解・縮約演習
第3回	中文読解・縮約演習
第4回	作文
第5回	短文読解・縮約演習
第6回	短文読解・縮約演習
第7回	作文
第8回	短文読解・縮約演習
第9回	中文読解・縮約演習
第10回	JLPT対策
第11回	短文読解・縮約演習
第12回	J-test 模擬試験
第13回	短文読解・縮約演習

回数	内容
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付された語句リストの意味・用法を調べる。
- ・文体書き換え課題を14回出題する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3
「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

大学の学習に求められる読解力を身に付けるために、論理的に構成された文章を読みます。身近なテーマによる課題文を読むことによって、興味を持ちながら語彙力も高めていきます。そして、新しい文型を学び、作文、発表の応用力を付けていきます。これらの活動を通して言語能力の四技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に伸ばしていきます。

到達目標

- 1． 論理的に構成された文を読み、内容を理解できるようになる。
- 2． 課題文のテーマに即した語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3． 学んだ文型を使って会話をしたり、文章を書いたりできるようになる。

評価方法

- ・ 授業態度・課題レポート・発表・確認テストなど（70%）と、定期試験（30%）で総合評価する。
- ・ 授業内で実施するJtest模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- ・ 教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・ 学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・ 日本語能力試験N2に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・アンケート
第2回	テーマ：「色」 読解「病院の色」、文型
第3回	テーマ：「色」 聴解、作文「私の国の国旗」、色に関する表現、読解「就職活動と色彩心理」
第4回	テーマ：「ユーモア・ジョーク」 読解「エブリル・フール」、文型
第5回	テーマ：「ユーモア・ジョーク」 聴解、作文「新聞記事を書く」、「うそ」のことわざ・川柳、読解「人はなぜウソをつくのか」
第6回	テーマ：「制服」 読解「学校の制服」、文型
第7回	テーマ：「制服」 話そう「服装マナー」、聴解、作文「制服は必要か」、読解「卒業生の学校制服に対する意識調査」
第8回	テーマ：「算数」 読解「計算の方法を説明する」、文型
第9回	テーマ：「算数」 文型、作文「自分にかかわる人」、聴解、
第10回	テーマ：「算数」 作文「投稿に答える」、図形のことば、読解「活用力」

回数	内容
第11回	学習のまとめ
第12回	J - t e s t 模擬試験
第13回	テーマ：「遊びと運動」 聴解、作文「子供のときによくした遊び」、体の部位と動作表現、 読解「ラジオ体操80年持続が大切」
第14回	学習のまとめ
第15回	学習のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計180時間

- ・提示された語句リストの意味・用法を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は提出期限を守って提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-509-1
『日本語総まとめN2文法』アスク出版 ISBN978-4-87217-726-8

参考書

適宜プリントを配布します。

備考

中国語Ⅱ（88351）

後期

Chinese Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 趙慧欣

授業の概要

前期に習った発音と基本表現を覚えた後、表現よりやや長い構文、より多くの動詞、接続表現、語順などを習う

到達目標

- 1 より多くの動詞、接続表現、語順を習って、家族の紹介、身近な日常生活に関することを本を頼らずに自分で作文できる
- 2 口頭発表できる
- 3 疑問代名詞を活用して、相手に何かを尋ねることで会話ができる

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標1を評価）で総合評価を行う。

注意事項

初心者には必ず前期から履修することを勧める。前期に既に発音、簡単な構文を勉強した、中国語Ⅰを終了した学生を対象に設定した講義内容である。講義中にテキスト、ノート等を使用し、自主的に練習する体制を取っているので、積極的にやれば楽しい学習になる。日本人には一番簡単な外国語は中国語です。今までほとんどの学生が優秀な成績を修めている。

授業計画

- 1.介詞「在」の使い方
- 2.「在……工作、在……当、是……」表現
- 3.3種類の趣味に関する表現
- 4.動作動詞、趣味の表現
- 5.語順「去+動作動詞」
- 6.作文「私の家族」
- 7.「ながら……」、「不是……就是……」
- 8.文における動詞の順序
- 9.交通機関の利用に関する表現
- 10.「不+形容詞」「从～到」の使い方
- 11.構文「動詞+了+数量詞」
- 12「また」に当たる中国語の4つの副詞の使い分け
- 13.構文「昨天我做了很多事情」
- 14.使役表現、仮定表現
- 15.総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 介詞「在+動詞」の使い方を理解するのに練習問題をする こと。
- 第 2回 「在……工作、在……当、是……」表現の練習
- 第 3回 趣味に関する表現を整理すること
- 第 4回 作文「我家的早晨」
- 第 5回 交通手段に関する表現を覚えること。
- 第 6回 中国語『移動動詞+動作動詞』の語順を覚えること。
- 第 7回 趣味に関する表現の4種類を理解しながら練習問題を完成すること。
- 第 8回 「動詞+名詞」の用法を理解するのに練習問題をする、「去+動作動詞」の構文を練習し「から～まで」にあたる中国語は二つあるのを覚えること。
- 第 9回 「動詞+了+助数詞」、「また」にあたる中国語の4つの使い分けを理解し、練習問題を参考に練習すること。

第10回 昨日した事を習った表現を用いて作文すること 第9課の練習問題の正解を確認すること

第11回 第10課の文法ポイント 使役表現をまとめて覚えること。

第12回 仮定表現を覚えて作文を書くこと

第13回 命令表現、禁止表現を作文しながら覚えること。

第10課 会話文練習すること。

第14回 習った接続表現で作文を書いてみること。

第15回 ノートの整理をして、復習すること。

教科書

大学出版社 中国語基本表現 著者 趙慧欣 趙慧麗

参考書

日中辞書、中日辞書など、或いは携帯電話の辞書利用も可能

備考

テキストにある練習問題を各自でやることにする、講義中に回答を確認する。

Japanese Ⅲ

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 神田耕太郎

授業の概要

本科目は、留学生を対象とした科目である。
大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。
読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。
読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、作文を縮約の応用として位置づけ、三段構成（序論・本論・結論）を意識した作文の実践を行う。
【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.敬体の文を「である体」の文に書き換えることができる。
- 2.100～500字程度の文章を、原文の5～6割程度の長さに縮約できる。
- 3.500字程度の文章であれば、2～3回読む程度で大意を把握できる。
- 4.三段構成による作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s t の随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	短文読解・縮約演習
第2回	中文読解・縮約演習
第3回	作文
第4回	短文読解・縮約演習
第5回	中文読解・縮約演習
第6回	作文
第7回	短文読解・縮約演習
第8回	中文読解・縮約演習
第9回	作文
第10回	短文読解・縮約演習
第11回	中文読解・縮約演習
第12回	作文
第13回	短文読解・縮約演習

回数	内容
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付された語句リストの意味・用法を調べる。
- ・文体書き換え課題を14回出題する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3
「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

大学の学習に求められる読解力を身に付けるために、論理的に構成された文章を読みます。身近なテーマによる課題文を読むことによって、興味を持ちながら語彙力も高めていきます。そして、新しい文型を学び、作文、発表の応用力を付けていきます。これらの活動を通して言語能力の四技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に伸ばしていきます。

到達目標

- 1． 論理的に構成された文を読み、内容を理解できるようになる。
- 2． 課題文のテーマに即した語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3． 学んだ文型を使って会話をしたり、文章を書いたりできるようになる。

評価方法

- ・授業態度・課題レポート・発表・確認テストなど（70%）と、定期試験（30%）で総合評価する。
- ・授業内で実施するJtest模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・日本語能力試験N2に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。

授業計画

回数	内容
第1回	テーマ：「お金」 読解「古くなったお札の行方」、文型
第2回	テーマ：「お金」 聴解、作文「自国の通貨」、お金のことば・のし袋、読解「お金を投げる・洗う」
第3回	テーマ：「水」 読解「水への関心」、文型
第4回	テーマ：「水」 聴解、プレゼンテーションの原稿「もったいない」、読解「生命にとって水とは何か」
第5回	テーマ：「遺伝」 読解「南米の先住民は全員O型？」、文型
第6回	テーマ：「遺伝」 聴解、作文「性格を表すことば」、読解「アイスマン」
第7回	テーマ：「漫画・アニメ・本」 読解『座談会「漫画について」』、文型
第8回	テーマ：「漫画・アニメ・本」 文型、副詞の整理
第9回	テーマ：「漫画・アニメ・本」 聴解、作文「読書歴」、擬態語、読解「manga」
第10回	学習のまとめ

回数	内容
第11回	テーマ：「ヒトと動物」 読解「ヒトのことばと鳥の歌」、文型
第12回	テーマ：「ヒトと動物」 文型
第13回	テーマ：「ヒトと動物」 聴解、作文「日本語を学習するうえで気をつけること」、動物のことわざ 読解「進化の隣人チンパンジーの子育て」
第14回	学習のまとめ
第15回	学習のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計180時間

- ・提示された語句リストの意味・用法を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は提出期限を守って提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』スリエーネットワーク ISBN978-4-88319-509-1

『日本語総まとめN2文法』アスク出版 ISBN978-4-87217-726-8

参考書

適宜プリントを配布します。

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 W,W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5 扱われて いる話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）、レポート（15％）（到達目標 2 ・ 5 を評価）、定期試験（40％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Lesson 1 Heights
第3回	Lesson 2 Seasons
第4回	Lesson 1～Lesson 2 のまとめ
第5回	Lesson 3 Be careful with your license
第6回	Lesson 4 Doctors
第7回	Lesson 3～Lesson 4 のまとめ
第8回	Lesson 5 Business Hours
第9回	Lesson 6 Public Holidays
第10回	Lesson 5～Lesson 6 のまとめ
第11回	Lesson 7 Your Transport, My Transport
第12回	Lesson 8 Convenience Stores
第13回	Lesson 7～Lesson 8 のまとめ
第14回	Lesson 9 Is it a good noise?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

Viewpoints: Japan and England 著者：Terry O' Brien, Kei Mihara, Shuyo Tatemoto, Hiroshi Kimura
南雲堂：117770-8 B-770 511633

参考書

特になし

備考

特になし

年次	1 年
対象	27 ～ 17 W,W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 江原雅江

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な会話・文章表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため音読やペアワークを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者・話者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につける応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 辞書を引かず継続的にすむ程度の基本的な語彙を身につける活用できる。

評価方法

小テスト－30％（到達目標 3）、中間テスト－30％（到達目標 1・2）、定期テスト－40％（到達目標 1・2）
WEBの宿題の進捗状況が悪い場合は減点の可能性はある。

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。必要であれば辞書を持参のこと（スマホの利用は認めない）。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Meeting New People (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第3回	Meeting New People (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第4回	School Life (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第5回	School Life (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第6回	Seeing a Doctor (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第7回	Seeing a Doctor (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第8回	Review
第9回	Expressing Yourself (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第10回	Expressing Yourself (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第11回	Getting Around (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第12回	Getting Around (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第13回	Talking about the Time (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第14回	Talking about the Time (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第15回	Summary

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

小テストの勉強 30分

WEBの宿題 1時間半

毎日のシャドーイング 15×6日

教科書

Teruhiko Kadoyama Live Escalate Book 1: Base Camp ISBN 978-4-79197221-0

参考書

各自使いやすい英和・和英辞典

備考

(なし)

保健体育実技 I（88403）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 W,W,W
単位数	1. 0 単位
担当教員	 菅正樹

授業の概要

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標 1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標 2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標 3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は技術点と課題レポート、到達目標 2 は授業に取り組む姿勢、到達目標 3 は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画 2：バドミントン（基本練習）

授業計画 3：バドミントン（ルールと戦術）

授業計画 4：バドミントン（ゲーム個人戦）

授業計画 5：バドミントン（ゲーム団体戦）

授業計画 6：卓球（基本練習）

授業計画 7：卓球（ルールと戦術）

授業計画 8：卓球（ゲームと個人戦）

授業計画 9：卓球（ゲームと団体戦）

授業計画 10：ソフトボール（キャッチボール・トスバッティング）

授業計画 11：ソフトボール（ノック・フリーバッティング）

授業計画 12：ソフトボール（ゲーム）

授業計画 13：ソフトボール（ゲーム）

授業計画 14：ソフトボール（ゲーム）

授業計画 15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計 15 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 23 R,,
単位数	2．0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をし応用できる。
- 3 文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 4 語彙を増強し活用できる。

評価方法

小テスト（到達目標：4）（30％）中間テスト（到達目標：1～3）（30％）定期テスト（到達目標：1～3）（40％）

注意事項

英和辞典を持参し、積極的に取り組むこと。よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。
学生番号順に席を指定するが、事情がある場合は調整するので個人的に相談してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明・自己紹介
第2回	The Incredible Dolphin
第3回	The Trip of a Lifetime
第4回	The Trip of a Lifetime
第5回	Adventure Islands
第6回	Move to the Music
第7回	A Musical Boost
第8回	中間まとめ
第9回	Life Beyond Earth?
第10回	Living in Space
第11回	Global Cities
第12回	A Taste of Two Cities
第13回	In One Cubic Foot
第14回	What's in Your Neighborhood?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

Before You Read, Vocabulary Practiceの予習 1.5時間。

Online Workbookでの全体復習 2時間。

小テスト用復習 30分。

教科書

Reading Explorer with Online Workbook Access Code (Third Edition) Level 1

(National Geographic Learning)

ISBN-13:978-0-357-12351-5

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

(なし)

English I

教養科目

年次	1年
対象	27 ～ 23 R,,
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1 英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5扱われて いる話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）、レポート（15％）（到達目標 2 ・ 5 を評価）、定期試験（40％）（到達目標 1 ・ 3 ・ 4 を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1 回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1 Who Is Pepper?
第3回	Unit 2 What's It Like to Be a Self-Sufficient Family?
第4回	Unit 1～Unit 2 のまとめ
第5回	Unit 3 Why Did Starbucks Became a Hit in Japan?
第6回	Unit 4 How Do Americans Celebrate Halloween?
第7回	Unit 3～Unit 4 のまとめ
第8回	Unit 5 Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae?
第9回	Unit 6 Are You Going Cashless?
第10回	Unit 5～Unit 6 のまとめ
第11回	Unit 7 Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long?
第12回	Unit 8 Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel?
第13回	Unit 7～Unit 8 のまとめ
第14回	Unit 9 What Will Space Travel Be Like in the Future?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

Reading Link 金星堂 著者：Robert Hickling, Misato Usukura
金星堂：ISBN978-4-7647-4100-3 C1082

参考書

特になし

備考

特になし

保健体育実技 I（88406）

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 K,N,B,Y,M,R,,
単位数	1． 0 単位
担当教員	菅正樹

授業の概要

健康でしなやかな身体を作りを目指し、ダンスや身体表現を通して、他者との関りを持ち、グループ、または個人を非言語で身体表現することの意義や重要性を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】ダンスや身体表現に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

1. 自身の身体を理解し、非言語表現身体表現の意義や重要性を理解する。
2. 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、生涯に必要な運動が習得することが出来るようになる。
3. 他者を理解し、コミュニケーション能力を習得することが出来るようになる。

評価方法

学習態度（積極性、理解度、コミュニケーション、技術の向上：到達目標 1 ～ 3） 6 0 %、実技課題 4 0 %（到達目標 1 ・ 2）で総合的に判断する。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画 1：オリエンテーション

授業計画 2：スタティックストレッチ①

授業計画 3：スタティックストレッチ②

授業計画 4：ダイナミックストレッチ①

授業計画 5：ダイナミックストレッチ②

授業計画 6：ストレッチと筋力トレーニング

授業計画 7：リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング①

授業計画 8：リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング②

授業計画 9：リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング③

授業計画 1 0：アイソレーション①

授業計画 1 1：アイソレーション②

授業計画 1 2：アイソレーション③

授業計画 1 3：ダンスステップ①

授業計画 1 4：ダンスステップ②

授業計画 1 5：ダンスステップ③

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、ダンス・身体表現に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 W,W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

本講義は、我々人間が基礎的な知識として最低限度理解しておかなくてはならない健康体と健康な生活の関係性について講義する。
内容的には、運動を中心に展開される健康生活を取り巻く色々な事象について取り上げ、健康体の育成への足掛かりを教授するものである。
【アクティブラーニング】グループディスカッションを取り入れています。
【フィードバック】レポートに対する講評を含めた指導を行う。

到達目標

- 1．身体の基本的な構造と機能を理解する
- 2．健康体を維持・増進していく上で必要な生活習慣を把握する
- 3．安全で効果的な健康運動の実践方法を把握する

評価方法

授業に取り組む姿勢（20％：到達目標2・3）、レポート（30％：到達目標2・3）定期試験（80％：到達目標1～3）で総合的に評価する。

注意事項

特になし

授業計画

	回数	内容
第1回		オリエンテーション
第2回		人間と運動のつながり
第3回		体力とは
第4回		健康とは
第5回		運動処方について
第6回		適度な運動
第7回		健康と運動
第8回		運動強度について
第9回		身体組成
第10回		脂肪分解と運動
第11回		生活習慣病と運動
第12回		ストレスと運動
第13回		休養と健康
第14回		休養と健康
第15回		まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 30 時間

学内外の図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。
授業内で学んだことを生活の中で実践すること。

教科書

授業時に資料配布

参考書

ヘルスサイエンス 川上雅之他著（不昧堂出版）

備考

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	27 ～ 17 W,W,W
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5 扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標1・3・4を評価）、レポート（15％）（到達目標2・5を評価）、定期試験（40％）（到達目標1・3・4を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Lesson 10 Fireworks
第3回	Lesson 9～ Lesson 10 まとめ
第4回	Lesson 11 Public or Private
第5回	Lesson 12 Technology
第6回	Lesson 11～ Lesson 12 まとめ
第7回	Lesson 13 Weddings
第8回	Lesson 14 Dialects
第9回	Lesson 13～ Lesson 14 まとめ
第10回	Lesson 15 Winter Warmth
第11回	Special Reading 1
第12回	Lesson 15～Special Reading 1 まとめ
第13回	Special Reading 2
第14回	Special Reading 3
第15回	総まとめ

授業外学習

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

Viewpoints: Japan and England 著者：Terry O' Brien, Kei Mihara, Shuyo Tatemoto, Hiroshi Kimura
南雲堂：117770-8 B-770 511633

参考書

特になし

備考

特になし

年次	1年
対象	27 ～ 17 W,W,W
単位数	2．0単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をし応用できる。
- 3 語彙を増強し活用できる。

評価方法

小テスト（到達目標：3）（30％）中間テスト（到達目標：1～3）（30％）定期テスト（到達目標：1～3（および5））（40％）

注意事項

よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。
学生番号順に席を指定するが、事情がある場合は調整するので個人的に相談してほしい。スマホ使用は不可とする。

授業計画

回数	内容
第1回	英語I定期テストのフィードバック
第2回	Eating Out (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第3回	Eating Out (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第4回	At the Supermarket (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第5回	At the Supermarket (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第6回	Hobbies (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第7回	Hobbies (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第8回	中間まとめ
第9回	Shop Till You Drop (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第10回	Shop Till You Drop (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第11回	Going on Vacation (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第12回	Going on Vacation (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第13回	Sports (Communication Strategy / Vocabulary / Conversation)
第14回	Sports (Grammar / Reading / Writing / Challenge Yourself)
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

小テスト用復習 30分。

オンライン教材など復習 1時間

シャドウイング・音読 5分×6

教科書

Teruhiko Kadoyama, Live Escalate Book 1 : Base Camp (成美堂)

ISBN978-407919-7221-0

参考書

各自の使いやすい英和辞典

(電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)

備考

(なし)

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1年
対象	27 ～ 17 W,W,W
単位数	1．0単位
担当教員	👤 大家一

授業の概要

健康の保持増進という観点から、各種実技種目を通じて呼吸循環器系に適切な運動負荷を与えることを目的とし、健康体に関する各種運動・スポーツの重要性を理解させる。また、器具を用いない基本的な有酸素運動（ジョギング・ウォーキング）の技術を習得し、日常生活に則した健康体の保持増進に対して理解を深めさせる。

【アクティブラーニング】グループワークを取り入れています。

【フィードバック】技術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

- 1「有酸素運動実践のために、負荷の設定方法や心拍数の測定方法を身につける」
- 2「健康運動・軽運動の技術を身につける」

評価方法

授業に取り組む姿勢（40％：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（30％）、課題レポート（30％）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は授業に取り組む姿勢と課題レポート、到達目標2は技術点で評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

雨天・その他の状況により種目の変更がある。

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、レクリエーションゲーム
第2回	器具を用いない運動（1）ジョギング（指導・実践上の注意点と速度変化）
第3回	器具を用いない運動（2）ジョギング（速度と時間の関係）
第4回	器具を用いない運動（3）ジョギング（心拍数の変化）
第5回	器具を用いない運動（4）ウォーキング（指導・実践上の注意点と速度変化）
第6回	器具を用いない運動（5）ウォーキング（速度と時間の関係）
第7回	器具を用いない運動（6）ウォーキング（心拍数の変化）
第8回	健康運動としてのジョギング・ウォーキング
第9回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム
第10回	健康運動・軽運動としてのバドミントン
第11回	健康運動・軽運動としてのサッカー
第12回	健康運動・軽運動としてのソフトボール

回数	内容
第13回	健康運動・軽運動としてのバレーボール
第14回	健康運動・軽運動としてのバスケットボール
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

・ジョギング・筋力トレーニング等を週に3回以上の頻度で行うこと。

教科書

無

参考書

資料配布

備考

年次	1年
対象	27～17R,,
単位数	2.0単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。解読のような従来の和訳中心の授業を脱し、学習者の習熟度に合わせた多読を行う。重要な文章や表現は小テストなどを課して定着を図る。効果的に学習するため、英語表現、文法問題、音読などを実践し、授業後に英語が頭に残ることをめざす。それにより、英語の聴取能力や作文能力も身につけることが可能である。受動的に教わる英語から脱し、自らの英語力を伸ばせるよう能動的に参加する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をし読解に応用できる。
- 3 文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 4 語彙を増強し活用できる。
- 5 習熟度に合わせて、内容に関する意見を述べる英作文を作成できる。

評価方法

小テスト（到達目標：4）（30％）中間テスト（到達目標：1～3）（30％）定期テスト（到達目標：1～3（および5））（40％）

注意事項

よい授業環境の確保のため、小テストは始業チャイムと同時に配布し実施する。
学生番号順に席を指定するが、事情がある場合は調整するので個人的に相談してほしい。
意見を述べる英作文に必要であれば英和のみならず和英辞典も準備すること。電子辞書も可。スマホ使用は不可とする。

授業計画

回数	内容
第1回	概要説明・自己紹介
第2回	The Truth about Dinosaurs
第3回	Mystery of the Terrible Hand
第4回	The Brothers Grimm
第5回	The Seven Ravens
第6回	Meet the Meteorite Hunter
第7回	Smokejumpers
第8回	中間まとめ
第9回	The Army's True Colors
第10回	Wonders of Egypt
第11回	The Problem with Plastic
第12回	Five Tips for Using Less Plastic
第13回	Mystery on the Mountain
第14回	The Missing Pilot

回数	内容
第15回	総まとめ
授業外学習 学習時間の目安：合計 6 0 時間 Before You Read, Vocabulary Practiceの予習 1.5時間。 Online Workbookでの全体復習 2時間。 小テスト用復習 30分。	
教科書 Reading Explorer with Online Workbook Access Code (Third Edition) Level 1 (National Geographic Learning) ISBN-13:978-0-357-12351-5	
参考書 各自の使いやすい英和辞典 (電子辞書は認めるがスマートフォン等は不可)	
備考 (なし)	

年次	1年
対象	27 ～ 17 R,,
単位数	2．0単位
担当教員	 谷川真利子

授業の概要

1英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。
- 4 基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5 扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト（45％）（到達目標1・3・4を評価）、レポート（15％）（到達目標2・5を評価）、定期試験（40％）（到達目標1・3・4を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 10 What Makes the Amazon One of the Most Amazing Places?
第3回	Unit 9～Unit 10 のまとめ
第4回	Unit 11 Who Can Be a YouTuber?
第5回	Unit 12 What Have Plastics Done to Our Oceans?
第6回	Unit 11～Unit 12 のまとめ
第7回	Unit 13 What Would We Do If We Didn't have Dogs?
第8回	Unit 14 How Was Conveyor Belt Sushi Born?
第9回	Unit 13～Unit 14 のまとめ
第10回	Unit 15 How about Jeans that Have a History?
第11回	Special Reading 1
第12回	Unit 15～Special Reading 1 のまとめ
第13回	Special Reading 2
第14回	Special Reading 3
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。

教科書

Reading Link 金星堂 著者：Robert Hickling, Misato Usukura
金星堂：ISBN978-4-7647-4100-3 C1082

参考書

特になし

備考

特になし

保健体育実技Ⅱ（88457）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 K,N,B,Y,M,R,,
単位数	1． 0 単位
担当教員	人 菅正樹

授業の概要

健康でしなやかな身体を作りを目指し、ダンスや身体表現を通して、他者との関りを持ち、グループ、または個人を非言語で身体表現することの意義や重要性を学ぶ。

保健体育実技Ⅰで行ったダンスや身体表現をさらに発展させる。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】ダンスや身体表現に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

1. 自身の身体を理解し、非言語表現身体表現の意義や重要性を理解する。
2. 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、生涯に必要な運動が習得することが出来るようになる。
3. 他者を理解し、コミュニケーション能力を習得することが出来るようになる。

評価方法

学習態度（積極性、理解度、コミュニケーション、技術の向上：到達目標1～3）60％、実技課題40％（到達目標1・2）で総合的に判断する。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーション

授業計画2：スタティックストレッチ①

授業計画3：スタティックストレッチ②

授業計画4：ダイナミックストレッチ①

授業計画5：ダイナミックストレッチ②

授業計画6：ストレッチと筋力トレーニング

授業計画7：リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング①

授業計画8：リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング②

授業計画9：リズムトレーニングとコンディネーショントレーニング③

授業計画10：アイソレーション①

授業計画11：アイソレーション②

授業計画12：アイソレーション③

授業計画13：ダンスステップ①

授業計画14：ダンスステップ②

授業計画15：ダンスステップ③

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、ダンス・身体表現に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 太田由佳

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば改善・補強をし、文法事項を確認しながら多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を広げ活用できる。

評価方法

- 小テスト（40％）（到達目標3を評価）
- 中間テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）
- 定期テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

授業計画

- 回数 内容
- 第1回 オリエンテーション・自己紹介
 - 第2回 News 1 Cash loses out to electronic money
 - 第3回 News 2 Japanime overtakes Disneyland as world's most popular theme park
 - 第4回 News 3 Japan's unemployment hits 30% as AI advances
 - 第5回 News 4 Hamburger made of real beef
 - 第6回 News 5 Shinkansen takes its last passenger
 - 第7回 News 6 English removed from the Center Test
 - 第8回 News 1~6 中間テスト・解説
 - 第9回 News 7 Passports no longer required for international travel
 - 第10回 News 9 First humans to set foot on Mars
 - 第11回 News 10 Japan joins . . .
 - 第12回 News 11 Japan's population
 - 第13回 News 13 Radical new university curriculum
 - 第14回 News 14 Two die in first flying car accident
 - 第15回 News 15 First snowless year on Mt. Fuji

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 毎時予習として、わからない語彙などを事前に調べておくこと。
- 毎回小テストを行うので、復習をしておく。

教科書

News Reports from Japan's Next Generation Future Times
Paul Stapleton, Atsuko Uemura
(National Geographic Learning)
ISBN978-4-86312-367-0

参考書

英和辞典

備考

(なし)

English I

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 三宅伸子

授業の概要

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 語彙を広げ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題（20％）（到達目標1・2），小テスト・中間まとめ（40％）（到達目標1・2），定期考査（40％）（到達目標1・2）

注意事項

教科書、辞書、ファイルを必ず用意し，十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	1 This is my first trip abroad. （語彙・文法・会話文）
第3回	1 This is my first trip abroad. （問題演習・長文）
第4回	2 Do you have anything to declare? （語彙・文法・会話文）
第5回	2 Do you have anything to declare? （問題演習・長文）
第6回	3 How was your flight to Los Angeles? （語彙・文法・会話文）
第7回	3 How was your flight to Los Angeles? （問題演習・長文）
第8回	4 Are you still feeling tired? （語彙・文法・会話文）
第9回	4 Are you still feeling tired? （問題演習・長文）
第10回	5 What are we going to do in the afternoon? （語彙・文法・会話文）
第11回	5 What are we going to do in the afternoon? （問題演習・長文）
第12回	6 It's called Mountain Grove. （語彙・文法・会話文）

回数	内容
第13回	6 It's called Mountain Grove. (問題演習・長文)
第14回	7 How would you like your steak? (語彙・文法・会話文)
第15回	7 How would you like your steak? (問題演習・長文)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：「WARM-UP: Vocabulary Preview, Grammar Point」「Let's Listen!」「Grammar」の問題を解く。「Let's Read」本文の意味調べと問題をする。

復習：「Vocabulary Preview」「Grammar」「Let's Review!」「リンガポルタ」で復習をする。

教科書

書名：Let's Read Aloud & Learn English : Going Abroad 音読で学ぶ基礎英語《海外生活編》

著者：角山照彦, Simon Capper, 遠藤利晶

出版社：成美堂

ISBN 978-4-7919-7226-5

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

英会話 I (TOEIC) (88503)

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 Glenn Sumner

授業の概要

TOEICは問題や選択肢など全て英語で書かれています。英文を日本語に訳したり、日本語を英語に訳したりする問題はありません。英語は日本語の語順と異なります。TOEICのリスニングセクションやリーディングセクションのスコアを伸ばすためには、英語を英語の語順で理解する力を鍛える必要があります。そのために練習問題を通じて語彙、語法、典型的な文法、聴解、読解の基礎知識を習得します。

TOEIC I の授業では語彙、語法、文法、聴解、読解の基礎知識習得の内容になります。
TOEIC II の授業は問題の特徴・タイプ別に戦略的に問題を解く、より実践的な内容になります。
TOEIC II を受講する前にTOEIC I を受講することをおすすめします。

到達目標

- 1 語彙の知識を増やしてリスニングとリーディングの基礎的な知識を修得し応用できる。
- 2 基本構文の構造を理解し、英文を読むスピードが上がる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。評価は授業態度(予習を含む)(20%) (到達目標 1 ・ 2) 、宿題(10%) (到達目標 1 ・ 2) 、小テスト／研究課題(20%) (到達目標 1 ・ 2) 、定期試験(50%) (到達目標 1 ・ 2) で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3 回で欠席1 回とする。30 分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
第2回	第1部 Part 1 & 2
第3回	Part 3
第4回	Part 4
第5回	Part 5
第6回	Part 6
第7回	Part 7
第8回	第2部 On the Move
第9回	On the Menu / On the Itinerary
第10回	On Sale / On Order
第11回	Off the Clock
第12回	On the Air

回数	内容
第13回	On the Agenda
第14回	At the Office
第15回	During the Interview

授業外学習

テキスト出版元がテキストを使用する学生向けに提供するWeb英語学習システムを用いて自習を行います。授業外の問題に挑戦して英語力を高めていきます。

教科書

TOP TIPS FOR THE TOEIC L&R TEST (考えて解くTOEIC L&R TEST 実践演習) |

著者: Shari J. Berman / 小林 裕子 / 早坂 信 著 |

株式会社成美堂 |

ISBN: 9784791972142

参考書

適宜紹介する

備考

(なし)

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 Huynh Khanh

授業の概要

英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。
海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1.日常会話に必要な語彙を覚え、正確に発音することができる。
- 2.自分の考えや相手に対する質問を、英語で伝えることができる。
- 3.質問を聞き取り、その質問に対し適切に応答することができる。

評価方法

授業態度・小テスト：3 0 %（到達目標1）
中間テスト：3 0 %（含口頭発表）（到達目標2・3）
定期テスト：4 0 %（含口頭発表）（到達目標2・3）

注意事項

テキストを必ず購入し、事前に単語調をし指示された問題を解いておく。

授業計画

回数	内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 1: Hi, I'm Rina.
第3回	Unit2: How do you spell that?
第4回	Unit 3: What's the time?
第5回	Unit 4: Where are you from?
第6回	Unit 5: What's your favorite food?
第7回	Unit 6: How often do you get your hair cut?
第8回	Review : Unit 1~6
第9回	Unit 7: What kinds of music do you like?
第10回	Unit 8: Who's older, you or your sister?
第11回	Unit 9: How was your weekend?
第12回	Unit 10: Have you ever been abroad?
第13回	Unit 11: What kinds of movies do you like?
第14回	Unit 12: What's the weather going to be like?
第15回	Review : Unit 7~12

授業外学習

学習時間の目安：合計約60時間

単語・問題の予習 30分

小テストの準備 30分

授業の復習としての音読練習 30分×6

教科書

ジョセフ・クローニン 「New Getting Into English 始めよう英会話！＜改定新版＞」（南雲堂、2200円）

ISBN: 978-4-523-17918-4

参考書

英和・和英辞典 (電子辞書も可)

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

English IV

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

基本英語、英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲあるいは英会話Ⅰで身につけた語彙や文法表現を用いて、主に英作文によってアウトプットする能力を育成するため、パラグラフライティングの学習を行う。

単一の学科ではなく全学から参加できる科目であるため、学部や大学院の専門英作文のみならず、就職対策にも役立てることができるはずである。

順を追って積み上げてゆくテキストを用い、自発的に学ぶことで、ライティングスキルを段階的に身につけることを目的としている。

到達目標

- 1 文をつなぐ表現や便利な表現を予め提示したテキストの課題に従い、段階的に英文が作成できるようになる
- 2 難解なことばなどをいかに自分の知るやさしい表現で伝えるか、という切り替えができることで、そのスキルが英会話にも活かせるようになる
- 3 実際に書いたものを発表することで、互いに批評し学生間で弱点や長所といったポイントを指摘しあえる
- 4 語彙を拡大する
- 5 基本的な文法を復習する

評価方法

毎回書き上げたものを音読し、学生間でコメントを言い合うが、それを毎回提出し添削を受けることで段階的によりよいものに仕上げていく。

発表とコメント10%（到達目標3・4）、提出物80%（到達目標1・2）、3回の小テスト10%（到達目標5）で評価する。

注意事項

自発的に取り組まねばならない授業形態なので、みずから英作文をするという目的意識を持って参加して欲しい。

辞書をしっかり引き、テキストの表現にならうことは必要だが、翻訳ソフト等でまるごと写すことでは学力向上につながらないことを、あたりまえではあるが心得てほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス・自己紹介など
第2回	Self Introduction
第3回	Past Memories
第4回	My Daily Life
第5回	My Beliefs
第6回	My Future Profession
第7回	People I Respect
第8回	Things I Treasure
第9回	Looking Back
第10回	Places Worth Visiting
第11回	(Un) Pleasant Things
第12回	Writing a Story

回数	内容
第13回	Words in my Vocabulary
第14回	Talking about "Types"
第15回	Presentation

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・モデルパラグラフの読み（30分）
- ・つなぐ表現と便利な表現の書き込みによる予習（60分）
- ・添削のアドバイスに従った推敲（90分）
- ・習熟度に応じた英文法の問題を解く（30分）
- ・文法宿題（30分）

教科書

A Passage to Paragraph Writing, Koki Endo 著 （センゲージラーニング）

ISBN978-4-86312-182-9

参考書

使いやすい英和・和英・英英辞典など（電子辞書でもよいが、スマートフォン等は不可）

備考

（なし）

EnglishⅡ

教養科目

年次	1年
対象	27～17N
単位数	2.0単位
担当教員	 太田由佳

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者となるための英文読解能力を文法・語法面から身につけ活用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば改善・補強をし、文法事項を確認しながら多くの英文を読み進むことができる。
- 3 語彙を増やし活用できる。

評価方法

- 小テスト（40％）（到達目標3を評価）
- 中間テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）
- 定期テスト（30％）（到達目標1, 2を評価）

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

授業計画

- | 回数 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | Chapter 1 Johannes Vermeer & The Milkmaid |
| 第3回 | Chapter 3 Vincent van Gogh & The Potato Eaters |
| 第4回 | Chapter 4 Paul Gauguin & Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going? |
| 第5回 | Chapter 5 Michelangelo Merisi da Garavaggio & Supper at Emmaus |
| 第6回 | Chapter 6 Jean-Baptiste Simeon Chardin & The Prayer before Meal |
| 第7回 | Chapter 7 Jean-Etienne Liotard & The Chocolate Girl |
| 第8回 | 中間テスト・解説 |
| 第9回 | Chapter 8 Edouard Manet & The Luncheon on the Grass |
| 第10回 | Chapter 9 Perre-Auguste Renoir & Luncheon of the Boating Party |
| 第11回 | Chapter 10 Utagawa Kuniyoshi & Enchu hassen ka |
| 第12回 | Chapter 11 Alfons Maria Mucha & Biscuits LeFevre-Utile |
| 第13回 | Chapter 12 Marc Chagall & Birthday |
| 第14回 | Chapter 13 Edward Hopper & Nighthawks |
| 第15回 | Chapter 14 Andy Warhol & Campbell's Soup Cans |

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎時予習として、わからない語彙などを事前に調べておくこと。
毎回小テストを行うので、復習をしておく。

教科書

A View from Painter's Palettes: Food and Culture
絵画を彩る食文化
John Norman, Maho Matsui, Fujiko Motoyama
(朝日出版社)
ISBN978-4-255-15644-6

参考書

英和辞典

備考

(なし)

EnglishⅡ
教養科目

年次	1年
対象	27～17N
単位数	2.0単位
担当教員	 三宅伸子

授業の概要

英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる。自立した英語読者となるための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2 語彙を増やし活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題（20％）（到達目標1・2）、小テスト・中間まとめ（40％）（到達目標1・2）、定期考査（40％）（到達目標1・2）

注意事項

教科書、辞書、ファイルを必ず用意し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	8 How long have you felt this way? （語彙・文法・会話文）
第2回	8 How long have you felt this way? （問題演習・長文）
第3回	9 I think I'm lost. （語彙・文法・会話文）
第4回	9 I think I'm lost. （問題演習・長文）
第5回	10 Do you want me to take your picture? （語彙・文法・会話文）
第6回	10 Do you want me to take your picture? （問題演習・長文）
第7回	11 I've lost my phone. （語彙・文法・会話文）
第8回	11 I've lost my phone. （問題演習・長文）
第9回	12 I love roller coasters! （語彙・文法・会話文）
第10回	12 I love roller coasters! （問題演習・長文）
第11回	13 Let me introduce my friend. （語彙・文法・会話文）

回数	内容
第12回	13 Let me introduce my friend. (問題演習・長文)
第13回	14 I'd like to pay by credit card. (語彙・文法・会話文)
第14回	14 I'd like to pay by credit card. (問題演習・長文)
第15回	15 I'm looking forward to seeing you again. (語彙・文法・会話文)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：「WARM-UP: Vocabulary Preview, Grammar Point」「Let's Listen!」「Grammar」の問題を解く。「Let's Read」本文の意味調べと問題をする。

復習：「Vocabulary Preview」「Grammar」「Let's Review!」「リンガボルト」で復習をする。

教科書

書名：Let's Read Aloud & Learn English : Going Abroad 音読で学ぶ基礎英語《海外生活編》

著者：角山照彦, Simon Capper, 遠藤利晶

出版社：成美堂

ISBN 978-4-7919-7226-5

参考書

特になし

備考

(なし)

英会話Ⅱ (TOEIC) (88554)

後期

English Conversation Ⅱ

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 Glenn Sumner

授業の概要

TOEICは問題や選択肢など全て英語で書かれています。英文を日本語に訳したり、日本語を英語に訳したりする問題はありません。英語は日本語の語順と異なります。TOEICのリスニングセクションやリーディングセクションのスコアを伸ばすためには、英語を英語の語順で理解する力を鍛える必要があります。そのために練習問題を通じて語彙、語法、典型的な文法、聴解、読解の基礎知識を習得します。TOEICⅠの授業では語彙、語法、文法、聴解、読解の基礎知識習得の内容になります。TOEICⅡの授業は問題の特徴・タイプ別に戦略的に問題を解く、より実践的な内容になります。TOEICⅡを受講する前にTOEICⅠを受講することをおすすめします。

到達目標

- 1 語彙の知識を増やしてリスニングとリーディングの基礎的な知識の習得し活用できる。
- 2 基本構文の構造を理解し、素早く英文を読むことができる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。評価は授業態度(予習を含む)(20%)（到達目標 1 ・ 2 ）、宿題(10%)（到達目標 1 ）、小テスト／研究課題(20%)（到達目標 1 ・ 2 ）、定期試験(50%)（到達目標 1 ・ 2 ）で判定する。

注意事項

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、コースのガイダンス、発音
第2回	Restaurant
第3回	Department Store
第4回	Train Station
第5回	Transportation
第6回	Post Office
第7回	Bank
第8回	Airport
第9回	Hotel
第10回	Hospital
第11回	Events and Performances
第12回	College
第13回	Office
第14回	Business Trip

回数	内容
第15回	Sightseeing

授業外学習

テキスト出版元にアップロードされた音声ファイルを聴いて復習や自習を行います。
ネイティブの発音とスピードで何度も繰り返し聴いて英語を聴く耳を鍛えます。

教科書

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R TEST (TOEIC L&R TEST オールラウンド演習)

著者: 石井 隆之 / 平田 千夏 / 松村 優子 / 山口 修 / 岩田 雅彦 / Joe Ciunci 著

株式会社成美堂

ISBN: 9784791972135

参考書

適宜紹介する。

備考

(なし)

英会話 I（88555）

後期

English Conversation I

教養科目

年次	2 年
対象	26 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 Huynh Khanh

授業の概要

英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。
海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1 自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につける。
- 2 ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行えるようになる。
- 3 頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口をついて出るようになる。

評価方法

授業態度・小テスト－3 0 %（到達目標1）、中間テスト－3 0 %（含口頭発表）、（到達目標 2・3）、定期テスト－4 0 %（含口頭発表）（到達目標 2・3）

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	You and Me
第3回	Growing Up
第4回	At Home and at School
第5回	Going Out
第6回	Food and Drink
第7回	The Future
第8回	Review Unit 1～6
第9回	Travel
第10回	Entertainment
第11回	Staying Healthy
第12回	People I Know
第13回	Storytelling
第14回	Society
第15回	Review Unit 7～12

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

ヴォキャブラリーの予習 30分

小テストの準備 30分

授業の復習としてのシャドーイング練習 30分×6

教科書

Herman Bartelen著 Take It Easy (2nd edition) (National Geographic Learning)

978-4-86312-384-7

参考書

各自使いやすい英和・和英辞典 (電子辞書は構わないが、スマホは使用不可)

備考

(なし)

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 矢吹香月

授業の概要

日本国憲法が制定された歴史的経緯を踏まえ、日本国憲法が保障している基本的人権について、判例を題材として日常生活の側面からアプローチして解説を行う。基本的知識を活用して、日常生活における身近な社会問題から、個を尊重し、他者も尊重するために必要な法律について考える力を身につけ、現代社会の様々な事象を憲法価値の実現の視点で考えることができるようにすることを目的としたい。

【アクティブ・ラーニング】「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを論理的に述べる力を養いたい。

到達目標

- 1 憲法の位置付けについて理解し説明できる。
- 2 日本国憲法の成立過程について理解し説明できる。
- 3 日本国憲法が保障する基本的人権について理解し自分の言葉で説明できる。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1-3を評価）

中間テスト：評価の割合35%（到達目標1－3を評価）

期末テスト：評価割合35%（到達目標1-3を評価）

* 合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス 法とは何か：法と法律の基礎知識を学びます。
第2回	憲法とは何か①：なぜ憲法が必要かを学びます。
第3回	憲法とは何か②：日本国憲法の制定過程および人権規定が制定された経緯を学びます。
第4回	日本国憲法を生んだ密室の9日間（DVD視聴）：日本国憲法成立の経緯について、当時草案作成にかかわったメンバーのインタビューを視聴して制定背景を学びます。
第5回	政治の仕組み・内閣のはたらき：人権を守るための組織を学びます。
第6回	憲法司法①：裁判所はたらき、違憲審査権について学びます。
第7回	憲法と司法②：人身の自由と刑事手続き上の諸権利について学びます。
第8回	中間テスト：中間テストでこれまでの学びを確認します。
第9回	憲法と人権：日本国憲法の定める人権の特徴と日本にいる外国人の権利を学びます。
第10回	憲法と消費者①：憲法と民法の関係と日本国憲法に規定されている営業の自由について学びます。
第11回	憲法と消費者②：新しい人権について学びます。
第12回	憲法と家族①：結婚について学びます。
第13回	憲法と家族②：女性の人権について学びます。

回数	内容
----	----

第14回	憲法と家族③：子どもの人権について学びます。
------	------------------------

第15回	憲法と子ども
------	--------

授業外学習

高等学校までに学んだ公民科（現代社会・政治経済）を復習しておいてください。

現代社会で問題となっている事象に目を向け、問題点は何かを整理し、憲法の視点で考えることができるようにしてください。

教科書

中富公一編『憲法のちから』（法律文化社、2021）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「文化と芸術」系列の教養科目である。

哲学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をともないながら現代社会・国際社会に対応・貢献するための、幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、哲学の位置づけ、および実践哲学としての倫理学・道徳学における主要な視点・方法・論点を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、現代社会に大きな影響を与える西洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、現代日本にも大きな影響を与える東洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 1.実践哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 2.西洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 3.東洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 4.哲学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第05回の1/3まとめ時におこなう解説文作成問題（30％）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標3・4を評価

注意事項

哲学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス／現代社会と哲学 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	実践哲学① 自己と他者 予習：人格同一性・仏教の渴愛について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	実践哲学② 道徳と法 予習：直躬説話・尊属殺・キケロ・カントについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第4回	実践哲学③ 西洋と東洋 予習：語句「西洋」「東洋」「文化」について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：実践哲学の視点・方法・論点を整理する。
第6回	西洋哲学① 功利主義 予習：ベンサム・JSミル・規則功利主義について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	西洋哲学② 自由主義 予習：危害原則・愚行権について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	西洋哲学③ 構造主義 予習：レヴィ＝ストロース・フーコーについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	西洋哲学④ 正義論 予習：ロールズ・無知のベールについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：西洋哲学の視点・方法・論点を整理する。
第11回	東洋哲学① 天と道と気 予習：論語・老子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	東洋哲学② 性命と身体 予習：本性論・経絡について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	東洋哲学③ 仁義と忠孝 予習：孟子・韓非子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	東洋哲学④ 無為と自然 予習：老子・莊子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：東洋哲学の視点・方法・論点を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 23 R,,
単位数	2． 0 単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 4 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～4を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2 ～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

Physics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 山本健治

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群の一つである。
押し相撲では、相手から受ける「力の持続」が自分を後退させる。ボール投げでも、手から受ける「力の持続」がボールの勢いを増やしている。ニュートンにとって「持続的作用」は「力積（力の時間積分）」であった。デカルトはビリヤードに興じ、球の衝突を真剣に考えたことから、いち早く「運動量を変化させる」素因に気づいた。ただ、微積分法の発見はニュートンを待たねばならなかった。
人類が自然を理解してきた歴史は、完成された学問体系より数奇で味わい深い。身近な現象でさえも、偉大な発見の履歴をたどれば、かつては未知の世界のテーマであった。「運動量の変化」と「力積」の関係が運動方程式の、そして「系のエネルギーの変化」と「系になされる仕事」の関係がエネルギー保存法則の、それぞれの発見を導いたように、である。

【アクティブ・ラーニング】視聴覚の話題をもとに、基本的なテーマを討論とワークシート上で考えていく。

【フィードバック】ワークシートでの確認と反転学習の解答提示の間を2週かけて巡り、身近な現象の理解と概念のイメージ形成を図っていく。

到達目標

- 1．力とトルク（力のモーメント）のつり合いや運動のしくみを理解し説明できる。
- 2．物理で広がる広大な世界に気づいた上で保存法則や運動法則を身の回りの出来事に適用して理解し説明できる。

評価方法

ワークシートおよび反転学習課題レポート6 0 %（到達目標 1 ・ 2 を評価）、確認テスト4 0 %（到達目標 1 ・ 2 を評価）

注意事項

自分用の受講ノートを用意し、常時テイクノートしていくこと。
2週に一度、次時までの反転学習課題をテキストとプリントで指示する。
プリントは授業形態上、受講ノートとともに「書き込む参考書」として活用すべきである。2週単位で綴じるか、またはノート用紙を毎時挿入するかして管理すること。

授業計画

回数	内容
第1回	力は4つ！なぜ2つしか見えぬ？
第2回	機関車はなぜ重い？
第3回	作用力と反作用力はつり合わない！
第4回	吊橋の塔はなぜ高い？
第5回	時間をかけて受ける力で物は勢いを増す
第6回	いろいろな力と運動
第7回	力でされる仕事
第8回	発電の原理はモーターにあり！
第9回	目からウロコ、光の不思議さ
第10回	エンジンと逆エンジン

回数	内容
第11回	ブレーキから生まれたIHクッキング
第12回	エネルギー保存の法則
第13回	変化球とカルマン渦は兄弟
第14回	なぜ台風は左回りか？
第15回	最終確認テストとまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（15週）

【フィードバック（2週で授業と一体）】

- ・1週目（4時間）：ノートに「身近な現象」の理解を要点記入、または補足記入し、ワークシートへ転記する。
 - ・2週目（4時間）：（1週目後に）成果の応用へ思いを巡らせ（反転学習し）た上で、まとめをノート記入、また課題プリントに記入する。
 - ・3週目以降は（次のテーマについて）1週目と同様の取り組みをする。
- （以上、2週1セットの繰り返し中に、5回前後の課題レポート提出を含む）

教科書

物理2600年の歴史を変えた51のスケッチ

ドン・S・レモンズ 著

村山 斉 解説

倉田幸信 訳

プレジデント社

ISBN978-4-8334-2241-3

参考書

視聴覚教材に合わせたプリント、課題プリントを毎時間配布する。

備考

（なし）

年次	1 年
対象	27 ～ 23 R,,
単位数	2． 0 単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 4 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～4を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2 ～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

Philosophy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「文化と芸術」系列の教養科目である。

哲学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をともないながら現代社会・国際社会に対応・貢献するための、幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、哲学の位置づけ、および実践哲学としての倫理学・道徳学における主要な視点・方法・論点を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、現代社会に大きな影響を与える西洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、現代日本にも大きな影響を与える東洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 1.実践哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 2.西洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 3.東洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 4.哲学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第05回の1/3まとめ時におこなう解説文作成問題（30％）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標3・4を評価

注意事項

哲学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 現代社会と哲学 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	実践哲学① 自己と他者 予習：人格同一性・仏教の渴愛について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	実践哲学② 道徳と法 予習：直躬説話・尊属殺・キケロ・カントについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第4回	実践哲学③ 西洋と東洋 予習：語句「西洋」「東洋」「文化」について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：実践哲学の視点・方法・論点を整理する。
第6回	西洋哲学① 功利主義 予習：ベンサム・JSミル・規則功利主義について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	西洋哲学② 自由主義 予習：危害原則・愚行権について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	西洋哲学③ 構造主義 予習：レヴィ＝ストロース・フーコーについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	西洋哲学④ 正義論 予習：ロールズ・無知のベールについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：西洋哲学の視点・方法・論点を整理する。
第11回	東洋哲学① 天と道と気 予習：論語・老子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	東洋哲学② 性命と身体 予習：本性論・経絡について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	東洋哲学③ 仁義と忠孝 予習：孟子・韓非子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	東洋哲学④ 無為と自然 予習：老子・莊子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：東洋哲学の視点・方法・論点を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

日本国憲法（99151）

後期

The Constitution of Japan

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

憲法（Constitution）は法律とは異なり、国家を統治するための基本原則や国の骨格を表す大原則を中心とした準則のことである。歴史的には13世紀に英国で国王に対して突きつけられたマグナ・カルタ（Magna Carta）が草分けとされ、驚くべきことに英国では今でもこの不成文憲法が現行憲法の一部として有効である。フランスでは1789年のフランス人権宣言（Declaration des Droits de l'Homme et du Citoyen）が現行憲法の基礎となっているし、米国では独立宣言から約10年後の1787年に成文のアメリカ合衆国憲法（United States Constitution）を成立させている。いずれの国も基本となる国家の枠組みを維持しつつ、時代に合わせて憲法を修正しながら今日を迎えている。明治維新により近代国家の仲間入りをした日本は、明治天皇の示した五箇条の御誓文を基礎として東アジア初の近代的憲法である大日本帝国憲法を1889年に公布した。現行の日本国憲法は形式的にはこの帝国憲法が改正されたことになっているが、実質は日本の敗戦後に連合国の指示によって原文が英文で書かれ、憲法改正案として日本側に示されたものが下敷きとなって成立している。したがって、日本国憲法には原文としての英文が存在し、日本語の条文はその日本語訳という性格を持つ。日本国憲法はその歴史的経緯から、自由民主主義、個人の尊重、不戦平和主義を柱として敗戦の翌年である1946年11月に公布された。本講義では、日本国憲法の内容を学び、戦後70年以上経った現在の社会を観て、日本国の行く末を自分の頭で判断出来るようになることを目的としたい。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

- 1）憲法の位置付けについて理解する。
- 2）日本国憲法の成立過程について理解する。
- 3）日本国の枠組みについて理解する。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合20％（到達目標1～3を評価）

確認チェック・テスト（3回を予定）：評価割合60％（到達目標1～3を評価）

論述：評価割合20％（到達目標1～3を評価）

* 合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第1回 明治維新から昭和までの歴史について概観するので、日本国が近代化への道を進む過程を学ぶ。

第2回 敗戦から連合国の方針としての日本国憲法成立の経緯について説明するので、日本国憲法が成立した時代的背景を学ぶ。

第3回 連合国は敗戦後の日本国の国体を改造する計画を立てていたが、極東国際軍事裁判を推敲するに当たっての天皇の戦争責任をどう扱うかについて議論があった。天皇制が維持された理由について学ぶので、日本の歴史と天皇の存在意義について理解する。

第4回 連合国は戦後秩序を維持するために国際連合を作り、その条約文として国連憲章を策定した。日本国憲法はこの国連憲章と矛盾しないように作成されたのであり、第一次世界大戦後に締結された不戦条約の内容が参照される形で盛り込まれた。これらの背景について学ぶ。

第5回 これまでの課題を整理するために、小テスト（1）を行う。

第6回 日本国憲法の柱である個人の尊重とその背景にある人権思想について学び、人権思想が日本社会に与えた効果について理解する。

第7回 近代国家は多かれ少なかれ三権分立の体制を採っている。しかし、国によって三権の比重は異なる。戦後は司法型国家として出発したはずの日本の法制度において行政権がどういう位置付けを持っているのかを学ぶ。

第8回 2020年冬から世界的に蔓延した新型コロナウィルスによる疫病は、現代社会に重要な示唆を与えた。特に、日本国では、憲法上の制約から諸外国のように政府が強力な措置を採ることが出来なかった。21世紀の戦争とも呼ばれるコロナ禍と安全保障政策との相関について学ぶ。

第9回 先進国には欧州大陸国家のような事前解決型国家と英米のような事後解決型国家とがある。日本国は実質的には事前解決型を得意としているが、日本国憲法および法制度は事後解決型となっている。両者の特徴について学び、日本国の現状について理解する。

第10回 これまでの課題を整理するために、小テスト（2）を行う。

第11回 戦後日本の社会を特徴付けるとすれば、学問の自由の保証と表現の自由の保証が強調されてきたことであろう。これらが、日本社会でどういう機能を果たしてきたのかを学ぶ。

第12回 戦後の日本社会では空気のように当たり前のこととして扱われてきた思想および良心の自由と信教の自由は、歴史的にはどういう意義を持って確立されてきた考え方なのかを理解する。

第13回 英国の国家体制を象徴する議院内閣制と強いリーダーシップを主眼とする米国などの大統領制には、それぞれ長所と短所がある。日本国では国が議院内閣制を採り、地方が大統領制を採り入れている。これらの長所と短所を学び、日本社会の特徴を理解する。

第14回 税制や財産権は国家の基本をなす制度である。税制や財産権の重要性を学び、今後のあるべき税制や現在の財産権のあり方を再考する。

第15回 これまでの課題を整理するために、小テスト（3）を行う。

授業外学習

第1回 論点となるテーマを取り上げて学習する。何が問題となっているのか疑問を持つことが大切である。「聞いて覚える」のではなく「考える」ことが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：日本国憲法が成立した時代的背景について予め自分で調べることが大切である。復習：憲法の成立の過程を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：天皇制が維持された理由について予め自分で調べることが大切である。復習：今日における天皇制の意義が理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：国連憲章について予め自分で調べることが大切である。復習：国連憲章、不戦条約、日本国憲法の相関を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 これまでのまとめとして小テスト（1）を行うので、必ず予習することが必要となる。復習：自分が理解出来ていない箇所を確認することが出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：人権思想について予め自分で調べることが大切である。復習：人権思想が確立してきた背景を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：三権分立について予め自分で調べることが大切である。復習：行政権について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：日本の安全保障政策について予め自分で調べることが大切である。復習：コロナ禍と安全保障政策の不備との相関を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：国家観について予め自分で調べることが大切である。復習：事前解決型国家と事後解決型国家の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 これまでのまとめとして小テスト（2）を行うので、必ず予習することが必要となる。復習：自分が理解出来ていない箇所を確認することが出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：学問の自由および表現の自由について予め自分で調べることが大切である。復習：戦後日本の社会にこれらの思想がどのような影響を及ぼしてきたかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：思想および良心の自由と信教の自由について予め自分で調べることが大切である。復習：特に、信教の自由が戦後日本の社会に与えた影響は大きく、各種宗教団体が乱立するようになったことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：議院内閣制について予め自分で調べることが大切である。復習：大統領制と議院内閣制との区別が付き、両者の長所と短所を理解することが出来るようになる。（標準学習時間120分）

第14回 予習：納税制度や財産権について予め自分で調べることが大切である。復習：国民的議論がなされないまま税制が改正される場合が多い理由について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 これまでのまとめとして小テスト（3）を行うので、必ず予習することが必要となる。復習：自分が理解出来ていない箇所を確認することが出来るようになる。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計60時間

教科書

芦部信喜「憲法」（第7版）岩波書店（ISBN：978-4000613224）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 小出肇 👤 田丸稔 👤 土井原由子 👤 水田直美 👤 馬場始三 👤 中川浩一 👤 丸田昌宏 👤 大屋努 👤 松田博義

授業の概要

今日の情報技術の進化・普及は留まることを知らない。情報ネットワークは、私たちの生活の基盤となるモノや空間にまで深く浸透し、携帯やパソコンなどデジタル化されたメディアなしの生活はもはや想像できない。この授業では、デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像、放送の領域を中心に、それぞれの分野における歴史を踏まえ、今日の状況や未来への課題について、オムニバス形式で概説する。

到達目標

1 デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像の領域についての幅広い知識を修得し、説明できる。

評価方法

- ・到達目標1は授業に取り組む態度・姿勢、授業内で行う小レポートにより評価し総合計60点以上を合格とする。
- ・評価の比率は、態度・姿勢40%、レポート60%を基準とする。

注意事項

- ・必ず、前期登録期間中に履修登録をしてください。後期での新規な登録追加はできません。
- ・教室の収容定員を超えるときは、前期期間中に履修許可者の選定を行います。その際、1年次生の履修を優先します。選定の日時については別途お知らせしますので、掲示板やポータルサイトに注意しておいてください。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンスおよび情報社会（インターネットの歴史と現状）：馬場 始三
第2回	アプリ（現状と実例）：馬場 始三
第3回	ゲーム（現状と実例・制作プロセス）：大屋 努
第4回	1.マンガ（歴史と作家）：松田博義
第5回	2.マンガ（実例）：松田博義
第6回	1.アニメ（アニメーション表現のエッジな領域）：中川 浩一
第7回	2.アニメ（拡張されたアニメーション）：中川 浩一
第8回	1.コミックイラスト（現状と実例）：土井原 由子
第9回	2.コミックイラスト（キャラクターデザイン、立体、アートというキーワードから）：田丸稔
第10回	映像（実例と制作プロセス）：丸田 昌宏
第11回	放送（映像産業とCM）：丸田 昌宏

回数	内容
第12回	コンテンツの言語表現：水田 直美
第13回	コンテンツの非言語表現：水田 直美
第14回	映画（時代を反映した作品）：小出 肇 「エンターテインメント映像とドキュメンタリー映像との比較と重要性」
第15回	まとめ：小出 肇 「デジタル・AI的映像と アナログ思考的映像との比較と共存」

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像の領域についての情報を、インターネットなどを活用して事前に収集しておくこと。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

この講義では毎回の授業で小レポートをGoogle Formで課すため、履修者は講義時間時にGoogle Formを開くためのモバイル端末（スマートフォン、タブレット、ノートPCなど）を各自で準備すること。

Physics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 山本健治

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群の一つである。
押し相撲では、相手から受ける「力の持続」が自分を後退させる。ボール投げでも、手から受ける「力の持続」がボールの勢いを増やしている。ニュートンにとって「持続的作用」は「力積（力の時間積分）」であった。デカルトはビリヤードに興じ、球の衝突を真剣に考えたことから、いち早く「運動量を変化させる」素因に気づいた。ただ、微積分法の発見はニュートンを待たねばならなかった。
人類が自然を理解してきた歴史は、完成された学問体系より数奇で味わい深い。身近な現象でさえも、偉大な発見の履歴をたどれば、かつては未知の世界のテーマであった。「運動量の変化」と「力積」の関係が運動方程式の、そして「系のエネルギーの変化」と「系になされる仕事」の関係がエネルギー保存法則の、それぞれの発見を導いたように、である。

【アクティブ・ラーニング】視聴覚の話題をもとに、基本的なテーマを討論とワークシート上で考えていく。

【フィードバック】ワークシートでの確認と反転学習の解答提示の間を2週かけて巡り、身近な現象の理解と概念のイメージ形成を図っていく。

到達目標

- 1．力とトルク（力のモーメント）のつり合いや運動のしくみを理解し説明できる。
- 2．物理で広がる広大な世界に気づいた上で保存法則や運動法則を身の回りの出来事に適用して理解し説明できる。

評価方法

ワークシートおよび反転学習課題レポート6 0 %（到達目標 1 ・ 2 を評価）、確認テスト4 0 %（到達目標 1 ・ 2 を評価）

注意事項

自分用の受講ノートを用意し、常時テイクノートしていくこと。
2 週に一度、次時までの反転学習課題をテキストとプリントで指示する。
プリントは授業形態上、受講ノートとともに「書き込む参考書」として活用すべきである。2 週単位で綴じるか、またはノート用紙を毎時挿入するかして管理すること。

授業計画

回数	内容
第1回	力は4 つ！なぜ 2 つしか見えぬ？
第2回	機関車はなぜ重い？
第3回	作用力と反作用力はつり合わない！
第4回	吊橋の塔はなぜ高い？
第5回	時間をかけて受ける力で物は勢いを増す
第6回	いろいろな力と運動
第7回	力でされる仕事
第8回	発電の原理はモーターにあり！
第9回	目からウロコ、光の不思議さ
第10回	エンジンと逆エンジン

回数	内容
第11回	ブレーキから生まれたIHクッキング
第12回	エネルギー保存の法則
第13回	変化球とカルマン渦は兄弟
第14回	なぜ台風は左回りか？
第15回	最終確認テストとまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（15週）

【フィードバック（2週で授業と一体）】

- ・1週目（4時間）：ノートに「身近な現象」の理解を要点記入、または補足記入し、ワークシートへ転記する。
 - ・2週目（4時間）：（1週目後に）成果の応用へ思いを巡らせ（反転学習し）た上で、まとめをノート記入、また課題プリントに記入する。
 - ・3週目以降は（次のテーマについて）1週目と同様の取り組みをする。
- （以上、2週1セットの繰り返し中に、5回前後の課題レポート提出を含む）

教科書

物理2600年の歴史を変えた51のスケッチ

ドン・S・レモンズ 著

村山 斉 解説

倉田幸信 訳

プレジデント社

ISBN978-4-8334-2241-3

参考書

視聴覚教材に合わせたプリント、課題プリントを毎時間配布する。

備考

（なし）

Contemporary Art

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 濱坂 渉

授業の概要

芸術の領域の中で、まず前史として、20世紀初頭(1900~)の近代のモダニズム美術の知見から始め、主として第二次世界大戦後(1945~)から現代に至る美術の流れをたどる。現代における美術の変化ははなはだしく、これは近代によって始まる「見ること」の大きな変化と歩みを共にしている。私たちが日頃何気なく体験している日常生活の中の「見ること」－氾濫する映像、絶え間なく変動する社会環境、物理科学的な自然・世界観などーは、ここ100年余りの近・現代の歴史的・社会的変化によって形作られてきたものであり、私たちの感覚は歴史によって規定されているといつてよい。そして美術は、こうした私たちの感覚の変化をはっきりと照らし出すものである。

【フィードバック】中間レポート、期末レポートで芸術の変化の動向と質的変容に覚醒すること。

到達目標

- 1.現代の美術について積極的に「見ること」を通じて鑑賞できる。
- 2.現代の美術の社会的背景や、歴史的に規定された感覚の変化を認識できる。
- 3.現代美術史の座標軸を表現と関連して理解できる。

評価方法

中間レポート50%（到達目標1・2・3を評価）、期末レポート50%（到達目標1・2・3を評価）

注意事項

授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

授業計画

第01回 はじめに-モダニズム表現の確立と抽象のはじまり

第02回 イズムの時代-1：表現主義、キュビズム、オルフィスム、イタリア未来派、シュプレマティスム（絶対主義）ロシア構成主義の要約

第03回 イズムの時代-2：デ・ステイル、バウハウス、ダダ、シュールレアリスム、新即物主義、形而上絵画、日本の状況要約

第04～07回 第二次世界大戦後の美術-1（1945頃~1960頃）

人間像の再発見と素材表現：具象と抽象のドグマ：人工材料、自然素材 ,アブストラクシオン＝クレアシオン（抽象・創造）、アメリカン・シーン、日本の状況ほか

リアリズムの変容：アメリカ抽象表現主義、アンフォルメル（実存的な抽象）ポップアートのオブジェと情景彫刻、ヌーヴォーリアリズム、資本主義リアリズム

モダニズムの系譜：構成主義-その後：彫刻と絵画の狭間－プライマリー・ストラクチャ、絵画的抽象以後「カラー＝フィールド・ペインティング」「ハード・エッジ絵画」

絵画の仕組み：オブ・アート「シュポール／シュルファス（支持体／表面）」スーパー・リアリズム

第08～11回 第二次世界大戦後の美術-2（1960頃~1980頃）

形式の拡散、あるいは芸術哲学としての作品：ミニマリズム：反イリュージョンとプロセス、コンセプチャル・アート、パフォーマンス・アート、「フルクサス」

自然環境に対する3つの態度：キネティックアート：アースワーク、ランド・アートの功罪、環境と自然回帰

メッセージの多元性とインスタレーション：アルテポーベラ、インスタレーションの冒険、身体性、表現の多様化、新表現主義（ネオ・エクスプレッショニズム）

公共芸術と形式の再構築：パブリックアートとサイトスペシフィックワーク、ニュー・プリティッシュ・スカulpture

第12～14回アートワールドのグローバル化の時代（1980頃~21世紀）

芸術のサバイバル戦略：グラフィティ・アート、ネオ・ジオ、シュミレーションニズム、マルチカルチュラルイズム（多文化主義）メディア・アート、物語性の追求と映像表現 日本と世界の現状と表現者の同時代性について

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

一週間に4時間以上の自主的学習を必要とする。授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

classroomにPDFで提示してある資料は、すべての内容の解説は行はない。それらの資料の中から、重要だと思われる内容を中心に解説する。したがって解説しない資料についても参考として目を通しておくことを勧める。また作品の画像などは、一般に著作権は作者の死後50年存続し、著作権管理者に権利が保全されている。目安としてピカソの没年1973年。また作品の画像などは授業外に流失しないように注意すること。

Contemporary Art

教養科目

年次	1 年
対象	21 ～ 18 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 濱坂 渉

授業の概要

芸術の領域の中で、まず前史として、20世紀初頭(1900~)の近代のモダニズム美術の知見から始め、主として第二次世界大戦後(1945~)から現代に至る美術の流れをたどる。現代における美術の変化ははなはだしく、これは近代によって始まる「見ること」の大きな変化と歩みを共にしている。私たちが日頃何気なく体験している日常生活の中の「見ること」－氾濫する映像、絶え間なく変動する社会環境、物理科学的な自然・世界観などーは、ここ100年余りの近・現代の歴史的・社会的変化によって形作られてきたものであり、私たちの感覚は歴史によって規定されているといつてよい。そして美術は、こうした私たちの感覚の変化をはっきりと照らし出すものである。

【フィードバック】中間レポート、期末レポートで芸術の変化の動向と質的変容に覚醒すること。

到達目標

- ・現代の美術について積極的に「見ること」を通じて鑑賞できる。
- ・現代の美術の社会的背景や、歴史的に規定された感覚の変化を認識できる。
- ・現代美術史の座標軸を表現と関連して理解できる。

評価方法

中間レポート50%（到達目標1・2・3を評価）、期末レポート50%（到達目標1・2・3を評価）

注意事項

授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

授業計画

第01回 はじめに-モダニズム表現の確立と抽象のはじまり

第02回 イズムの時代-1：表現主義、キュビズム、オルフィスム、イタリア未来派、シュプレマティスム（絶対主義）ロシア構成主義の要約

第03回 イズムの時代-2：デ・ステイル、バウハウス、ダダ、シュールレアリスム、新即物主義、形而上絵画、日本の状況要約

第04～07回 第二次世界大戦後の美術-1（1945頃~1960頃）

人間像の再発見と素材表現：具象と抽象のドグマ：人工材料、自然素材 ,アブストラクシオン＝クレアシオン（抽象・創造）、アメリカン・シーン、日本の状況ほか

リアリズムの変容：アメリカ抽象表現主義、アンフォルメル（実存的な抽象）ポップアートのオブジェと情景彫刻、ヌーヴォーリアリズム、資本主義リアリズム

モダニズムの系譜：構成主義-その後：彫刻と絵画の狭間ープライマリー・ストラクチュア,絵画的抽象以後「カラー＝フィールド・ペインティング」「ハード・エッジ絵画」

絵画の仕組み：オブ・アート「シュボール／シュルファス（支持体／表面）」スーパー・リアリズム

第08～11回 第二次世界大戦後の美術-2（1960頃~1980頃）

形式の拡散、あるいは芸術哲学としての作品：ミニマリズム：反イリュージョンとプロセス、コンセプチャル・アート、パフォーマンス・アート、「フルクサス」

自然環境に対する3つの態度：キネティックアート：アースワーク、ランド・アートの功罪、環境と自然回帰

メッセージの多元性とインスタレーション：アルテポーベラ、インスタレーションの冒険、身体性、表現の多様化、新表現主義（ネオ・エクスプレッショニズム）

公共芸術と形式の再構築：パブリックアートとサイトスペシフィックワーク、ニュー・ブリティッシュ・スカルプチュア

第12～14回 アートワールドのグローバル化の時代（1980頃~21世紀）

芸術のサバイバル戦略：グラフィティ・アート、ネオ・ジオ、シュミレーションニズム、マルチカルチュラリズム（多文化主義）メディア・

アート、物語性の追求と映像表現

日本と世界の現状と表現者の同時代性：

第15回 総復習、まとめ（期末レポート）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

一週間に4時間以上の自主的学習を必要とする。授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

classroomにPDFで提示してある資料は、すべての内容の解説は行はない。それらの資料の中から、重要だと思われる内容を中心に解説する。したがって解説しない資料についても参考として目を通しておくことを勧める。また作品の画像などは、一般に著作権は作者の死後50年存続し、著作権管理者に権利が保全されている。目安としてピカソの没年1973年。また作品の画像などは授業外に流失しないように注意すること。

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（１）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（２）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（３）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（４）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（５）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（１）語種
第9回	言語の接触と選択（２）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（１）定義・性質
第12回	コミュニケーション（２）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（３）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（４）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
- ・授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。
多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその動きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。

【フィードバック】

- ・各回のシャトルカードで質問等に答えるとともに、重要な点については補足説明を行う。
- ・課題レポートについて、模範解答の呈示と解説を行う。

【I C Tを活用した双方向型授業】

- 本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
- ・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
 - ・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
 - ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- (1) 心理学の各領域での主要トピックを理解する。
- (2) 自身の生活体験と、講義内容を関連づけることができる。
- (3) 自他への人間理解を深める。

評価方法

シャトルカード（到達目標2・3）、課題レポート（到達目標1・2）と定期試験（到達目標1）で評価を行う。評価は、シャトルカード10%、課題レポート20%、定期試験70%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学に関係する調査・実験への参加者を募集する場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー素朴心理学と行動科学としての心理学の 違い 予習：高校までに履修した内容で、心理学に関係すると思われるものを探す 復習キーワード：素朴心理学、イギリス経験主義哲学、構成主義心理学、機能主義心理学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、操作主義
第2回	知覚ー心理的世界と物理的世界 予習：3-19ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：知覚的世界、物理的世界、感覚、知覚、図と地、群化の要因、錯覚、知覚的恒常性、注意
第3回	認知ー脳の機能、パターン認知 予習：21-33ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：大脳半球機能差、パターン認識、トップダウン／ボトムアップ処理 課題レポート作成。

回数	内容
第4回	学習（１）条件づけのしくみ 予習：41-49ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、オペラント条件づけ、強化、消去、般化と分化、弁別、強化スケジュール
第5回	学習（２）学習理論の展開 予習：50-57ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：社会的学習、行動療法、認知理論、連合理論 課題レポート作成。
第6回	記憶・思考（１）－記憶のしくみ 予習：34-37、59-73ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：感覚貯蔵、短期記憶、長期記憶、リハーサル、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ、チャンク、体制化、忘却 課題レポート作成。
第7回	記憶・思考（１）－問題解決 予習：74-77ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：問題解決、学習の構え、ヒューリスティック、アルゴリズム、メタ認知
第8回	発達（１）－発達観の変遷 予習：81-87ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：愛着、敏感期、マターナル・ディプリベーション、野性児、遺伝的要因、環境的要因、相互作用
第9回	発達（２）－さまざまな発達課題 予習：88-95ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：象徴遊び、自己中心性、前／具体的／形式的操作期、思春期、第二反抗期、自己像、自我同一性、モラトリアム、ライフ・サイクル、エディプス・コンプレックス 課題レポート作成。
第10回	動機づけ・情緒（１）－動機づけの種類 予習：97-103ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：動機、誘因、一時的／二次的動機、内発的／外発的動機、ホメオスタシス、社会的動機、葛藤、欲求不満、自己実現
第11回	動機づけ・情緒（２）－動機づけ水準の変動（原因帰属など） 予習：104-111ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習性無力感、原因帰属、自己効力感、ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動の認知説 課題レポート作成。
第12回	パーソナリティ（１）－こころの構造 予習：116-123ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：イド、自我、超自我、リビドー、意識、無意識、集団的無意識、アニマ／アニムス、性格類型、性格特性
第13回	パーソナリティ（２）－適応 予習：124-131ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 課題レポート作成。 復習キーワード：自我防衛機制、コンプレックス
第14回	対人行動－対人認知、人間関係の深化 予習：152-167ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：印象形成、認知的バランス理論、自己呈示、自己開示、説得、リアクタンス理論、ノンバーバル・コミュニケーション
第15回	集団と社会－集団の構造と機能 予習：169-185ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：リーダーシップ、PM理論、集団思考、集団決定、社会的手抜き、集団規範、集団凝集性、集団モラル 課題レポート作成。

授業外学習

学習時間の目安：予習・復習をあわせて各回４時間

予習：教科書の該当ページを読み、概略をつかむ。キーワードについて調べておく。

復習：それぞれのキーワードを正しく説明することができるようにする。

各単元ごとに、指定したキーワードをもとに概念間の関連性とそれらの共通点・相違点を理解してまとめて、課題レポートを作成する。

教科書

心理学ナビゲータ Ver.2|神田義浩他|北大路書房|978-4-7628-2749-5

参考書

適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 菅正樹  内藤佐和

授業の概要

健康的な生活を送るためには、運動や食生活についての知識が不可欠である。
本講義では、健康と運動の関連性について、運動生理学分野の基礎的な知識をもとに、健康維持増進のための運動方法を学ぶ。
また、栄養学的にどのような食生活が理想的であるのかも学び、自身の生活習慣の問題点と改善方法について考察し、健康的な生活を営むことができる人材を育成する。

到達目標

- 1 健康を維持増進するための運動および食生活について理解し説明できる。
- 2 自身の食生活および運動習慣について改善点を考察し、実践できる。

評価方法

レポート20%（到達目標2を評価） および定期試験80%（到達目標1，2を評価）により総合的に評価する。

注意事項

受講状況を重要視する。
授業の順番や進度は前後することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（菅）
第2回	健康とは（菅）
第3回	トレーニングの原則（菅）
第4回	スポーツと運動（菅）
第5回	スポーツと近代社会（菅）
第6回	食生活の変化と健康問題（内藤）
第7回	バランスのよい食事とは（内藤）
第8回	食生活習慣の調査（内藤） レポート（食事バランスガイドを用いた食事調査）
第9回	食生活習慣の改善（内藤）
第10回	栄養素の種類と働き（内藤）
第11回	運動と栄養（内藤）
第12回	腸の健康と食生活（内藤）
第13回	生活習慣病と食生活（内藤）
第14回	食の安全と健康（内藤）
第15回	まとめ（内藤）

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

事前に関連する資料やテキストをよく読み、専門用語等が理解できるよう予習しておくこと（各2時間）。
練習課題を実施するので、復習をしておくこと。また、授業内容の理解度向上のため、課題レポートを出題する（各 2 時間）。

教科書

「栄養の基本がわかる図解事典」、成美堂出版、中村丁次監修、ISBN：978-4-415-32743-3

参考書

最新の参考文献等を適宜紹介する。

備考

（なし）

異文化理解（99203）

前期

Cross-cultural understanding

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「文化と社会」系列の教養科目である。

異文化理解の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間と社会とのかかわりについての深い認識と論理的・批判的思考力をともしないながら現代社会・国際社会に対応・貢献するための、幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、異文化理解にかんする重要概念を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、〈異文化の基礎的理解〉を主題とするレポートの作成と提出をおこなう。第6～9回で、個人ワーク・グループワークを通じて異文化トレーニングの実践例をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、〈異文化の体験的理解〉を主題とするレポートの作成と提出をおこなう。第11～14回で、カルチャーマップをはじめとする異文化理解の諸理論についてまなび、第15回の3/3まとめにおいて、〈異文化理解の理論的理解〉を主題とするレポートの作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出されたレポートの内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 異文化理解に必要な基礎的概念について、理解し説明できる。
- 異文化理解に必要な実践的トレーニングについて、体験にもとづき説明できる。
- 異文化理解に必要な諸理論について、理解し説明できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）により、以下のように評価する。

第05回の1/3まとめ時における作成レポート（30%）：到達目標1を評価

第10回の2/3まとめ時における作成レポート（35%）：到達目標2を評価

第15回の3/3まとめ時における作成レポート（35%）：到達目標3を評価

注意事項

授業中に大学アカウントによるGoogle Classroomへのアクセスが必須となる。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 異文化理解の内容と意義 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	異文化理解の重要概念① 価値観・ステレオタイプ 予習：価値観・ステレオタイプについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	異文化理解の重要概念② コンテキスト・コミュニケーション 予習：コンテキスト・コミュニケーションについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	異文化理解の重要概念③ カルチャーショック・待遇表現 予習：カルチャーショック・待遇表現について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第5回	1/3まとめ／レポート作成・提出 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、レポート作成にそなえる。 復習：みずからの〈異文化の基礎的理解〉について整理する。
第6回	異文化トレーニング① 異文化と文章表現 予習：「やさしい日本語」について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	異文化トレーニング② 異文化と口頭表現 予習：諸文化における口頭表現の特徴について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	異文化トレーニング③ 異文化と待遇表現 予習：諸文化における口頭表現の特徴について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	異文化トレーニング④ 異文化と共通論理 予習：論証・導出・演繹・推測について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ／レポート作成・提出 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、レポート作成にそなえる。 復習：みずからの〈異文化の体験的理解〉について整理する。
第11回	カルチャーマップ① コミュニケーション・評価 予習：事前配布「カルチャーマップ概要」1・2を読み、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	カルチャーマップ② 説得・リード 予習：事前配布「カルチャーマップ概要」3・4を読み、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	カルチャーマップ③ 決断・信頼 予習：事前配布「カルチャーマップ概要」5・6を読み、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	カルチャーマップ④ 見解の相違・スケジューリング 予習：事前配布「カルチャーマップ概要」7・8を読み、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ／レポート作成・提出 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、レポート作成にそなえる。 復習：みずからの〈異文化の理論的理解〉について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる事項について事前調査し、質問を用意する。※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

Economics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 韓亮

授業の概要

この講義は現代社会の経済事情・経済問題に関心のある学生を対象に経済学の基礎を学ぶ。経済学の基本概念・基礎理論を学ぶことを通じて、経済学的な考え方・経済社会に対する洞察力、判断力を養う。

到達目標

経済学の基礎知識と基本理論を理解する

評価方法

受講態度： 3 0 %

小テスト： 3 0 %

期末テスト： 4 0 %

注意事項

授業中に無用な私語を禁止する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・経済学とは何か？
第2回	経済学の考え方
第3回	経済学の歴史（1）
第4回	経済学の歴史（2）
第5回	経済学の歴史（3）
第6回	ミクロ経済学：需要と供給
第7回	ミクロ経済学：消費者行動と価格メカニズム
第8回	ミクロ経済学：企業
第9回	ミクロ経済学：市場
第10回	ミクロ経済学：労働市場
第11回	マクロ経済学：GDP
第12回	マクロ経済学：貨幣と金融
第13回	マクロ経済学：貿易と為替レート
第14回	マクロ経済学：経済成長
第15回	まとめ

授業外学習

回数	内容
----	----

回数	内容
第1回	シラバスを読んで質問を用意する（学習時間の目安：4時間）
第2回	教科書の序章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第3回	重農主義・重商主義・『国富論』について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第4回	新古典派経済学とケインズ経済学について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第5回	マルクス経済学、中国・旧ソ連について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第6回	教科書の第1章と第2章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第7回	教科書の第3章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第8回	企業について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第9回	教科書の第4章・第5章・第6章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第10回	教科書の第7章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第11回	教科書の第8章・第9章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第12回	教科書の第11章と第12章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第13回	教科書の第13章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第14回	教科書の第14章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（学習時間の目安：4時間）

教科書

中谷 武・中村 保『1からの経済学』碩学舎、2010年。ISBN978-4-502-68080-9

参考書

マンキュー『マンキュー入門経済学』（第2版）東洋経済新報社、2014年。ISBN：9784492314432

伊東元重『入門経済学第4版』日本評論社、2015年。ISBN 978-4-535-55817-5

備考

化学（99205）

前期

Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 20 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 佐藤恒夫

授業の概要

日常の暮らしに必要とされる基礎的な一般化学事項を分かりやすく解説する。

到達目標

- 1 一般化学の基本的な考え方を、化学反応式、物質量、酸と塩基、酸化還元などを用いて理解し説明できる。
- 2 一般化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける一般化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 2 0 %（到達目標 1 を評価）、レポート 2 0 %（到達目標 2 を評価）、定期試験 6 0 %（到達目標 1， 3 を評価）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

関数電卓を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	科学における化学
第2回	原子
第3回	元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学反応式
第6回	濃度の表しかた
第7回	酸化と還元
第8回	物質の性質と状態
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液
第13回	透析と浸透圧
第14回	酸および塩基と pH
第15回	放射線と放射能

授業外学習

- 学習時間の目安：合計 6 0 時間
- ・ 授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み、概略をつかんでおくこと。
 - ・ 復習として、課題レポート（宿題）を 5 回出題する。
 - ・ レポートなどは初めに人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
 - ・ レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

はじめて学ぶ化学・化学同人・野島高彦・9784759814941

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

Psychology

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。
多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。

【フィードバック】

- ・各回のシャトルカードで質問等に答えるとともに、重要な点については補足説明を行う。
- ・課題レポートについて、模範解答の呈示と解説を行う。

【I C Tを活用した双方向型授業】

- 本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
- ・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
 - ・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
 - ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- (1) 心理学の各領域での主要トピックを理解する。
- (2) 自身の生活体験と、講義内容を関連づけることができる。
- (3) 自他への人間理解を深める。

評価方法

シャトルカード（到達目標2・3）、課題レポート（到達目標1・2）と定期試験（到達目標1）で評価を行う。評価は、シャトルカード10%、課題レポート20%、定期試験70%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学に関係する調査・実験への参加者を募集する場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー素朴心理学と行動科学としての心理学の 違い 予習：高校までに履修した内容で、心理学に関係すると思われるものを探す 復習キーワード：素朴心理学、イギリス経験主義哲学、構成主義心理学、機能主義心理学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、操作主義
第2回	知覚ー心理的世界と物理的世界 予習：3-19ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：知覚的世界、物理的世界、感覚、知覚、図と地、群化の要因、錯覚、知覚的恒常性、注意
第3回	認知ー脳の機能、パターン認知 予習：21-33ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：大脳半球機能差、パターン認識、トップダウン／ボトムアップ処理 課題レポート作成。

回数	内容
第4回	学習（１）条件づけのしくみ 予習：41-49ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、オペラント条件づけ、強化、消去、般化と分化、弁別、強化スケジュール
第5回	学習（２）学習理論の展開 予習：50-57ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：社会的学習、行動療法、認知理論、連合理論 課題レポート作成。
第6回	記憶・思考（１）－記憶のしくみ 予習：34-37、59-73ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：感覚貯蔵、短期記憶、長期記憶、リハーサル、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ、チャンク、体制化、忘却 課題レポート作成。
第7回	記憶・思考（１）－問題解決 予習：74-77ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：問題解決、学習の構え、ヒューリスティック、アルゴリズム、メタ認知
第8回	発達（１）－発達観の変遷 予習：81-87ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：愛着、敏感期、マタernal・ディプリベーション、野性児、遺伝的要因、環境的要因、相互作用
第9回	発達（２）－さまざまな発達課題 予習：88-95ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：象徴遊び、自己中心性、前／具体的／形式的操作期、思春期、第二反抗期、自己像、自我同一性、モラトリアム、ライフ・サイクル、エディプス・コンプレックス 課題レポート作成。
第10回	動機づけ・情緒（１）－動機づけの種類 予習：97-103ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：動機、誘因、一時的／二次的動機、内発的／外発的動機、ホメオスタシス、社会的動機、葛藤、欲求不満、自己実現
第11回	動機づけ・情緒（２）－動機づけ水準の変動（原因帰属など） 予習：104-111ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習性無力感、原因帰属、自己効力感、ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動の認知説 課題レポート作成。
第12回	パーソナリティ（１）－こころの構造 予習：116-123ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：イド、自我、超自我、リビドー、意識、無意識、集団的無意識、アニマ／アニムス、性格類型、性格特性
第13回	パーソナリティ（２）－適応 予習：124-131ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 課題レポート作成。 復習キーワード：自我防衛機制、コンプレックス
第14回	対人行動－対人認知、人間関係の深化 予習：152-167ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：印象形成、認知的バランス理論、自己呈示、自己開示、説得、リアクタンス理論、ノンバーバル・コミュニケーション
第15回	集団と社会－集団の構造と機能 予習：169-185ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：リーダーシップ、PM理論、集団思考、集団決定、社会的手抜き、集団規範、集団凝集性、集団モラル 課題レポート作成。

授業外学習

学習時間の目安：予習・復習をあわせて各回４時間

予習：教科書の該当ページを読み、概略をつかむ。キーワードについて調べておく。

復習：それぞれのキーワードを正しく説明することができるようにする。

各単元ごとに、指定したキーワードをもとに概念間の関連性とそれらの共通点・相違点を理解してまとめて、課題レポートを作成する。

教科書

心理学ナビゲータ Ver.2|神田義浩他|北大路書房|978-4-7628-2749-5

参考書

適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 時任英人

授業の概要

日本を取り巻く国際政治についての情報は、近年益々氾濫している。それゆえ、この分野の理解を深めようとする、私たちをとりまく国際環境が複雑性を極め、しかも争点が目まぐるしく変化を見せるため、個々人が自分の考えを持ちにくいのが実情である。しかしながら、日本社会は、国際政治を理解することなくしては、今後の事情が見えづらくなっているため、これからの未来は、そのような複雑性について少しでも自らの視点から理解を持つことが重要となってくる。

したがって、本講義では、どのような地域で生活しようとも日本を取り巻く国際情勢についての理解を持ち、一人一人がそれぞれの見識を持ち、地域にとって必要とされる社会人の一つの条件を形成することを目的としている。

【アクティブラーニング】グループワーク、プレゼンテーションをとりいれる。

【フィードバック】レポート課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 国際政治現象の一つ一つがどのような意義を有するかを理解できる。
- 2 日々の政治現象を理解するうえでの政治的思考ができる。
- 3 日々の政治的事件を新聞やニュースで理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標1、3を評価）、定期試験50%（到達目標1、2、3を評価）によって成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

日々の新聞を読むことは義務であり、定期的に新聞・ニュースの内容を整理して発表してもらうことにする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（国際政治とは何か？）
第2回	20世紀の戦争と冷戦
第3回	国際政治における権力と国益
第4回	日本の安全保障と同盟
第5回	日本の対外政策決定過程
第6回	核兵器と新しい戦争
第7回	人権と民主主義
第8回	グローバリゼーション
第9回	日本と国際連合
第10回	地球環境問題に対する日本の政策
第11回	ナショナリズムと日本の戦争
第12回	科学技術とエネルギー
第13回	「文明の衝突」の克服

回数	内容
第14回	プレゼンテーション
第15回	総まとめ(これからの日本と国際政治)

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・授業内容を復習し、次回の講義の内容について関連する専門用語を調べて理解しておくこと。
- ・講義の最後には、理解した内容について、100字ほどのレポートを出題する。
- ・全体として2000字程度のレポートを出題するので、講義の全体的な流れを、復習しておくこと。

教科書

村田・君塚・石川他『国際政治学をつかむ 新版』（有斐閣）

参考書

ジョゼフ・ナイ『国際紛争 第10版』（有斐閣）他

備考

Linguistics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1， 2， 3）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1， 2， 3）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（１）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（２）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（３）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（４）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（５）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（１）語種
第9回	言語の接触と選択（２）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（１）定義・性質
第12回	コミュニケーション（２）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（３）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（４）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
- ・授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

Economics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 20 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 韓亮

授業の概要

この講義は現代社会の経済事情・経済問題に関心のある学生を対象に経済学の基礎を学ぶ。経済学の基本概念・基礎理論を学ぶことを通じて、経済学的な考え方・経済社会に対する洞察力、判断力を養う。

到達目標

経済学の基礎知識と基本理論を理解する

評価方法

- 受講態度： 3 0 %
- 小テスト： 3 0 %
- 期末テスト： 4 0 %

注意事項

授業中に無用な私語を禁止する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・経済学とは何か？
第2回	経済学の考え方
第3回	経済学の歴史（1）
第4回	経済学の歴史（2）
第5回	経済学の歴史（3）
第6回	ミクロ経済学：需要と供給
第7回	ミクロ経済学：消費者行動と価格メカニズム
第8回	ミクロ経済学：企業
第9回	ミクロ経済学：市場
第10回	ミクロ経済学：労働市場
第11回	マクロ経済学：GDP
第12回	マクロ経済学：貨幣と金融
第13回	マクロ経済学：貿易と為替レート
第14回	マクロ経済学：経済成長
第15回	まとめ

授業外学習

回数	内容
----	----

回数	内容
第1回	シラバスを読んで質問を用意する（学習時間の目安：4時間）
第2回	教科書の序章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第3回	重農主義・重商主義・『国富論』について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第4回	新古典派経済学とケインズ経済学について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第5回	マルクス経済学、中国・旧ソ連について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第6回	教科書の第1章と第2章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第7回	教科書の第3章を予習する（学習時間の目安：4時間）
第8回	企業について調べておく（学習時間の目安：4時間）
第9回	教科書の第4章・第5章・第6章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第10回	教科書の第7章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第11回	教科書の第8章・第9章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第12回	教科書の第11章と第12章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第13回	教科書の第13章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第14回	教科書の第14章について予習する（学習時間の目安：4時間）
第15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（学習時間の目安：4時間）

教科書

中谷 武・中村 保『1からの経済学』碩学舎、2010年。ISBN978-4-502-68080-9

参考書

マンキュー『マンキュー入門経済学』（第2版）東洋経済新報社、2014年。ISBN：9784492314432

伊東元重『入門経済学第4版』日本評論社、2015年。ISBN 978-4-535-55817-5

備考

Chemistry

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 佐藤恒夫

授業の概要

日常の暮らしに必要とされる基礎的な一般化学事項を分かりやすく解説する。

到達目標

- 1 一般化学の基本的な考え方を、化学反応式、物質量、酸と塩基、酸化還元などを用いて理解し説明できる。
- 2 一般化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける一般化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20％（到達目標1を評価）、レポート20％（到達目標2を評価）、定期試験60％（到達目標1，3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

関数電卓を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	科学における化学
第2回	原子
第3回	元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学反応式
第6回	濃度の表しかた
第7回	酸化と還元
第8回	物質の性質と状態
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液
第13回	透析と浸透圧
第14回	酸および塩基と pH
第15回	放射線と放射能

授業外学習

- 学習時間の目安：合計 60 時間
- ・授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み、概略をつかんでおくこと。
 - ・復習として、課題レポート（宿題）を 5 回出題する。
 - ・レポートなどは初めに人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
 - ・レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

はじめて学ぶ化学・化学同人・野島高彦・9784759814941

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 水田直美

授業の概要

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標 1 , 2 , 3 ）、期末課題（レポート） 70%（到達目標 1 , 2 , 3 ）により成績を評価し,総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第 1 回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（１）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（２）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（３）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（４）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（５）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（１）語種
第9回	言語の接触と選択（２）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（１）定義・性質
第12回	コミュニケーション（２）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（３）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（４）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
- ・授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
- ・授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

コンピュータリテラシ（99301）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 織田樹紀

授業の概要

日常で利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を体系的に学ぶ。収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成ができるようになる。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて表する演習を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、GoogleClassroomを活用して、課題をGoogleClassroomを通して提示し、提出してもらいます。

到達目標

- 1.コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する
- 2.コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
- 3.インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
- 4.文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
- 5.表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
- 6.プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
- 7.学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウィルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
- 8.画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

期末定期試験は実施しない。

授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%(到達目標1,4,5,6)

授業時間中に実施する小テスト：25%(到達目標2,7,8)

グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%(到達目標3,6,8)

注意事項

特になし。

手元にデータを保存しておきできれば、USBメモリ(容量は数GB程度あればよい)を持参

授業計画

1. コンピュータの構造と基本操作、GoogleClassRoomの使い方(1)
2. インターネット概論とタイピング、GoogleClassRoomの使い方(2)
3. インターネットの活用 インターネットの基本知識と利用マナー
4. セキュリティと情報倫理、サイバー犯罪、コンピューターウィルスとセキュリティ
5. Word(1)文書入力
6. Word(2)表現力を向上させよう
7. Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について

8. Excel(1)データ入力とワークシート編集
 9. Excel(2)データベースの活用
 10. Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
 11. Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点
 12. PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識
 13. PowerPoint(2) スライドの作成
 14. PowerPoint(3)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 15. グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業前に指定テキストの操作方法、Webにある動画を確認しておく

こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること

個人課題・グループ課題を出題するので必ず取り組み終わらせること

タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に（少なくとも10分～15分程度）に取り組むこと

教科書

情報リテラシー <改訂版> Windows 10・Office 2016対応

FOM出版 ISBNコード: 978-4-86510-344-1

参考書

授業中に随時紹介します

備考

実際に操作しないと身に付きませんので、本授業時間以外でも操作・活用しましょう。

社会と倫理（99302）

前期

Social and Ethics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	唐川千秋 奥本寛 水田直美 加藤敬史 村山公保 小出肇 水野恭志 川上幸之介 山崎功晴 泉礼司 岡田誠剛 徳田美智 高橋良平 武光浩史

授業の概要

教養科目のうち、「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ことを目的とする導入科目の1つにあたる。

現代社会で生活していくなかで直面するであろう、さまざまな倫理的課題について、自分の生き方や価値観に照らし合わせながら、どのように解決していくのかを考えることで、社会の一員として必要な、確固とした倫理観・態度を形成することを目的とする。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。

- ・ 授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
- ・ 課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
- ・ 授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- (1) 現代社会に存在するさまざまな倫理的な問題について多面的に考え、自分の言葉で表現することができる。
- (2) 根拠に基づいて、自分の意見を主張したり、他人の意見を評価・批判（critical thinking）したりすることができる。

評価方法

各回の小テストないしは小レポート（3点×15回＝45点）（到達目標1）、および最終レポート（55点）（到達目標2）で評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

履修登録者数が教室収容定員数を超える場合、水曜日1時限に2クラスを同時開講する。クラス分けについては別途指示する。

授業計画

【Aクラス】

- 1週目：オリエンテーション（動物生命科学科・唐川）
- 2週目：芸術と倫理（1） 映画・テレビ・ITの倫理（メディア映像学科・小出）
- 3週目：芸術と倫理（2） PC（ポリティカル・コレクトネス）と表現の変遷・自由（メディア映像学科・水田）
- 4週目：芸術と倫理（3） 現代アートと倫理（デザイン芸術学科・川上）
- 5週目：企業と倫理（1） 情報化社会と倫理（危機管理学科・村山）
- 6週目：企業と倫理（2） 経世済民（経済）の歴史と倫理（危機管理学科・高橋）
- 7週目：犯罪被害者支援の現状と課題（危機管理学科・徳田／外部講師）
- 8週目：科学技術と倫理（1） 責任ある研究活動（生命科学科・奥本）
- 9週目：科学技術と倫理（2） 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値（生命科学科・山崎）
- 10週目：科学技術と倫理（3） 科学技術の発展と環境破壊（健康科学科・加藤敬史）

11週目：生命と倫理（１） ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント（動物生命科学科・唐川）
12週目：生命と倫理（２） 人間の尊厳、尊厳死、脳死と臓器移植（健康科学科・水野・外部講師）
13週目：生命と倫理（３） ユニバーサルデザイン教育と特別支援教育（生命医科学科・泉）
14週目：自然環境と倫理（１） 再生医療・遺伝子診断・優生学の問題（生命医科学科・岡田）
15週目：自然環境と倫理（２） 動物の福祉（動物生命科学科・武光浩史）

【Bクラス】

1週目：オリエンテーション（動物生命科学科・唐川）
2週目：科学技術と倫理（１） 責任ある研究活動（生命科学科・奥本）
3週目：科学技術と倫理（２） 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値（生命科学科・山崎）
4週目：科学技術と倫理（３） 科学技術の発展と環境破壊（健康科学科・加藤敬史）
5週目：芸術と倫理（１） 映画・テレビ・ITの倫理（メディア映像学科・小出）
6週目：芸術と倫理（２） PC（ポリティカル・コレクティブネス）と表現の変遷・自由（メディア映像学科・水田）
7週目：芸術と倫理（３） 現代アートと倫理（デザイン芸術学科・川上）
8週目：生命と倫理（１） ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント（動物生命科学科・唐川）
9週目：生命と倫理（２） 人間の尊厳、尊厳死、脳死と臓器移植（健康科学科・水野・外部講師）
10週目：生命と倫理（３） ユニバーサルデザイン教育と特別支援教育（生命医科学科・泉）
11週目：自然環境と倫理（１） 再生医療・遺伝子診断・優生学の問題（生命医科学科・岡田）
12週目：自然環境と倫理（２） 動物の福祉（動物生命科学科・武光浩史）
13週目：企業と倫理（１） 情報化社会と倫理（危機管理学科・村山）
14週目：企業と倫理（２） 経世済民（経済）の歴史と倫理（危機管理学科・高橋）
15週目：犯罪被害者支援の現状と課題（危機管理学科・徳田／外部講師）

授業外学習

学習時間の目安：各回４時間

各回のトピックについて、参考図書・資料をもとに省察的な思考や自己モニタリングを行い、「何が問題となっているのか」「自分は、どのような論拠に基づいてどのように考えるのか」を自分の言葉で表現できるようにする。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位

担当教員

 田丸稔
 磯谷晴弘
 松岡智子
 クリスウォルトン
 井上昌崇
 張慶南
 柳田宏治
 吉田磨希
 森山知己
 川上幸之介
 後藤秀典
 正宗幸子

授業の概要

人々の暮らしや社会において芸術の果たす役割は大きく、様々な芸術活動が暮らしや社会に影響を与える場面が増えている。このような芸術の状況を概観し、その価値や可能性を理解することを目的とする。講義は、芸術の中でも特にデザイン、美術、工芸の領域を中心に、これら芸術諸分野の専門家によるオムニバス形式とし、それぞれの分野における暮らしと芸術の関係について歴史や今日の状況、未来への課題等を事例研究を交えて議論する。

到達目標

- 1 暮らしの中に存在する芸術について、歴史や今日の状況、未来への課題等について理解できるようになる。
- 2 人間の本質を理解し、人間性を尊重できる。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢（20％）、講義中の小テスト（80％）を基準として総合的に評価する。（到達目標1・2を評価）

注意事項

特になし。

授業計画

- 1.オリエンテーション：学科長（後藤）より
- 2.日本美術史について：松岡
- 3.西洋美術について：ゲストスピーカー
- 4.美術系1（絵画について）：近藤（千）
- 5.美術系2（日本画について）：森山
- 6.美術系3（彫刻について）：田丸
- 7.美術系4（現代アートについて）：川上
- 8.工芸系1（ガラス工芸について）：磯谷
- 9.工芸系2（ガラス工芸について）：張
- 10.工芸系3（陶芸について）：井上
- 11.デザイン系1（プロダクトデザインについて）：柳田
- 12.デザイン系2（イラストレーションについて）：ウォルトン
- 13.デザイン系3（イラストレーションについて）：吉田
- 14.デザイン系4（ファッションデザインについて）：正宗
- 15.デザイン系5（ビジュアルデザインについて）：後藤

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

シラバスをチェックし、次の講義に備えて不明な点や質問事項を挙げる。受講後は、講義内容と身の回りの芸術作品について検討する。詳細は授業中に説明する。

教科書

使用しない。適宜プリントなどを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

(無し)

コンピュータリテラシ（99304）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 高木翔土

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1) コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2) パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3) パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
- 4) プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5) インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題(以下の3つ)の達成度によって評価する。

- ・ Word：文書作成(到達目標1, 2, 5)
- ・ Excel：表計算とグラフ作成(到達目標1, 3)
- ・ PowerPoint：自己紹介用スライド作成(到達目標1, 4, 5)

注意事項

- ・ 生命医学科 1 年次必修科目であり、臨床検査技師国家試験の一部に対応している。
- ・ 本講義は大学設備を使用し実施する都合上、学年を2つに分けているので自分が取得すべき授業番号をよく確認すること。

授業計画

- 1 講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法についてなど）
- 2 GoogleClassroomについて①
- 3 GoogleClassroomについて②
- 4 コンピュータの構造、基本操作、タイピング
- 5 インターネットの活用、利用マナー
- 7 セキュリティとトラブルシューティング
- 8 Word① 文書の体裁、ビジネス文書の作成
- 9 Word② 表や図の活用と編集
- 10 Excel① データ入力とワークシート編集
- 11 Excel② 表計算、関数の利用
- 12 Excel③ グラフ作成
- 13 PowerPoint① 基本操作
- 14 PowerPoint② 図、表の活用と編集
- 15 Powerpoint③ わかりやすいスライド作成

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

コンピュータリテラシ（99305）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 B
単位数	2. 0 単位
担当教員	 織田樹紀

授業の概要

日常で利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を体系的に学ぶ。収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成ができるようになる。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて表する演習を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、GoogleClassroomを活用して、課題をGoogleClassroomを通して提示し、提出してもらいます。

到達目標

- 1.コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する
- 2.コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
- 3.インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
- 4.文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
- 5.表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
- 6.プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
- 7.学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウィルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
- 8.画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

期末定期試験は実施しない。

授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%(到達目標1,4,5,6)

授業時間中に実施する小テスト：25%(到達目標2,7,8)

グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%(到達目標3,6,8)

注意事項

特になし。

手元にデータを保存しておきできれば、USBメモリ(容量は数GB程度あればよい)を持参

授業計画

1. コンピュータの構造と基本操作、GoogleClassRoomの使い方(1)
2. インターネット概論とタイピング、GoogleClassRoomの使い方(2)
3. インターネットの活用 インターネットの基本知識と利用マナー
4. セキュリティと情報倫理、サイバー犯罪、コンピューターウィルスとセキュリティ
5. Word(1)文書入力
6. Word(2)表現力を向上させよう
7. Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について

8. Excel(1)データ入力とワークシート編集
 9. Excel(2)データベースの活用
 10. Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
 11. Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点
 12. PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識
 13. PowerPoint(2) スライドの作成
 14. PowerPoint(3)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 15. グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業前に指定テキストの操作方法、Webにある動画を確認しておく

こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること

個人課題・グループ課題を出題するので必ず取り組み終わらせること

タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に（少なくとも10分～15分程度）に取り組むこと

教科書

情報リテラシー <改訂版> Windows 10・Office 2016対応

FOM出版 ISBNコード: 978-4-86510-344-1

参考書

授業中に随時紹介します

備考

実際に操作しないと身に付きませんので、本授業時間以外でも操作・活用しましょう。

Statistics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 洲脇史朗

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群にあたる。
数学的理論より統計学的考え方の直観的理解を重視し、特に記述統計学の基本概念について具体的な問題の解法例を参照しながら進める。

到達目標

- 1.統計に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
- 2.研究論文で必要とされる検定の考えを理解し応用できる。

評価方法

到達目標Ⅰ：毎回の課題提出（４０％），定期試験（２０％）
到達目標Ⅱ：定期試験（４０％）

注意事項

ルート（平方根）を計算出来る電卓を持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	度数分布
第2回	代表値
第3回	分散
第4回	相関係数
第5回	確率変数
第6回	正規分布
第7回	二項分布
第8回	母集団と標本
第9回	区間推定 1
第10回	区間推定 2
第11回	母平均の検定 1
第12回	母平均の検定 2
第13回	母分散の検定
第14回	母比率の検定
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
前回到学んだ内容を必ず復習してから授業に臨むこと。

毎回の課題を自分の力で、確実に実行すること。

教科書

はじめての統計 1 5 講

著者 小寺 平治

発行所 講談社

参考書

適宜紹介する。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

倉敷と仕事（99307）

前期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 21 B,Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 橋元純也  菅正樹

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

みずからの大学生活と関連づけながら〈地域への視点〉と〈将来への視点〉をともに身につけ、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。

第1・2回で、大学生活において〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につける重要性を確認する。第3～7回で、倉敷市の歴史・文化・特徴、まちづくりの理念・施策・取りくみ事例などを題材に、おもに〈地域への視点〉についてまなび、第8回の中間まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。第9～14回で、地域産業・社会人基礎力・インターンシップ・人生設計・キャリアデザインなどを題材に、おもに〈将来への視点〉についてまなび、第15回の期末まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な必修科目である。

【フィードバック】各回の提出用紙の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち9回の授業において、公益財団法人有隣会・倉敷市文化振興財団・倉敷青年会議所、および倉敷市の商工労働部・企画経営室・防災危機管理室、さらに朋社会保険労務士事務所・株式会社はたらこらぼ・D－INTERNSHIP実行委員会事務局から講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につけるための講話やワークをおこなう。

到達目標

- 1.倉敷市を題材にした地域社会の課題と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- 2.みずからが身につけた〈地域への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。
- 3.キャリアデザインの重要性や方法と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- 4.みずからが身につけた〈将来への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第01～07回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標1を評価

第08回の中間まとめ時における作成レポートの状況・内容（20％）：到達目標2を評価

第09～14回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標3を評価

第15回の期末まとめ時における作成レポートの状況・内容（20％）：到達目標4を評価

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス／「くらしき若衆」認定制度について（橋元・菅） 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第2回	〈地域への視点〉と〈将来への視点〉（橋元・菅） 予習：大学入学前に経験した地域学習・地域活動について整理する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第3回	地域講師講演「倉敷に宿る大原精神」（橋元・菅） 予習：公益財団法人有隣会について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。

回数	内容
第4回	地域講師講演「倉敷の歴史と文化」（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ＞市の概要」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第5回	「倉敷の地域づくりの現状と今後の展望」（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ＞市政について」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第6回	「倉敷の安心・安全をめぐる地域課題」（橋元・菅） 予習：防災情報ポータルサイト「倉敷防災ポータル」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第7回	地域講師講演「地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について」（橋元・菅） 予習：倉敷市移住ポータルサイト「くらしきで暮らす」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第8回	〈地域への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第3～7回の内容を整理し、〈地域への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。
第9回	地域講師講演「地域貢献と産業の活性化」（橋元・菅） 予習：青年会議所について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第10回	「仕事や人との関わり：社会人基礎力」（橋元・菅） 予習：社会人基礎力について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第11回	地域講師講演「キャリア形成とインターンシップ」（橋元・菅） 予習：「龍の仕事展」公式HPを調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第12回	地域講師講演「生涯人生設計と就職に向けて」（橋元・菅） 予習：就職活動について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第13回	キャリアデザイン入門①（橋元・菅） 予習：大学HP「トップ＞就職支援課」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第14回	キャリアデザイン入門②（橋元・菅） 予習：SPI・適性検査について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第15回	〈将来への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第9～14回の内容を整理し、〈将来への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：授業内容を配布資料などで整理する。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	2 年
対象	26 ～ 26 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 箕口けい子  高木加奈絵

授業の概要

地域社会の構成員として活躍できる能力を育成する科目である。

自分を振り返り、自分の進むべき方向性を明確にするための情報を知ることにより、地域社会の構成員として主体的に活動できる能力や姿勢を育成する科目である。

現代の激動する社会に対応するためには、大学 4 年間で幅広い教養と専門的知識の習得が必要である。同時に、時間的余裕のある大学時代は今までの自分を振り返り、自分の将来について考える、すなわち自分の人生設計について考えるよい機会でもある。「人生と仕事」は自分が今後就職し、どのような生き方をするか考えるためのヒントを提供する科目である。

そこで、講義では経験談を通しての人生設計について、また就職活動を行う上で必要となる知識に関する分野（エントリーシートの書き方、プレゼンテーション力、ビジネスマナーなど）（「就職に向けて」）と就職先となる様々な職業・職種についての知識に関する分野（「業界研究」）について、人生の先輩、企業人及び業界経験者からリレー方式で講話してもらう。

【アクティブラーニング】一部の授業ではグループワーク・グループディスカッションを取り入れている。

【実務経験のある教員による授業科目】学生の就業力を高めるために、「仕事の意義や重要性」「ビジネスマナー」「模擬面接・集団討論」「プレゼンテーション力」「自己分析・企業分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」をテーマにして、学外から招聘した講師（実務家）による授業が計6回実施される。さらに業界研究として、「メディア・映像系」「化学・食品・薬品系」「健康・医療系」「マーケティング・販売系」「マスコミ・広告代理店系」「情報・IT系」の分野ごとに、実務家の講師による授業が計6回実施される。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。

- ・課題は Google Classroom を通じて提示し、提出していただきます。
- ・都度、必要な資料、確認しておくべき Web サイトなどを提示します。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにします。

到達目標

1. 将来の仕事・職種を考えるための知識を学び、自己実現の方法をしっかりと考え・実践することができる。
2. 自己表現力、ビジネスマナー等を含めた「社会人基礎力」を身につけることの大切さを認識し、それに取り組むことができる。
3. 様々な業界・業種について理解し、就職へのヒントを得ることができる。

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト（出席票への記載）50%（到達目標1, 2、3を評価）、期末レポート50%（到達目標 1、2、3を評価）の割合で総合的に評価する。

注意事項

1. 各自が授業前に資料と出席票を取りに来ること。
2. 提出された出席票で授業内容の確認が行われ、評価される。
3. 授業時に配布される資料等はファイルしておくこと。
4. 遅刻・私語・他者に迷惑を掛ける行為は厳禁とする。
5. 授業には主体的、積極的に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（箕口・高木）
第2回	経験に基づく人生設計（原浩之）
第3回	就職に向けて I 仕事入門講座（土井：倉敷市）

回数	内容
第4回	就職に向けてⅡ ビジネスマナーについて（平田真由美）
第5回	就職に向けてⅢ プレゼンテーション力について（濱家輝雄）
第6回	就職に向けてⅣ 模擬面接・集団討論について（平田真由美）
第7回	就職に向けてⅤ 自己分析・履歴書・エントリーシートの書き方(末広：ハローワーク)
第8回	業界研究Ⅰ 化学・食品・薬品系（岡憲明）
第9回	就職に向けてⅥ 暮らしの中の税(千代延：倉敷税務署)
第10回	業界研究Ⅱ 医療現場で働くこと（佐藤正和）
第11回	業界研究Ⅲ 情報・IT・企業系（村山公保）
第12回	就職に向けてⅦ SPI問題対策について（箕口けい子）
第13回	業界研究Ⅳ 健康づくり産業について（岸本光顕）
第14回	業界研究Ⅴ デザイン系（正宗幸子）
第15回	総まとめ、レポート/アンケート（箕口・高木）

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・授業の前に『授業計画』に目を通し、受講後は、レジュメ等を見ながら何を学んだのか、何を得たのかを考える。
- ・授業で学んだ内容を日常生活の中で、意識して実践する。
- ・絶えず新聞・テレビ等を通して、社会の動向を充分に把握しておく。

教科書

授業開始時にレジュメ・資料等を配布する。

参考書

授業時に適宜指示する。

備考

倉敷と仕事（99309）

前期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 21 W,W,W,M
単位数	2．0 単位
担当教員	 橋元純也  菅正樹

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

みずからの大学生活と関連づけながら〈地域への視点〉と〈将来への視点〉をともに身につけ、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。

第1・2回で、大学生活において〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につける重要性を確認する。第3～7回で、倉敷市の歴史・文化・特徴、まちづくりの理念・施策・取りくみ事例などを題材に、おもに〈地域への視点〉についてまなび、第8回の中間まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。第9～14回で、地域産業・社会人基礎力・インターンシップ・人生設計・キャリアデザインなどを題材に、おもに〈将来への視点〉についてまなび、第15回の期末まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な必修科目である。

【フィードバック】各回の提出用紙の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち9回の授業において、公益財団法人有隣会・倉敷市文化振興財団・倉敷青年会議所、および倉敷市の商工労働部・企画経営室・防災危機管理室、さらに朋社会保険労務士事務所・株式会社はたらこらぼ・D－INTERNSHIP実行委員会事務局から講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につけるための講話やワークをおこなう。

到達目標

- 1.倉敷市を題材にした地域社会の課題と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- 2.みずからが身につけた〈地域への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。
- 3.キャリアデザインの重要性や方法と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- 4.みずからが身につけた〈将来への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第01～07回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標1を評価

第08回の中間まとめ時における作成レポートの状況・内容（20％）：到達目標2を評価

第09～14回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標3を評価

第15回の期末まとめ時における作成レポートの状況・内容（20％）：到達目標4を評価

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス／「くらしき若衆」認定制度について（橋元・菅） 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第2回	〈地域への視点〉と〈将来への視点〉（橋元・菅） 予習：大学入学前に経験した地域学習・地域活動について整理する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第3回	地域講師講演「倉敷に宿る大原精神」（橋元・菅） 予習：公益財団法人有隣会について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。

回数	内容
第4回	地域講師講演「倉敷の歴史と文化」（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ＞市の概要」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第5回	「倉敷の地域づくりの現状と今後の展望」（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ＞市政について」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第6回	「倉敷の安心・安全をめぐる地域課題」（橋元・菅） 予習：防災情報ポータルサイト「倉敷防災ポータル」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第7回	地域講師講演「地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について」（橋元・菅） 予習：倉敷市移住ポータルサイト「くらしきで暮らす」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第8回	〈地域への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第3～7回の内容を整理し、〈地域への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。
第9回	地域講師講演「地域貢献と産業の活性化」（橋元・菅） 予習：青年会議所について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第10回	「仕事や人との関わり：社会人基礎力」（橋元・菅） 予習：社会人基礎力について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第11回	地域講師講演「キャリア形成とインターンシップ」（橋元・菅） 予習：「龍の仕事展」公式HPを調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第12回	地域講師講演「生涯人生設計と就職に向けて」（橋元・菅） 予習：就職活動について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第13回	キャリアデザイン入門①（橋元・菅） 予習：大学HP「トップ＞就職支援課」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第14回	キャリアデザイン入門②（橋元・菅） 予習：SPI・適性検査について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第15回	〈将来への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第9～14回の内容を整理し、〈将来への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：授業内容を配布資料などで整理する。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

コンピュータリテラシ（99311）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 Y
単位数	2．0 単位
担当教員	 高木翔土

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1) コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2) パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3) パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
- 4) プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5) インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題(以下の3つ)の達成度によって評価する。

- ・ Word：文書作成(到達目標1, 2, 5)
- ・ Excel：表計算とグラフ作成(到達目標1, 3)
- ・ PowerPoint：自己紹介用スライド作成(到達目標1, 4, 5)

注意事項

- ・ 生命医学科 1 年次必修科目であり、臨床検査技師国家試験の一部に対応している。
- ・ 本講義は大学設備を使用し実施する都合上、学年を2つに分けているので自分が取得すべき授業番号をよく確認すること。

授業計画

- 1 講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法についてなど）
- 2 GoogleClassroomについて①
- 3 GoogleClassroomについて②
- 4 コンピュータの構造、基本操作、タイピング
- 5 インターネットの活用、利用マナー
- 7 セキュリティとトラブルシューティング
- 8 Word① 文書の体裁、ビジネス文書の作成
- 9 Word② 表や図の活用と編集
- 10 Excel① データ入力とワークシート編集
- 11 Excel② 表計算、関数の利用
- 12 Excel③ グラフ作成
- 13 PowerPoint① 基本操作
- 14 PowerPoint② 図、表の活用と編集
- 15 Powerpoint③ わかりやすいスライド作成

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

刑事法と民事法の内容および法目的が違うことを理解し、社会生活における法律の重要性や裁判所の役割などの幅広い知識を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、刑事裁判の仕組み、裁判員制度の意義、刑事政策の目的など日常生活に密接に関係するものから、広く市民生活全般に関係するプライバシー権（個人情報）の尊重、基本的人権の思想、世界的に変遷しつつある家族関係の変化などを通じて現代社会の現状がどうなっているのかを知るようにする。自分独自の視点を持って問題の指摘と意見が言えることが大切なので、毎回、小プリントを配布して感想と質問を書いてもらう。次回の授業でそれに対する意見を述べたり返答をすることによって授業へのフィードバックを明確にする。アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

- 1）刑事法と民事法とが区別出来るようになる。
- 2）裁判制度について理解する。
- 3）基本的人権について理解する。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合20%（到達目標1~3を評価）

授業内容への積極的な参加（毎回の感想）：評価割合20%（到達目標1~3を評価）

確認チェック・テスト（3回を予定）：評価割合30%（到達目標1~3を評価）

論述：評価割合30%（到達目標1~3を評価）

* 合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第1回 法学の進め方について説明する。まず法学の基本原則を学び、その後に大枠のテーマとして4つの分野を学ぶ。各テーマ毎の特徴について説明するので、法学で何を学び、何を身につけるのかを理解する。毎回配布して回収する意見・質問用紙の使い方について説明するので、これを積極的に活用出来るようになる。

第2回 法学の基礎として裁判制度と法体系について学ぶ。法の一般原則や裁判制度について理解出来るようになる。意見・質問用紙への回答を行うので、授業内容の理解が深まることを確認出来る。

第3回 刑事法と民事法の区別について学ぶ。民事法の目的と内容および刑事法の目的と内容について理解出来るようになる。

第4回 刑事法（1）：刑事法について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては裁判員制度について学ぶので、民間人を登用する参審制と陪審制の違いを理解出来るようになる。

第5回 刑事法（2）：刑事法についての2回目。今回の小テーマとしては刑事手続きと刑罰の種類について学ぶので、刑罰を科す目的を理解出来るようになる。

第6回 刑事法（3）：刑事法についての3回目。今回の小テーマとしては罪刑法定主義と犯罪報道について学ぶので、警察に逮捕されると未だ起訴されていないのに犯罪者扱いされる日本の報道の慣行について理解出来るようになる。

第7回 刑事法（4）：刑事法についての4回目。今回の小テーマとしては少年法について学ぶので、未成年者には原則として刑罰が科されないことを理解出来るようになる。

第8回 ネット社会とマスコミ報道（1）：ネット社会の特徴について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては高度情報化社会の特質と将来像について学ぶので、これからの社会にとっての「情報」の意味について理解出来るようになる。

第9回 ネット社会とマスコミ報道（2）：ネット社会の特徴についての2回目。今回の小テーマとしては報道の自由とプライバシー権について学ぶので、なぜ個人情報保護法が成立し、しかし、現実には個人情報はどう扱われようとしているのかについて理解出来るようになる。

第10回 ネット社会とマスコミ報道（3）：ネット社会の特徴についての3回目。今回の小テーマとしてはマスコミ報道がなぜ陳腐化したかについて学ぶので、ネット社会が情報独占を解き、個人でも自由に発信出来るようになったことによる長所と短所について理解・説明出来るようになる。

第11回 ネット社会とマスコミ報道（4）：ネット社会の特徴についての4回目。今回の小テーマとしてはビッグデータと個人情報について学ぶので、今日の社会における「個人情報」が飛躍的に重要になった現実を理解出来るようになる。

第12回 家族制度の変化（1）：現実問題としての家族制度の変化について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては20世紀を通じて徐々に進展してきた伝統的な家族関係の崩壊と再編について学ぶので、今、家庭内で何が起きているのかを理解出来るようになる。

第13回 家族制度の変化（2）：家族制度の変化についての2回目。今回の小テーマとしては婚姻制度の歴史と現状について学ぶので、現代人の意識と法制度が矛盾を起こしていることを理解出来るようになる。

第14回 家族制度の変化（3）：家族制度の変化についての3回目。今回の小テーマとしては親子関係が法律上どう規定されているかについて学ぶので、法的な枠組みと現実の社会がどのように齟齬を起こしているかを理解出来るようになる。

第15回 家族制度の変化（4）：家族制度の変化についての4回目。今回の小テーマとしては国際的な家族制度の変化について学ぶので、世界的な潮流としての家族関係の再編成が起きていることを理解出来るようになる。毎回提出してもらった意見・質問用紙への回答をまとめるので、授業内容の理解が深まる。

授業外学習

第1回 毎回プリントを配布して、論点となるテーマとそれに関連する時事問題を取り上げて学習する。普段聞くニュースと現実の社会が異なる場合も多々あるが、何が問題となっているのか疑問を持つことが大切である。「聞いて覚える」のではなく「考える」ことが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：裁判所の仕組みと裁判の方法について予め自分で調べることが大切である。復習：法の一般原則を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：民意法廷と刑事法廷の違いについて予め自分で調べることが大切である。復習：刑事法と民事法の区別が理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：裁判員制度の目的と仕組みを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：刑罰の種類と目的を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：マスコミ報道が罪刑法定主義に反する場合も多いことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：少年法について予め自分で調べることが大切である。復習：少年事件と成年の事件とは扱いが大きく異なることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：近年のマスコミ報道について予め自分で調べることが大切である。復習：高度情報化社会の特徴を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：日本国憲法に規定される表現の自由について予め自分で調べることが大切である。復習：プライバシー権の意義を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：ネット社会の特徴について予め自分で調べることが大切である。復習：ネット社会の進展に比例してマスコミ報道が陳腐化するようになった経緯を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：ビッグデータとは何かについて予め自分で調べることが大切である。復習：個人情報の集まりであるビッグデータの重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：家族法の規定について予め自分で調べることが大切である。復習：伝統的な家族関係が今日では大きく変化しつつあることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：家族法（婚姻制度）について予め自分で調べることが大切である。復習：婚姻制度の変遷を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第14回 予習：家族法（親子関係）について予め自分で調べることが大切である。復習：親子関係の変化を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：世界的な家族関係の現況を理解し、プリントのテーマをおさらいする。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計60時間

教科書

毎回、プリントを配布する。

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

Statistics
教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 洲脇史朗

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群にあたる。
数学的理論より統計学的考え方の直観的理解を重視し、特に記述統計学の基本概念について具体的な問題の解法例を参照しながら進める。

到達目標

- 1.統計に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
- 2.研究論文で必要とされる検定の考えを理解し応用できる。

評価方法

到達目標Ⅰ：毎回の課題提出（４０％），定期試験（２０％）
到達目標Ⅱ：定期試験（４０％）

注意事項

ルート（平方根）を計算出来る電卓を持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	度数分布
第2回	代表値
第3回	分散
第4回	相関係数
第5回	確率変数
第6回	正規分布
第7回	二項分布
第8回	母集団と標本
第9回	区間推定 1
第10回	区間推定 2
第11回	母平均の検定 1
第12回	母平均の検定 2
第13回	母分散の検定
第14回	母比率の検定
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
前回到学んだ内容を必ず復習してから授業に臨むこと。

毎回の課題を自分の力で、確実に実行すること。

教科書

はじめての統計 1 5 講

著者 小寺 平治

発行所 講談社

参考書

適宜紹介する。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

Biology

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲 明  加計 悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。
アクティブラーニング（調査学習）：この授業では、バイオテクノロジーや生物学分野のノーベル賞など私たちの生活にかかわる先端の生物学研究について調べ、課題レポートしてまとめることを課している。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10％（到達目標1を評価）、課題レポート20％（到達目標2を評価）、定期試験70％（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡） 課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計） 課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・ 予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。
- ・ 各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・ 課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

（なし）

倉敷と仕事（99355）

後期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 21 K,N,R,,
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也  菅正樹

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

みずからの大学生活と関連づけながら〈地域への視点〉と〈将来への視点〉をともに身につけ、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。

第1回で、大学生活において〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につける重要性を確認する。第2～5回で、倉敷市の歴史・文化・特徴、まちづくりの理念・施策・取りくみ事例などを題材に、おもに〈地域への視点〉についてまなび、第6回の中間まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。第7～14回で、地域産業・社会人基礎力・インターンシップ・人生設計・キャリアデザインなどを題材に、おもに〈将来への視点〉についてまなび、第15回の期末まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な必修科目である。

【フィードバック】各回の提出用紙の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち9回の授業において、公益財団法人有隣会・倉敷市文化振興財団・倉敷青年会議所、および倉敷市の商工労働部・企画経営室・防災危機管理室、さらに朋社会保険労務士事務所・株式会社はたらこらぼ・D－INTERNSHIP実行委員会事務局から講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につけるための講話やワークをおこなう。

到達目標

- 1.倉敷市を題材にした地域社会の課題と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- 2.みずからが身につけた〈地域への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。
- 3.キャリアデザインの重要性や方法と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- 4.みずからが身につけた〈将来への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第01～05回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標1を評価

第06回の中間まとめ時における作成レポートの状況・内容（20％）：到達目標2を評価

第07～14回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標3を評価

第15回の期末まとめ時における作成レポートの状況・内容（20％）：到達目標4を評価

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス / 「くらしき若衆」認定制度について（橋元・菅） 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第2回	地域講師講演「倉敷に宿る大原精神」（橋元・菅） 予習：公益財団法人有隣会について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第3回	地域講師講演「倉敷の歴史と文化」（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ＞市の概要」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。

回数	内容
第4回	地域講師講演「倉敷の地域づくりの現状と今後の展望」（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ>市政について」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第5回	地域講師講演「倉敷の安心・安全をめぐる地域課題」（橋元・菅） 予習：防災情報ポータルサイト「倉敷防災ポータル」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第6回	〈地域への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第2～5回の内容を整理し、〈地域への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。
第7回	地域講師講演「地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について」（橋元・菅） 予習：倉敷市移住ポータルサイト「くらしきで暮らす」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第8回	〈将来への視点〉と大学生活（橋元・菅） 予習：大学入学前に経験した地域学習・地域活動について整理する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第9回	地域講師講演「地域貢献と産業の活性化」（橋元・菅） 予習：青年会議所について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第10回	「仕事や人との関わり：社会人基礎力」（橋元・菅） 予習：社会人基礎力について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第11回	地域講師講演「キャリア形成とインターンシップ」（橋元・菅） 予習：「龍の仕事展」公式HPを調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第12回	地域講師講演「生涯人生設計と就職に向けて」（橋元・菅） 予習：就職活動について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第13回	キャリアデザイン入門①（橋元・菅） 予習：大学HP「トップ>就職支援課」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第14回	キャリアデザイン入門②（橋元・菅） 予習：SPI・適性検査について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第15回	〈将来への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第7～14回の内容を整理し、〈将来への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：授業内容を配布資料などで整理する。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	2 年
対象	26 ～ 26 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 箕口けい子  高木加奈絵

授業の概要

地域社会の構成員として活躍できる能力を育成する科目である。

自分を振り返り、自分の進むべき方向性を明確にするための情報を知ることにより、地域社会の構成員として主体的に活動できる能力や姿勢を育成する科目である。

現代の激動する社会に対応するためには、大学 4 年間で幅広い教養と専門的知識の習得が必要である。同時に、時間的余裕のある大学時代は今までの自分を振り返り、自分の将来について考える、すなわち自分の人生設計について考えるよい機会でもある。「人生と仕事」は自分が今後就職し、どのような生き方をするか考えるためのヒントを提供する科目である。

そこで、講義では経験談を通しての人生設計について、また就職活動を行う上で必要となる知識に関する分野（エントリーシートの書き方、プレゼンテーション力、ビジネスマナーなど）（「就職に向けて」）と就職先となる様々な職業・職種についての知識に関する分野（「業界研究」）について、人生の先輩、企業人及び業界経験者からリレー方式で講話してもらう。

【アクティブラーニング】一部の授業ではグループワーク・グループディスカッションを取り入れている。

【実務経験のある教員による授業科目】学生の就業力を高めるために、「仕事の意義や重要性」「ビジネスマナー」「模擬面接・集団討論」「プレゼンテーション力」「自己分析・企業分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」をテーマにして、学外から招聘した講師（実務家）による授業が計6回実施される。さらに業界研究として、「メディア・映像系」「化学・食品・薬品系」「健康・医療系」「マーケティング・販売系」「マスコミ・広告代理店系」「情報・IT系」の分野ごとに、実務家の講師による授業が計6回実施される。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。

- ・課題は Google Classroom を通じて提示し、提出していただきます。
- ・都度、必要な資料、確認しておくべき Web サイトなどを提示します。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにします。

到達目標

1. 将来の仕事・職種を考えるための知識を学び、自己実現の方法をしっかりと考え・実践することができる。
2. 自己表現力、ビジネスマナー等を含めた「社会人基礎力」を身につけることの大切さを認識し、それに取り組むことができる。
3. 様々な業界・業種について理解し、就職へのヒントを得ることができる。

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト（出席票への記載）50%（到達目標1, 2、3を評価）、期末レポート50%（到達目標 1、2、3を評価）の割合で総合的に評価する。

注意事項

1. 各自が授業前に資料と出席票を取りに来ること。
2. 提出された出席票で授業内容の確認が行われ、評価される。
3. 授業時に配布される資料等はファイルしておくこと。
4. 遅刻・私語・他者に迷惑を掛ける行為は厳禁とする。
5. 授業には主体的、積極的に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（箕口・高木）
第2回	経験に基づく人生設計（原浩之）
第3回	就職に向けて I 仕事入門講座（倉敷市役所）

回数	内容
第4回	就職に向けてⅡ プレゼンテーション力について（濱家輝雄）
第5回	就職に向けてⅢ ビジネスマナーについて（平田真由美）
第6回	就職に向けてⅣ 模擬面接・集団討論について（平田真由美）
第7回	業界研究Ⅰ 検査と健康（藤本一満）
第8回	業界研究Ⅱ デザイン系（正宗幸子）
第9回	業界研究Ⅲ 情報・IT・企業系（村山公保）
第10回	就職に向けてⅤ 自己分析・履歴書・エントリーシートの書き方(末広：ハローワーク)
第11回	業界研究Ⅳ 健康づくり産業について（岸本光顕）
第12回	就職に向けてⅥ SPI問題対策について（箕口けい子）
第13回	就職に向けてⅦ 暮らしの中の税（千代延：倉敷税務署）
第14回	業界研究Ⅴ 化学・食品・薬品系（岡憲明）
第15回	総まとめ、レポート/アンケート（箕口・高木）

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・授業の前に『授業計画』に目を通し、受講後は、レジュメ等を見ながら何を学んだのか、何を得たのかを考える。
- ・授業で学んだ内容を日常生活の中で、意識して実践する。
- ・絶えず新聞・テレビ等を通して、社会の動向を十分に把握しておく。

教科書

授業開始時にレジュメ・資料等を配布する。

参考書

授業時に適宜指示する。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 唐川千秋  クリスウォルトン  芦田雅子

授業の概要

芸術と科学の協調を目指した本学の設立理念を具体的に認識するために、研究成果の実例を挙げてオムニバス形式で概説する。歴史的にも芸術の変遷と科学の発展が互いに深い関係を有することを理解する。また、現在における芸術分野と科学分野の共同による研究動向に対する関心を高め、さらに将来に向けて芸術的なセンスや科学的な思考法を育成する。倉敷芸術科学大学での学びの基礎となる導入科目である。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「2-(1)大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」「4.芸術的なセンスや科学的な思考法に基づいた豊かな創造性を持って活躍できる力量を身につける」に対応させて目標を設定している。授業方法として、アクティブ・ラーニング（グループワーク）を取り入れている。

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッション、グループ・ワーク

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。

- ・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
- ・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- 1 芸術と科学の協調を目指した本学の設立理念を理解し説明できる。
- 2 芸術と科学の協調による研究や取組について理解し説明できる。
- 3 芸術的なセンスや科学的な思考法に基づいた豊かな創造性の基盤を身につける。
- 4 授業全体を通して、芸術と科学の協調の意義や重要性について理解し説明できる。

評価方法

毎回の授業で実施する小レポート等 60％（到達目標1・2・3を評価）と総合レポート 40％（到達目標4を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

「芸術と科学の協調」に関しては、芸術科学会（<http://www.art-science.org/>）のWebページで諸事例が紹介されているので授業内容の理解に役立つ。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス ＜唐川千秋・クリス ウォルトン・芦田雅子＞、本学における「芸術と科学の協調」＜学長＞
第2回	芸術と科学の協調に関する共同研究の成果報告その1 （学生と研究者の意見交換）＜共同研究担当者＞
第3回	芸術と科学の協調に関する共同研究の成果報告その2 （学生と研究者の意見交換）＜共同研究担当者＞
第4回	複製技術時代の芸術 ― 日本における写真の誕生 ＜松岡 智子＞
第5回	地域産業と観光：「倉敷生活デザイン展」を事例として ＜芦田 雅子＞
第6回	ビジュアルコミュニケーションの表現 ＜クリス・ウォルトン＞
第7回	創造性の心理 ＜唐川 千秋＞

回数	内容
第8回	日本画の線における価値の見つけ方 <森山 知己>
第9回	化石で見る生物の形の変遷 <加藤 敬史>
第10回	デジタルテクノロジーとものづくり <大屋 努>
第11回	がん細胞と芸術 <佐藤正和>
第12回	スポーツ科学から考える身体の形態と機能 <枝松 千尋>
第13回	SDG 多様性の今を「芸術：アート」で乗り切る！ <正宗 幸子>
第14回	テクノロジーがアートを加速する <中川 浩一>
第15回	まとめ・総合レポート作成 <唐川 千秋・クリス ウォルトン・芦田雅子>

授業外学習

・日頃からニュースや新聞等の視聴あるいはインターネットを通して、芸術と科学をめぐる情報を収集し、動向を把握するよう努めること。
・各授業で小レポート、最終回に総合レポートを作成するので、レポート作成に必要な基本事項を確認し、文章表現力を高めるよう努めること。

以上の活動や準備を含めて、合計60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

備考

コンピュータリテラシ（99401）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 27 K
単位数	2. 0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

日常生活のあらゆる場面で遭遇するさまざまなコンピュータシステムの基本構成要素となっているパーソナルコンピュータ（略称パソコン）の仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

具体的には、大学生としての学びについて理解した上で、学習・研究などの知的活動にコンピュータを活用するための理論と方法を学び、大学での学びの基礎となる資質能力を身につける。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワーク中心で学んでいく。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、Google Classroom(Googleドライブ)に提出する。

到達目標

1. タイピングを含めた情報機器の操作について自分自身でできることが増える。
2. 大学生としての学びについて理解し、学びのために情報機器を利用できる。
3. 文書作成ソフト・プレゼンテーションソフトの特徴を理解して、レポートや発表資料の作成に利用できる。
4. セキュリティを理解し、気をつけることの大切さがわかる。

評価方法

- ・定期試験100%(到達目標の1、2、3、4を評価)お重みで判定する。ただし、未提出のレポート(品質が低いレポートを含む)があったり、プレゼンテーションを行っていない回(品質が低いプレゼンテーションを含む)がある場合には、減点の対象となる。
- ・定期試験は「授業の振り返り」として実施する。内容は「自分が参加したチームの発表内容や他のチームの発表内容、課題への取り組みやグループワークでの貢献度、授業での発言」など、アピールポイントを論述するものとする。日頃の学修成果を試す試験となっているので、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、および、時間外学習に取り組むこと。

注意事項

- ・USBメモリを持参すること。USBメモリには学生番号・氏名を記入し、忘れたり、無くさないように注意すること。
- ・他のグループのメンバーに大きな迷惑となるので、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。
- ・記録に残すため、発表会等の授業風景を撮影することがある。(個人が特定されないように配慮するが、写りたくない人は事前に連絡をすること)

授業計画

回数	内容
第1回	授業の進め方、機材の使い方の説明、自己紹介文作成
第2回	自己紹介によるプレゼンテーションの練習、体験
第3回	大学生としての学びとテキスト入力
第4回	大学生としての学びとテキスト入力についてのグループワーク

回数	内容
第5回	大学生としての学びとテキスト入力についてのグループワークの結果の発表
第6回	文書作成ソフトの基礎
第7回	文書作成ソフトを使ったグループワーク
第8回	文書作成ソフトを使ったグループワークの結果の発表1
第9回	文書作成ソフトを使ったグループワークの結果の発表2
第10回	表計算ソフトの基礎
第11回	プレゼンテーションソフトの基礎とセキュリティと情報倫理・ネットマナー
第12回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワーク(セキュリティと情報倫理・ネットマナー)
第13回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワークの結果のプレゼンテーション1
第14回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワークの結果のプレゼンテーション2
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、定期試験でアピールできるようにする。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、グループワークのために授業時間外に5号館5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

なし

Earth Science

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 妹尾護

授業の概要

太陽の誕生から、その後の太陽系惑星の形成、そして地球誕生後約46億年の間に、海の誕生、生物の出現・進化、二酸化炭素の減少、酸素の増加、オゾン層の形成等、地球環境が自然システムの中でどのように変化してきたかを理解する。また、地球科学的事件（微惑星の衝突、大規模火山噴火等）によって、生物種の絶滅や人間生活への悪影響がどのようにして起こったか、その原因やプロセスを理解する。

到達目標

- 1．現在の人間活動による急激な環境変化を再考する機会とするために、約46 億年前の地球誕生から現在へと地球環境が自然のシステムの中でどのように変化してきたかを理解し説明できる。
- 2．地球科学的事件によって、生物や人間生活にどのような影響が及んだか、過去の大規模環境破壊の原因とそのプロセスについて理解し説明できる。

評価方法

ミニレポート 2 0 %（到達目標 1 を評価）、定期試験 8 0 %（到達目標 1、 2 を評価）により成績評価を行う。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、参考資料、授業外学習、評価方法等の説明）
第2回	隕石の種類とその起源
第3回	星の誕生と一生
第4回	原始太陽の誕生
第5回	太陽系惑星の形成
第6回	地球の誕生
第7回	地球の進化と地球環境の変化
第8回	地球の進化の歴史と現在の地球環境
第9回	地球科学的事件－過去に起こった生物種の絶滅（1）
第10回	地球科学的事件－過去に起こった生物種の絶滅（2）
第11回	地球科学的事件－過去に起こった生物種の絶滅（3）
第12回	地球科学的事件－火山活動と人間生活（1）
第13回	地球科学的事件－火山活動と人間生活（2）
第14回	地球科学的事件－火山活動の気候への影響
第15回	総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 60 時間

・前回の授業内容について復習するとともに、事前配布プリント等により、次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。

教科書

配布プリントを使用する。（教科書は使用しない）

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

授業ではスライドを多く使用するが、配布プリント資料を中心に授業を進める。

Biology

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 内藤 整  岡憲 明  加計 悟

授業の概要

自然や人間の理解を目的として現代生物学の基礎を学ぶとともに、身近な生物現象の検証を行う。

【アクティブラーニング】（調査学習）：この授業では、バイオテクノロジーや生物学分野のノーベル賞など私たちの生活にかかわる先端の生物学研究について調べ、課題レポートしてまとめることを課している。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14 （内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29 （岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47 （岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63 （岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78 （岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198 （岡） 課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92 （加計）
第8回	動物の組織と器官 （1）組織 教科書P93～99 （加計）
第9回	動物の組織と器官 （2）器官 教科書P99～107 （加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計） 課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・ 予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。
- ・ 各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・ 課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく！生物学」講談社、田村隆明（著）ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい 生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠（共編）ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

（なし）

コンピュータリテラシ（99404）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 M
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 プラダンスジット

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

具体的には、大学生としての学びについて理解した上で、学習・研究などの知的活動にコンピュータを活用するための理論と方法を学び、大学での学びの基礎となる資質能力を身につける。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワーク中心で学んでいく。

【アクティブラーニングの実施】グループディスカッション、グループワーク、問題解決学習、プレゼンテーション

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1．コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2．パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3．パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
- 4．プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5．インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題（以下の3つ）の達成度によって評価する。

- Word：仮実験結果報告書作成（到達目標1、2、5）
- Excel：仮実験結果を表すデータ表とグラフ作成（到達目標1、3）
- PowerPoint：仮実験結果発表用資料作成（到達目標1、4、5）

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法についてなど）
第2回	GoogleClassroom・Google Driveによるレポート作成・レポート保存について
第3回	GoogleClassroom・Google Driveによる課題・レポート提出について
第4回	グループワークのためグループ分け・テーマ決定
第5回	インターネットの活用、利用マナー・著作権などについて
第6回	Wordによる文章作成，書式設定，数式作成
第7回	Wordを用いたレポート作成

回数	内容
第8回	Excelの基本操作1（データ入力，修正，オートフィル，行・列の挿入と削除，簡単な数式の入力，罫線を引く，セルの書式設定）
第9回	Excelの基本操作2（フォント変更，文字色変更，セルの背景色変更，セルの結合（中央揃え），行・列の非表示，再表示，ウィンドウ枠の固定，印刷する，データの読み込み）
第10回	Excelによるデータ処理の基礎（相対参照，絶対参照，複合参照，関数）
第11回	Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
第12回	Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
第13回	Power Pointを用いたスライドの作成：図，動画の挿入
第14回	ExcelとPower Pointとの連携（グラフ作成），ExcelとPower Pointの総合的な到達度チェック
第15回	Power Pointを用いたグループ口頭発表実施

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「文化と芸術」系列の教養科目である。

宗教学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をとまなびながら現代社会・国際社会に対応・貢献するための、幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、宗教の要件・類型、および民族宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、世界宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、宗教学の立場から社会の諸問題をかんがえる視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 1.民族宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 2.世界宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 3.宗教学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 4.諸宗教・宗教学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第05回の1/3まとめ時におこなう解説文作成問題（30％）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標3・4を評価

注意事項

宗教・宗教学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス／宗教の要件と類型 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	ゾロアスター教／ヒンドゥー 予習：ゾロアスター教・ヒンドゥーの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	ユダヤ教／神道 予習：ユダヤ教・神道の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	儒教／道教 予習：儒教・道教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教の要件・類型、および民族宗教の諸相を整理する。
第6回	仏教 予習：仏教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	キリスト教 予習：キリスト教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	イスラーム / 新宗教 予習：イスラームの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	ニューエイジ・新宗教 予習：ニューエイジ・新宗教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：世界宗教の諸相を整理する。
第11回	宗教と芸術・象徴 予習：ダンテ『神曲』について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	宗教と消費文化・メディア 予習：宗教的題材のマンガ・アニメ・ゲームについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	宗教と国家・科学 予習：日本の仏教史・アメリカのキリスト教史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	宗教と暴力・差別 予習：宗教と暴力・差別とのかかわりについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教学の視点・方法・論点について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

コンピュータリテラシ（99406）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 M
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 ブラダンスジット

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

具体的には、大学生としての学びについて理解した上で、学習・研究などの知的活動にコンピュータを活用するための理論と方法を学び、大学での学びの基礎となる資質能力を身につける。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワーク中心で学んでいく。

【アクティブラーニングの実施】グループディスカッション、グループワーク、問題解決学習、プレゼンテーション

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1．コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2．パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3．パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
- 4．プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5．インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題（以下の3つ）の達成度によって評価する。

- Word：仮実験結果報告書作成（到達目標1、2、5）
- Excel：仮実験結果を表すデータ表とグラフ作成（到達目標1、3）
- PowerPoint：仮実験結果発表用資料作成（到達目標1、4、5）

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法についてなど）
第2回	GoogleClassroom・Google Driveによるレポート作成・レポート保存について
第3回	GoogleClassroom・Google Driveによる課題・レポート提出について
第4回	グループワークのためグループ分け・テーマ決定
第5回	インターネットの活用、利用マナー・著作権などについて
第6回	Wordによる文章作成，書式設定，数式作成
第7回	Wordを用いたレポート作成

回数	内容
第8回	Excelの基本操作1（データ入力，修正，オートフィル，行・列の挿入と削除，簡単な数式の入力，罫線を引く，セルの書式設定）
第9回	Excelの基本操作2（フォント変更，文字色変更，セルの背景色変更，セルの結合（中央揃え），行・列の非表示，再表示，ウィンドウ枠の固定，印刷する，データの読み込み）
第10回	Excelによるデータ処理の基礎（相対参照，絶対参照，複合参照，関数）
第11回	Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
第12回	Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
第13回	Power Pointを用いたスライドの作成：図，動画の挿入
第14回	ExcelとPower Pointとの連携（グラフ作成），ExcelとPower Pointの総合的な到達度チェック
第15回	Power Pointを用いたグループ口頭発表実施

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也  村山公保

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

倉敷市をはじめとするさまざまな地域のまちづくりを題材としながら、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる基礎的な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。

第1・2回で、本科目の地域連携科目としての位置づけや、まち歩きレポートの作成について確認する。第3～7回で倉敷市について、第10～13回で倉敷市以外について、それぞれのまちづくりの理念・施策・取りくみ事例などをまなぶ。第8・9・14・15回で、提出したまち歩きレポートにもとづき、まち歩きの成果について選抜発表会をおこなう。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブラーニング】フィールドワーク、プレゼンテーションを取りいれている。

【フィードバック】各自の提出物・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち8回以上の授業において、倉敷市歴史資料整備室・水島家守舎Nadia・ミズシマ盛りあげ隊・NPO法人倉敷町家トラスト・株式会社シャンテ（矢掛屋）・高松丸亀町商店街振興組合、および倉敷市中心部の各種事業所から講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が地域のまちづくりを身につけるための講話やワーク、フィールドワークの受け入れなどをおこなう。

到達目標

- 1.倉敷市におけるまちづくりの取りくみ事例について、理解し説明できる。
- 2.倉敷市以外におけるまちづくりの取りくみ事例について、理解し説明できる。
- 3.美観地区などにおけるまち歩きについて、予備的フィールドワークとして計画的に実践できる。
- 4.実践したまち歩きの成果について、文章や口頭によって明快に効果的に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第03～07回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標1を評価

第10～13回の提出物の状況・内容（30％）：到達目標2を評価

まち歩きレポートの提出状況・内容（40％）：到達目標3・4を評価

注意事項

後期科目「倉敷まちづくり実践論」の受講予定者は、本科目を事前に履修しておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス / 「くらしき若衆」認定制度について（橋元・村山）
第2回	倉敷のまちづくり概要 / まち歩きレポートについて（橋元・村山）
第3回	地域講師講演「倉敷の歴史と歴史資料整備室の活動」（倉敷市総務局総務部総務課 歴史資料整備室 山本太郎 氏）（橋元・村山）
第4回	地域講師講演「臨鉄ガーデンのまちづくり社会実験」（水島家守舎Nadia 土屋遼介 氏）（橋元・村山）
第5回	地域講師講演「まちづくりはまちで遊ぶこと」（ミズシマ盛りあげ隊 尾崎勝也 氏）（橋元・村山）
第6回	地域講師講演「美観地区住人によるまちづくり」（NPO法人倉敷町家トラスト 中村泰典 氏）（橋元・村山）
第7回	中間まとめ① 倉敷のまちづくり事例（橋元・村山）

回数	内容
第8回	まち歩きレポート 選抜発表会①（橋元・村山）
第9回	まち歩きレポート 選抜発表会②（橋元・村山）
第10回	地域講師講演「ゲストハウスによるまちづくり」（ELEVEN VILLAGE 田川寿一 氏）（橋元・村山）
第11回	地域講師講演「宿場町を復活させる矢掛屋の取り組み」（株式会社シャンテ（矢掛屋） 安達精治 氏）（橋元・村山）
第12回	地域講師講演「高松丸亀町商店街の再開発」（高松丸亀町商店街振興組合 古川康造 氏）（橋元・村山）
第13回	中間まとめ② 倉敷以外のまちづくり事例（橋元・村山）
第14回	まち歩きレポート 選抜発表会③（橋元・村山）
第15回	まち歩きレポート 選抜発表会④ / 期末まとめ（橋元・村山）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

第02回授業以降、美観地区などにおけるまち歩きを実践し、レポートを作成・提出する。提出は第1次期限（5月末）、第2次期限（6月末）のいずれかまでに、指定する方法でおこなう。作成中および提出後においても随時の指導を受けること。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

Mathematics

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 洲脇史朗

授業の概要

我々は小学校以来、算数や数学を学んできたが、そこでは「数学をなぜ学ぶのか」については深く考えてこなかった。しかし、数学を学ぶ目的を知らずして、数学を学ぶのは本末転倒である。

この授業では、「数学を学ぶ目的」から考察し、その目的を達成するためにはどのようにすれば良いのか、どのような課題をすれば良いのかを発見していく。

到達目標

- 1.「数学を学ぶ目的」を他人に説明できる。
- 2.「数学を学ぶ目的」を達成するための方法を数多く発見できる。

評価方法

到達目標Ⅰ：定期試験（30％）

到達目標Ⅱ：毎回の課題提出（40％），定期試験（30％）

注意事項

電卓、コンパス、定規を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	「学校の目的」
第2回	「学校の目的」を達成するために必要なこと。
第3回	「数学の目的」
第4回	「数学の目的」を達成するために必要なこと。
第5回	多くの答えがある、具体的課題Ⅰ
第6回	多くの答えがある、具体的課題Ⅱ
第7回	多くの答えがある、具体的課題Ⅲ
第8回	多くの答えがある、具体的課題Ⅳ
第9回	折り紙と数学Ⅰ
第10回	折り紙と数学Ⅱ
第11回	折り紙と数学Ⅲ
第12回	多くの答えがある、具体的課題Ⅴ
第13回	多くの答えがある、具体的課題Ⅵ
第14回	多くの答えがある、具体的課題Ⅶ
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

人に頼らず、必ず自分で考えること。

自分で考えたことを、他人に分かりやすく説明できること。

今後の発展につながること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特にない。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「文化と芸術」系列の教養科目である。

宗教学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をとまなびながら現代社会・国際社会に対応・貢献するための、幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、宗教の要件・類型、および民族宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、世界宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、宗教学の立場から社会の諸問題をかんがえる視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 1.民族宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 2.世界宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 3.宗教学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 4.諸宗教・宗教学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第05回の1/3まとめ時におこなう解説文作成問題（30％）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標3・4を評価

注意事項

宗教・宗教学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス／宗教の要件と類型 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	ゾロアスター教／ヒンドゥー 予習：ゾロアスター教・ヒンドゥーの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	ユダヤ教／神道 予習：ユダヤ教・神道の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	儒教／道教 予習：儒教・道教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教の要件・類型、および民族宗教の諸相を整理する。
第6回	仏教 予習：仏教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	キリスト教 予習：キリスト教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	イスラーム / 新宗教 予習：イスラームの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	ニューエイジ・新宗教 予習：ニューエイジ・新宗教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：世界宗教の諸相を整理する。
第11回	宗教と芸術・象徴 予習：ダンテ『神曲』について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	宗教と消費文化・メディア 予習：宗教的題材のマンガ・アニメ・ゲームについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	宗教と国家・科学 予習：日本の仏教史・アメリカのキリスト教史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	宗教と暴力・差別 予習：宗教と暴力・差別とのかかわりについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教学の視点・方法・論点について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照
復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 加藤敬史

授業の概要

地震はなぜ起こるのか、火山はなぜ限られた地域に集中して分布するのか。アフリカと南米に同じ生物の化石が発見されるのはなぜか、ヒマラヤ山頂に古生代の海の生物の化石が見つかるのはなぜか……。地球に対する我々の様々な疑問についてプレートテクトニクスという考え方は単純で明快な解答を導いている。この講義では1）地球内部の構造とプレートテクトニクス理論、2）プレート運動と生物の絶滅・進化の関わり、そして、3）日本列島の成因論ついて、プレート理論の成立の歴史をひもときつつ解説する。

到達目標

プレート運動によって引き起こされる地球の海陸分布の変化は、生命の進化や地球環境にも深く関わっている。この講義では、プレート理論の大枠と多くの要素が複雑に絡み合う地球システムを理解することを目標としている。

具体的には、

- 1）プレートとは何か、地球の構造とともに説明ができる（講義2-4）
- 2）プレート境界と大地形、地震・火山などの地質現象の関係を説明できる（講義6-9）
- 3）日本列島の形成をプレート運動によって説明できる（講義10-11）
- 4）プレート運動と地球環境、生物の進化の関連について説明ができるようになり、これらの理解から地球システムの概略をイメージできる様になること（講義12-14）

を到達目標としている。

評価方法

課題（20％、到達目標1-4を評価）、講義への意欲的な取り組み（10％）定期試験（70％、到達目標1-4を評価）の割合で評価する。なお、講義への意欲的な取組については、e-mailでの質問や、講義中の発言など、授業に参加し、積極的に学ぶ態度とその内容を考慮して評価する。

注意事項

この講義に関連して、生命科学部の講義、基礎地学1、基礎地学2（いずれも前期開講）を受講するとより理解が深まる。これらの科目については他学科履修を積極的に受け入れている。また、地球科学の理解を深めるため校外実習を行う場合がある。実施時期については講義最初のオリエンテーションで紹介する。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	地球の姿
第3回	地球の内部構造1（地球内部を観察する手法、地震波の性質）
第4回	地球の内部構造2（地震波で観察する地球の構造）
第5回	地質構造の成因と大陸移動説
第6回	プレートテクトニクスと地質構造1（プレートとは何か）
第7回	プレートテクトニクスと地質構造2（プレート境界と大地形）
第8回	プレートテクトニクスと地質構造3（沈み込み帯の地質現象）
第9回	付加体地質学
第10回	プレート運動から理解する日本列島の地質1（日本列島の基盤岩類）

回数	内容
第11回	プレート運動から理解する日本列島の地質2（日本列島構造発達史）
第12回	地球史を理解する手法（相対年代・絶対年代・地質年代区分）
第13回	地球環境の変遷とプレート運動2（地球史と大陸の配置）
第14回	地球環境の変遷とプレート運動3（地球史と大陸の配置）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

Google Classroom上に、講義で使用するスライド、予習復習の項目などが掲載されている。各回の指示をよく読んで、予習、復習を行うこと。また、各講義に課題やQuickQuizを提示してあるので講義の進行に合わせて提出すること（各講義の予習復習および課題については2時間程度で完了できるものを用意している）。※パソコン、スマホなどでのアクセスが困難な学生は手書きのレポートも受け付ける。

教科書

なし（配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する。）

参考書

なし（配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する。）

備考

特になし

History

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 時任英人

授業の概要

現在の日本社会は、突然現出したのではなく、歴史的経験の積み重ねで出来ている。とくに近代の歴史は複雑であるため、そのことを踏まえて深い認識をもつことなくしては、日本の内外の現在を理解することができなくなっている。例えば、近隣諸国との歴史認識の問題などが代表的である。それゆえ、本講義では正確な近代史についての理解をもつ社会人となる人たちを育成するが、年表にはあまりこだわらず、大きな歴史の流れを重視する。

【フィードバック】レポートに対する講評や省察などを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 常に現在に至る近代の歴史を意識しつつ、理解できるようにする。
- 2 今後の日本の方向性を理解するうえで必要となる知識と問題点を討議できるようにする。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標1と2を評価）、定期試験50%（到達目標1と2を評価）により評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

常に図書館を利用して勉強することに慣れ、講義についても理解しないと試験とレポートがまったくできないので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（日本史とは何か？）
第2回	明治維新の意義
第3回	開国と国内の動乱
第4回	アジア認識と富国強兵
第5回	アジアへの進出と日清戦争
第6回	日露戦争と国内政治の変質
第7回	明治の文化と国民生活
第8回	大正民本主義と国民の政治参加
第9回	第一次世界大戦と日本の地位の確立
第10回	国際社会の潮流と恐慌の勃発
第11回	軍部の台頭と国内外政策の変質
第12回	太平洋戦争の敗戦と復興への道
第13回	冷戦下の日本の再建
第14回	プレゼンテーション
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1 図書館で各講義のテーマの理解を深めるために、関連事項を調べる必要がある
- 2 関連するテーマに関する2000字のレポートを課題として課する。

教科書

島海靖『もういちど読む山川日本近代史』 出版社:山川出版社 ISBN-13: 978-4634591127

参考書

適宜紹介する。

備考

History

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「文化と社会」系列の教養科目である。

歴史学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間と社会とのかかわりについての深い認識と論理的・批判的思考力をとめないながら現代社会・国際社会に対応・貢献するための、幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、中国史と日本とのかかわり、および中国古代史における重要概念を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、戦国期・秦帝国期についてまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、前漢帝国期・王莽期についてまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 1.中国古代史における重要概念について、理解し説明できる。
- 2.戦国期・秦帝国期について、理解し説明できる。
- 3.前漢帝国期・王莽期について、理解し説明できる。
- 4.中国古代史の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100％）により、以下のように評価する。

第05回の1/3まとめ時におこなう解説文作成問題（30％）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時におこなう解説文作成問題（35％）：到達目標3・4を評価

注意事項

中国古代史にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス／中国史と日本 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	中国古代史の重要概念① 天下・革命・災異 予習：天下・革命・災異について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	中国古代史の重要概念② 礼法・公私 予習：災異・礼法・公私について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	中国古代史の重要概念③ 封建・郡県・君臣 予習：封建・郡県・君臣について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第5回	1/3まとめ／解説文作成・提出 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：中国古代史の重要概念について整理する。
第6回	戦国期① 戦国時代の概観 予習：戦国七雄・変法運動・鉄製農具の普及について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	戦国期② 前期から中期 予習：桂陵の戦い・馬陵の戦いについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	戦国期③ 中期から後期 予習：商鞅・済水西の戦い・長平の戦いについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	秦帝国 予習：始皇帝・秦末の争乱・楚漢戦争について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ／解説文作成・提出 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：戦国期・秦帝国について整理する。
第11回	前漢帝国① 漢初の時代 予習：劉邦・呂后・呉楚七国の乱について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	前漢帝国② 武帝の時代 予習：武帝・推恩の令・馬邑の役について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	前漢帝国③ 武帝後の時代 予習：塩鉄論について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	王莽期 予習：王莽について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ／解説文作成・提出 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：前漢帝国・王莽期について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照
復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

コンピュータリテラシ（99501）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 W,W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 4 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～4を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2 ～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

読書離れの進む日本人をはじめとした学生に、文学の楽しみや効用を理解させる実践的な内容とする。英米の小説を中心に、作家の概要や背景を紹介し、実際に翻訳で作品に触れることにより、その魅力を見出してもらいたい。もともとは英語で書かれた作品であるので、日本語のみならず、原文にも触れる予定である。限りがある時間の中でできるだけ多くの作品に触れてもらいたい。前半は英国関連の小説、後半は米国でもほとんどがユダヤ系の作家による短編小説を扱うこととなる。

到達目標

- 1 生年順で紹介される英米作家のおいたちなどを知り、歴史や時代風潮を意識する。
- 2 他の言語で描かれた世界観に親しみ、異なった文化や宗教・思想を理解する。
- 3 英米の小説家や小説に触れ、教養として今後の学生・社会生活に活かせるようになる。
- 4 自分の分析や主張をデータ・根拠を取り入れながら論理的に記述できるようになる。

評価方法

- 毎回の授業での小レポート 30 % (到達目標1・4)
- 中間テスト 30 % (到達目標1～4)
- 定期テスト 40 % (到達目標1～4)

注意事項

積極的に文章を読み、書くことが問われる授業である。
情報化社会の中で、手軽に知ること慣れている中で、「考えること」をいわず取り組んでもらいたい。
遅刻は本人のみならず、他の学生の迷惑になるので、小レポートの用紙を始業チャイムと同時に配布している。減点対象とならぬよう、時間を守って参加すること。
1回目の授業を聞き逃すと概要がわからないまま小レポートを作成することになり不利になるので、履修を迷っている場合でも1回目は参加してから検討してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	授業概要・自己紹介
第2回	メアリー・シェリー
第3回	チャールズ・ディケンズ
第4回	ヘンリー・ジェイムズ
第5回	ロバート・スティーブンソン
第6回	オスカー・ワイルド
第7回	キャサリン・マンスフィールド
第8回	中間まとめ
第9回	アンジア・イージアスカ
第10回	ヘミングウェイ
第11回	アーウィン・ショー

回数	内容
第12回	バーナード・マラマッド
第13回	J. D. サリンジャー
第14回	ポール・オースター
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・毎回次回に扱う作家の翻訳プリントを配布するので、3色ペンを用いながら自分なりに解釈しておく。
- ・毎回の授業に扱う用語を復習し、文章化して説明できるようにしておく。
- ・より興味をもてる作家の中から早い時期に1冊を選び読み進めておく。
- ・可能ならば翻訳だけでなく、原作（英語多読用リトールドでも可）にも取り組んでみる。

教科書

毎回プリントを配布する。Google Classroomでもプリントを公開している。

参考書

関連の翻訳書（定期テストで1冊は読むことを課している）、原書、本学図書館の多読用英語e-bookなど

備考

コンピュータリテラシ（99503）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 22 W,W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 4 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～4を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2 ～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 濱家輝雄

授業の概要

多メディアの時代にあって「マスコミ」の社会的責任は重大であり影響力も大きい。新聞・テレビ・雑誌・ラジオというメディアにインターネットも加わり、これまでの時代に比べ情報が氾濫し過密化している。正しい情報・必要な情報を選択する能力～メディアリテラシーを自分のものとするための方法論を考察しながら、夫々の「マスコミ」の現状分析・過去の歴史、そして将来のマスコミの有り方について講義を進め、マスメディアのコンプライアンスとは？言論・表現の自由とは？などマスメディアと向き合う基本的な能力の育成を目的としている。

到達目標

- 1．政治・経済・文化・スポーツ・芸能・一般ニュースへの感度を高め説明できる。
- 2．マスコミ情報に対する判断力（メディアリテラシー）の基礎を身に付け説明できる。

評価方法

レポート課題等40％（主に到達目標1を評価）、定期試験60％（主に到達目標2を評価）の割合で評価する。

注意事項

社会人基礎力であるコミュニケーション能力にも繋がるので、日々のニュースにアンテナを持ち、一般教養を高める意識を持って履修すること。

授業計画

- 授業計画 1 : マスコミ学概論・多メディア多チャンネルの時代～情報の氾濫
- 授業計画 2 : 新聞の誕生から近代新聞のはじまり
- 授業計画 3 : 近代新聞の成立ー明治初期
- 授業計画 4 : 近代新聞・報道新聞へのあゆみ
- 授業計画 5 : 明治30年代以後～商業新聞の成立
- 授業計画 6 : 大正期の新聞～言論・報道機関の確立
- 授業計画 7 : 大正デモクラシーと新聞
- 授業計画 8 : 昭和初期からのマスコミの時代最盛期
- 授業計画 9 : 言論統制への道～軍部の台頭と終焉
- 授業計画 10 : 第2次大戦後の新聞～民主化と新聞復興
- 授業計画 11 : これからの新聞の使命と将来
- 授業計画 12 : 新聞と放送のジャーナリズム
- 授業計画 13 : 放送局の役割りとコンプライアンス（法令遵守）
- 授業計画 14 : 日本の放送ネットワークとローカル局（番組と広告）
- 授業計画 15 : マスコミのあるべき姿と将来ー総復習・まとめ

授業外学習

- ・日常的にマスコミが発信する情報を新聞やテレビのニュースなどでチェックし、時事用語などの意味を調べて理解しておくこと。
- ・学習時間の目安：合計60時間
- ・メディアからのニュースに関するレポート課題がある。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜資料を配布する。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 濱家輝雄

授業の概要

多メディアの時代にあって「マスコミ」の社会的責任は重大であり影響力も大きい。新聞・テレビ・雑誌・ラジオというメディアにインターネットも加わり、これまでの時代に比べ情報が氾濫し過密化している。正しい情報・必要な情報を選択する能力～メディアリテラシーを自分のものとするための方法論を考察しながら、夫々の「マスコミ」の現状分析・過去の歴史、そして将来のマスコミの有り方について講義を進め、マスメディアのコンプライアンスとは？言論・表現の自由とは？などマスメディアと向き合う基本的な能力の育成を目的としている。

到達目標

- 1．政治・経済・文化・スポーツ・芸能・一般ニュースへの感度を高め説明できる。
- 2．マスコミ情報に対する判断力（メディアリテラシー）の基礎を身に付け説明できる。

評価方法

レポート課題等40％（主に到達目標1を評価）、定期試験60％（主に到達目標2を評価）の割合で評価する。

注意事項

社会人基礎力であるコミュニケーション能力にも繋がるので、日々のニュースにアンテナを持ち、一般教養を高める意識を持って履修すること。

授業計画

- 授業計画 1 ： マスコミ学概論・多メディア多チャンネルの時代～情報の氾濫
- 授業計画 2 ： 新聞の誕生から近代新聞のはじまり
- 授業計画 3 ： 近代新聞の成立ー明治初期
- 授業計画 4 ： 近代新聞・報道新聞へのあゆみ
- 授業計画 5 ： 明治 3 0 年代以後～商業新聞の成立
- 授業計画 6 ： 大正期の新聞～言論・報道機関の確立
- 授業計画 7 ： 大正デモクラシーと新聞
- 授業計画 8 ： 昭和初期からのマスコミの時代最盛期
- 授業計画 9 ： 言論統制への道～軍部の台頭と終焉
- 授業計画 1 0 ： 第 2 次大戦後の新聞～民主化と新聞復興
- 授業計画 1 1 ： これからの新聞の使命と将来
- 授業計画 1 2 ： 新聞と放送のジャーナリズム
- 授業計画 1 3 ： 放送局の役割りとコンプライアンス（法令遵守）
- 授業計画 1 4 ： 日本の放送ネットワークとローカル局（番組と広告）
- 授業計画 1 5 ： マスコミのあるべき姿と将来ー総復習・まとめ

授業外学習

- ・日常的にマスコミが発信する情報を新聞やテレビのニュースなどでチェックし、時事用語などの意味を調べて理解しておくこと。
- ・学習時間の目安：合計60時間
- ・メディアからのニュースに関するレポート課題がある。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜資料を配布する。

Literature

教養科目

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 江原雅江

授業の概要

読書離れの進む日本人をはじめとした学生に、文学の楽しみや効用を理解させる実践的な内容とする。英米の小説を中心に、作家の概要や背景を紹介し、実際に翻訳で作品に触れることにより、その魅力を見出してもらいたい。もともとは英語で書かれた作品であるので、日本語のみならず、原文にも触れる予定である。限りがある時間の中でできるだけ多くの作品に触れてもらいたい。前半は英国関連の小説、後半は米国でもほとんどがユダヤ系の作家による短編小説を扱うこととなる。

到達目標

- 1 生年順で紹介される英米作家のおいたちなどを知り、歴史や時代風潮を意識する。
- 2 他の言語で描かれた世界観に親しみ、異なった文化や宗教・思想を理解する。
- 3 英米の小説家や小説に触れ、教養として今後の学生・社会生活に活かせるようになる。
- 4 自分の分析や主張をデータ・根拠を取り入れながら論理的に記述できるようになる。

評価方法

毎回の授業での小レポート 30％(到達目標1・4)
中間テスト 30％(到達目標1～4)
定期テスト 40％(到達目標1～4)

注意事項

積極的に文章を読み、書くことが問われる授業である。
情報化社会の中で、手軽に知ること慣れている中で、「考えること」をいわず取り組んでももらいたい。
遅刻は本人のみならず、他の学生の迷惑になるので、小レポートの用紙を始業チャイムと同時に配布している。減点対象とならぬよう、時間を守って参加すること。
1回目の授業を聞き逃すと概要がわからないまま小レポートを作成することになり不利になるので、履修を迷っている場合でも1回目は参加してから検討してほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	授業概要・自己紹介
第2回	メアリー・シェリー
第3回	チャールズ・ディケンズ
第4回	ヘンリー・ジェイムズ
第5回	ロバート・スティーブンソン
第6回	オスカー・ワイルド
第7回	キャサリン・マンスフィールド
第8回	中間まとめ
第9回	アンジア・イージアスカ
第10回	ヘミングウェイ
第11回	アーウィン・ショー

回数	内容
第12回	バーナード・マラマッド
第13回	J. D. サリンジャー
第14回	ポール・オースター
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・毎回次回に扱う作家の翻訳プリントを配布するので、3色ペンを用いながら自分なりに解釈しておく。
- ・毎回の授業に扱う用語を復習し、文章化して説明できるようにしておく。
- ・より興味をもてる作家の中から早い時期に1冊を選び読み進めておく。
- ・可能ならば翻訳だけでなく、原作（英語多読用リトールドでも可）にも取り組んでみる。

教科書

毎回プリントを配布する。Google Classroomでもプリントを公開している。

参考書

関連の翻訳書（定期テストで1冊は読むことを課している）、原書、本学図書館の多読用英語e-bookなど

備考

まちづくりインターンシップ（99601）

前期

Internship of Community Development

教養科目

年次	2年
対象	26～17芸,生,危,セ
単位数	2.0単位
担当教員	👤 橋元純也

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

まちづくりや地域振興に関わる団体・NPO法人等におけるインターンシップ活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

おもに、高梁川流域の企業等を紹介する「龍の仕事展」を受け入れ先とするD-INTERNSHIPに参加し、まちづくりや地域振興に関連した職務体験を通して、地域における課題に直面し、活性化の方策を探り、その成果をまとめて報告するという一連の学修に取りくむ。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】PBL、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【実務経験のある教員による授業科目】地元のものづくり企業約30社が参加する「龍の仕事展」におけるインターンシップをおこなうとともに、事前研修・企業研修・中間研修・直前研修・成果発表といった一連のD-INTERNSHIPプログラムにおいて、地元企業の代表取締役（人事・研修部署経験）、ビジネスマナー研修講師等の実務家（講師）により、実践的な指導がなされる。

到達目標

- 1.インターンシップの意義について理解し、主体的に活動計画を立案できる。
- 2.インターンシップの活動を通じて、課題発見力・課題解決力を身につける。
- 3.インターンシップの活動を通じて、自己啓発力・自己教育力を身につける。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

第01・02回の提出物の状況・内容（10%）：到達目標1を評価

第03～08回の研修の取りくみ状況・内容（30%）：到達目標2・3を評価

第09～14回の活動の取りくみ状況・内容（30%）：到達目標2・3を評価

第15回の発表準備の状況・内容（30%）：到達目標2・3・4を評価

注意事項

科目「倉敷まちづくり基礎論」「倉敷まちづくり実践論」を履修していることが望ましい。

下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。

授業計画

01.科目概要ガイダンス【4/19月～・オンライン】

02.インターンシップの基礎【4/26月～・オンライン】

※インターンシップ申し込み（D-INTERNSHIP 5/6木～6/14月の期間内）

03・04.事前研修Ⅰ（D-INTERNSHIP 6/20日）

05・06.事前研修Ⅱ（D-INTERNSHIP 6/27日）

※企業研修（D-INTERNSHIP 7/1木～9/3金の期間内）

07・08.直前研修（D-INTERNSHIP 8/29日）

09～14.インターンシップ実践（D-INTERNSHIP 9/4土～9/12日）

15.成果発表準備【9/13月～・オンライン】

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

第01・02回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。

第05・06回の授業後、インターンシップ先の企業等との打ち合わせをかさね、必要な研修を受ける。

第15回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

地域貢献実践(芸術) (99602)

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3 年
対象	25 ～ 21 芸
単位数	1. 0 単位
担当教員	大屋努

授業の概要

地域の資源と課題を発見・分析・検討し、主体的に解決策を立案・実践し、地域ニーズに対する自律的な問題解決能力の獲得を目標とする。
本科目は「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】

問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】

プレゼンテーションに対し講評やレビューなどを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 地域の抱える課題を発見・分析することができる。
- 2 地域課題の解決策を立案・実践することができる。
- 3 課題解決に向けた成果を評価する能力を身に付ける。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3. 地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、まちづくりリーダーの育成を目標に設定している。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢（70%）、活動の成果（30%）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 と 2 は授業に取り組む態度・姿勢から、到達目標 3 は活動の成果により評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・達成度を多面的に評価するループリック（達成水準を明確化した評価資料）の提出を求める。
- ・地域行事の都合等により日程や内容を変更することがある。

授業計画

01 [4月15日(木) 6時限] 22-4230

- ・ガイダンス（※履修者は必ず出席すること）

02 [4月22日(木) 6時限] 22-4230

- ・調査

03 [5月6日(木) 6時限] 22-4230

- ・企画

04 [5月20日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

05 [6月3日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

06 [6月17日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

07 [7月1日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

08 [7月15日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

09 [7月29日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

10～12 [8月31日(火) 3～5時限] 学外実習(真備)

- ・地域での実践活動

13～15 [9月7日(火) 3～5時限] 22-4230

- ・実践活動のレビュー、提案と企画制作

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

- ・授業時間外に実践活動や準備を行う。

教科書

教科書を使用しない。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

地域貢献実践（生命）（99604）

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3 年
対象	25 ～ 21 生
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 橋元純也

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

まちづくりや地域振興に関わる団体等におけるインターンシップ活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

おもに、倉敷市役所を受け入れ先とするインターンシップに参加し、まちづくりや地域振興に関連した職務体験を通して、まず地域課題を発見・理解・分析し、つぎに解決策を他者と協働して立案・実践し、さらに成果をまとめて報告するという一連の学修に取りくむ。なお、その他の受け入れ先におけるインターンシップに参加することもできる。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】 P B L、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】 各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 1.地域課題を発見・理解・分析できる。
- 2.地域課題の解決策を立案できる。
- 3.地域課題の解決策を他者と協働して実践できる。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

インターンシップ活動記録の状況・内容（40％）：到達目標1・2・3を評価

中間報告①の状況・内容（15％）：到達目標1・4を評価

中間報告②の状況・内容（15％）：到達目標2・4を評価

成果発表の状況・内容（30％）：到達目標3・4を評価

注意事項

科目「倉敷まちづくり基礎論」「倉敷まちづくり実践論」を履修していることが望ましい。

下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。

授業計画

01.科目概要ガイダンス【5/10月～・オンライン】

02.インターンシップの基礎【5/17月～・オンライン】

※インターンシップ申し込み・マッチング（例：倉敷市役所 5月下旬～6月中旬）

03.事前指導【6/14月～・オンライン】

04・05.インターンシップ実践①（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）

06.中間報告①【6月中旬～】

07・08.インターンシップ実践②（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 6時間以上）

09.中間報告②【7月上旬～】

10～12.インターンシップ実践③（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）

13.成果発表資料作成【7/19月～】

14.成果発表【7/26月～】

15.成果の共有・フィードバック・総括【8/2月～】

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

第02回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。

第06回の授業前、中間報告①について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第09回の授業前、中間報告②について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第14回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	3 年
対象	25 ～ 23 危,セ
単位数	1． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

まちづくりや地域振興に関わる団体等におけるインターンシップ活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

おもに、倉敷市役所を受け入れ先とするインターンシップに参加し、まちづくりや地域振興に関連した職務体験を通して、まず地域課題を発見・理解・分析し、つぎに解決策を他者と協働して立案・実践し、さらに成果をまとめて報告するという一連の学修に取りくむ。なお、その他の受け入れ先におけるインターンシップに参加することもできる。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】 P B L、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】 各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 1.地域課題を発見・理解・分析できる。
- 2.地域課題の解決策を立案できる。
- 3.地域課題の解決策を他者と協働して実践できる。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

インターンシップ活動記録の状況・内容（40％）：到達目標1・2・3を評価

中間報告①の状況・内容（15％）：到達目標1・4を評価

中間報告②の状況・内容（15％）：到達目標2・4を評価

成果発表の状況・内容（30％）：到達目標3・4を評価

注意事項

科目「倉敷まちづくり基礎論」「倉敷まちづくり実践論」を履修していることが望ましい。

下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。

授業計画

- 01.科目概要ガイダンス【5/10月～・オンライン】
- 02.インターンシップの基礎【5/17月～・オンライン】
※インターンシップ申し込み・マッチング（例：倉敷市役所 5月下旬～6月中旬）
- 03.事前指導【6/14月～・オンライン】
- 04・05.インターンシップ実践①（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）
- 06.中間報告①【6月中旬～】
- 07・08.インターンシップ実践②（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 6時間以上）
- 09.中間報告②【7月上旬～】
- 10～12.インターンシップ実践③（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）
- 13.成果発表資料作成【7/19月～】
- 14.成果発表【7/26月～】
- 15.成果の共有・フィードバック・総括【8/2月～】

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

第02回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。

第06回の授業前、中間報告①について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第09回の授業前、中間報告②について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第14回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

倉敷市などのまちづくりを題材としながら、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

第1～3回で、本科目の地域連携科目としての位置づけや、倉敷のまちづくりについて確認したうえで、地域フィールドワークの方法をまなび、その計画を作成する。第4～6回で、みずからの計画に沿って、倉敷市内の地域・施設・行事などを対象として地域フィールドワークを実践する。第7～9回で、実践した地域フィールドワークの成果について、報告・共有をおこなう。第10～12回で、地域フィールドワークを再度実践し、まちづくり提言を作成する。第13～15回で、作成したまちづくり提言の発表をおこなう。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブラーニング】PBL、フィールドワーク、プレゼンテーションを取りいれている。

【フィードバック】各自の提出物・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 1.地域フィールドワークについて適切に理解し、主体的に計画できる。
- 2.計画に沿った地域フィールドワークを積極的に実践できる。
- 3.地域フィールドワークの成果をふまえ、独自のまちづくり提言を作成できる。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

地域フィールドワーク計画の状況・内容（30％）：到達目標1・4を評価

地域フィールドワーク報告の状況・内容（30％）：到達目標2・4を評価

まちづくり提言の状況・内容（40％）：到達目標3・4を評価

注意事項

前期科目「倉敷まちづくり基礎論」を履修していることが望ましい。

下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。

授業計画

- 01.科目概要ガイダンス【10/9土・3限目】
- 02.倉敷のまちづくりについて【10/9土・4限目】
- 03.地域フィールドワーク計画の作成・提出【10/9土・5限目】
- 04～06.地域フィールドワークの実践①【期間：10/10日～12/3金】
- 07.地域フィールドワークについて【12/4土・3限目】
- 08.地域フィールドワーク報告・前半【12/4土・4限目】
- 09.地域フィールドワーク報告・後半【12/4土・5限目】
- 10～12.地域フィールドワークの実践②【期間：12/5日～1/7金】
- 13.まちづくり提言について【1/8土・3限目】
- 14.まちづくり提言発表・前半【1/8土・4限目】
- 15.まちづくり提言発表・後半【1/8土・5限目】

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

地域フィールドワークの計画・報告、およびまちづくり提言について、内容・発表資料の見直しを随時おこない、必要に応じて担当教員に相

談し指導を受けること。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	3 年
対象	25 ～ 21 芸,生,危,セ
単位数	1． 0 単位
担当教員	 橋元純也

授業の概要

「地域連携・キャリア教育科目」系列の教養科目である。

まちづくりや地域振興にかかわる主体的活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

ほかの教養科目「地域連携・キャリア教育科目」をはじめとするこれまでの地域学修の内容をふまえ、地域課題を発見・理解・分析し、解決策を他者と協働して立案・実践し、成果をまとめて報告するという一連の活動に取りくむ。

本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】PBL、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 1.地域課題を発見・理解・分析できる。
- 2.地域課題の解決策を立案できる。
- 3.地域課題の解決策を他者と協働して実践できる。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

実践活動記録の状況・内容（40％）：到達目標1・2・3を評価

中間報告①の状況・内容（15％）：到達目標1・4を評価

中間報告②の状況・内容（15％）：到達目標2・4を評価

成果発表の状況・内容（30％）：到達目標3・4を評価

注意事項

科目「倉敷まちづくり基礎論」「倉敷まちづくり実践論」を履修していることが望ましい。

下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。

授業計画

- 01.科目概要ガイダンス【8/12木・3限目】
- 02.実践活動の概要【8/12木・4限目】
- 03.実践活動の事前指導【8/12木・5限目】
- 04・05.実践活動①（8月中旬～9月上旬／4時間以上）
- 06.中間報告①【9月上旬】
- 07・08.実践活動②（9月上旬～9月中旬／4時間以上）
- 09.中間報告②【9月中旬】
- 10～12.実践活動③（9月中旬～9月上旬／6時間以上）
- 13.成果発表資料作成【9/21火・3限目】
- 14.成果発表【9/21火・4限目】
- 15.成果の共有・フィードバック・総括【9/21火・5限目】

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

- 第03回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。
- 第06回の授業前、中間報告①について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。
- 第09回の授業前、中間報告②について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第14回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

年次	2 年
対象	26 ～ 21 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子  渡谷真吾  水田直美

授業の概要

専門的知識や教養を備え、豊かな創造性を養い、地域社会の構成員として活躍できる能力を身につける科目である。

この授業は、2年生を対象として3年次における就職活動に備えて、キャリア形成に必要な基礎的能力を身に着けることを目的とする。来るべき進路検討の時期に備えて、以下のステップで学び、初歩的なキャリアデザインを試みる。

- ① キャリアと働き方について
- ② 自己理解、他己理解、自己分析
- ③ プレゼンテーション
- ④ SPI対策（語彙、読解、言語力、非言語力）

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】キャリア理論に基づくワークシートやレポートなどの提出を義務付け、それらに対してフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

本学「ディプロマ・ポリシー」の「地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応した目標を設定している。

- 1.キャリア理論について説明できる。
- 2.「過去・現在・未来」の中で自己を理解し、分析できる。
- 3.プレゼンテーションについて学び、自己を表現できる。
- 4.SPI対策として基礎的知識を学ぶことで、キャリア形成に必要な自分自身を表現できる。（言語、非言語能力）

評価方法

- ① SPI対策試験結果 40%（到達目標1・2・3・4を評価）
- ② 課題（ワークシート、レポートなど） 40%（到達目標1・2・3・4を評価）
- ③ 発表 20%（到達目標1・2・3・4を評価）

注意事項

- ・グループワークやプレゼンテーションで自分自身のキャリア形成について他の受講者と話し合いをする。
- ・プレゼンテーションでは、自分自身のキャリア形成について他の受講者に説明する。
- ・2年次開講科目であるが、3年生も履修可能。
- ・留学生は日本でキャリア形成を希望することを前提とし、日本語でプレゼンテーションが可能な学生を対象とする。（N1程度）
- ・体系的に履修するために「倉敷と仕事」「人生と仕事」（くらしき若衆科目群）の受講が望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	キャリア形成論 キャリアデザインの準備（外部講師予定）
第3回	自己理解一回目 何をしてきたか（外部講師予定）
第4回	自己理解二回目 何をすべきか（外部講師予定）
第5回	自己理解三回目 何をしたいか（外部講師予定）

回数	内容
第6回	グループワーク（外部講師予定）
第7回	プレゼンテーション（外部講師予定）
第8回	インターンシップについて
第9回	SPI対策（言語対策）語彙
第10回	SPI対策（言語対策）2語の関係
第11回	SPI対策（言語対策）文章読解
第12回	SPI対策（非言語対策）グラフ
第13回	SPI対策（非言語対策）図表
第14回	SPI対策（非言語対策）比率
第15回	総括

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。

復習：配布資料等の内容を整理する。

教科書

教科書は使用しない。その都度資料やプリントを配布する。

参考書

参考書は使用しないが、図書館などでキャリア系の本を読んで勉強することが望ましい。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 吾妻寛穂

授業の概要

日本の伝統芸能の日本舞踊と篠笛をとりあげ、成り立ちと歴史、隣接領域（歌舞伎・能・狂言等）との関連性、基本的技法と表現、舞踊音楽および作品に関しての内容を理解させるとともに、実技指導を通して日本舞踊にみられる日本人の礼儀と作法を学ばせる。

【実務経験のある教員による授業科目】現日本舞踊吾妻流師範：日本の伝統芸能の日本舞踊と篠笛をとりあげ、成り立ちと歴史、隣接領域（歌舞伎・能・狂言等）との関連性、基本的技法と表現、舞踊音楽および作品に関しての内容を理解させるとともに、実技指導を通して日本舞踊にみられる日本人の礼儀と作法を学ばせる。

到達目標

- 1．授業で取り上げる日本の舞踊について基本的なことを理解し説明できる。
- 2．日本の舞踊を通して礼儀作法を身につけ実践できる。

評価方法

授業における実践および実技試験80％（到達目標2を評価）、レポート20％（到達目標 1-2を評価）の割合で評価する。60点以上を合格とする。

注意事項

- ・この授業を受講するためには、事前レポートの提出が必要です。
- ・授業終了後に提出するレポートについては、授業中に連絡します。
- ・篠笛は販売します。（約 1, 8 0 0 円）
- ・足袋は毎回必ず持参すること。
- ・浴衣を準備するのが望ましい。
- ・舞扇は貸出します。
- ・事前レポートの内容やその他授業に必要な物については、事前に掲示等で連絡します。
- ・集中講義日程（4 日間）は、6 月 5 日（土）、6 月 6 日（日）、6 月 1 2 日（土）、6 月 1 3 日（日）の予定です。
- ・ヘルスパia 倉敷で行う予定。（現地集合・現地解散）

授業計画

回数	内容
第1回	授業内容の説明、日本舞踊の成り立ちと歴史
第2回	隣接領域（歌舞伎・能・狂言・文楽等）との関連性およびその紹介
第3回	日本舞踊の基本的技法（1）
第4回	日本舞踊の基本的技法（2）
第5回	浴衣の着付けと礼儀作法
第6回	日本舞踊の表現（1）
第7回	日本舞踊の表現（2）
第8回	日本舞踊の鑑賞（ビデオ使用）
第9回	日本舞踊と音楽
第10回	日本舞踊の創作

回数	内容
第11回	篠笛の基本操作（１）運指表と楽譜
第12回	篠笛の基本操作（２）指使い
第13回	篠笛の基本操作（３）演奏(1)
第14回	篠笛の基本操作（４）演奏(2)
第15回	まとめ、実技試験

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

・授業前レポート

日本舞踊と篠笛について調べた内容を1200字程度のレポートにまとめて提出する。（提出期限5月末）

・授業期間中

舞扇の扱い方、篠笛の基本操作、浴衣の着付けの仕方をよく復習しておくこと。

・授業後レポート

内容は授業中に指示する。

教科書

授業内容に応じて、資料を配付する。

参考書

参考文献については、適宜紹介する。

備考

（なし）

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 時任英人

授業の概要

政治学が直面する諸問題の解決に向けて主体的態度や姿勢を学ぶ科目である。それゆえ本講義では、政治的思考を異にする多くの人達の思想と行動について理解を深め日本と世界が直面する日々の諸問題に関する自らの思考を創出し、自律的に社会で自ら考えて行動できる視点を身につけるのが重要である。

これからどんな地域で生活しようとも自分を取り巻く情勢についての理解を持ち、その地域が直面する諸問題について周りの人たちに説明できその解決法を政治的に創出し、地域にとって必要とされる社会人の育成を目的としている。

【アクティブラーニング】グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。

【フィードバック】レポートに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 政治的現象の一つ一つがどのような意義を有するかを理解できる。
- 2 日々の政治現象を理解するうえでの政治的思考ができる。
- 3 日々の政治的事件を新聞やニュースで理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標1、3を評価）、定期試験50%（到達目標1、2、3を評価）によって成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

日々の新聞を読むことは義務であり、定期的に新聞・ニュースの内容を整理して発表してもらうことにする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（政治とは何か？）
第2回	政治の諸相とモデル
第3回	自由民主主義体制と非自由民主主義体制
第4回	政治と福祉
第5回	国民代表と利益代表の政治過程
第6回	政策過程
第7回	政党政治と政党制
第8回	近年の政党制の変化
第9回	政治文化とイデオロギー
第10回	主権国家と地方自治
第11回	国際政治の歴史ー近代から21世紀の紛争へー
第12回	核兵器の登場と現状
第13回	グローバリゼーションと日本の「失われた20年」
第14回	プレゼンテーション

回数	内容
第15回	総まとめ(反実仮想の勧め)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業内容を復習し、次回の講義の内容について関連する専門用語を調べて理解しておくこと。
- ・講義の最後には、理解した内容について、100字ほどのレポートを出題する。
- ・全体として2000字程度のレポートを出題するので、講義の全体的な流れを、復習しておくこと。

教科書

加茂 利男, 大西 仁他『現代政治学 第4版』(有斐閣)

参考書

講義で適宜紹介する。

備考

コンピュータリテラシ（99656）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1 年
対象	26 ～ 22 K
単位数	2. 0 単位
担当教員	 織田樹紀

授業の概要

日常で利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を体系的に学ぶ。収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成ができるようになる。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて表する演習を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、GoogleClassroomを活用して、課題をGoogleClassroomを通して提示し、提出してもらいます。

到達目標

- 1.コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する
- 2.コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
- 3.インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
- 4.文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
- 5.表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
- 6.プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
- 7.学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウィルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
- 8.画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

期末定期試験は実施しない。

授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%(到達目標1,4,5,6)

授業時間中に実施する小テスト：25%(到達目標2,7,8)

グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%(到達目標3,6,8)

注意事項

特になし。

手元にデータを保存しておきできれば、USBメモリ(容量は数GB程度あればよい)を持参

授業計画

1. コンピュータの構造と基本操作、GoogleClassRoomの使い方(1)
2. インターネット概論とタイピング、GoogleClassRoomの使い方(2)
3. インターネットの活用 インターネットの基本知識と利用マナー
4. セキュリティと情報倫理、サイバー犯罪、コンピューターウィルスとセキュリティ
5. Word(1)文書入力
6. Word(2)表現力を向上させよう
7. Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について

8. Excel(1)データ入力とワークシート編集
 9. Excel(2)データベースの活用
 10. Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
 11. Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点
 12. PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識
 13. PowerPoint(2) スライドの作成
 14. PowerPoint(3)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 15. グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業前に指定テキストの操作方法、Webにある動画を確認しておく

こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること

個人課題・グループ課題を出題するので必ず取り組み終わらせること

タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に（少なくとも10分～15分程度）に取り組むこと

教科書

情報リテラシー <改訂版> Windows 10・Office 2016対応

FOM出版 ISBNコード: 978-4-86510-344-1

参考書

授業中に随時紹介します

備考

実際に操作しないと身に付きませんので、本授業時間以外でも操作・活用しましょう。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 小西裕美

授業の概要

日本語初中級を学習した学生が復習をしつつ、中級前期レベルの教材を用い、日本の大学で求められる基礎的な読解力及び表現力を身に付けるための授業です。大学生活に必要なレポートを書くことを視野に入れ、作文や発表などの表現練習を繰り返し行う中で、語彙、表現能力を高めていきます。さらに、日本語能力試験のための試験対策も行います。

到達目標

- 1 日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章などを読んで、理解することができる。
- 2 文章の中に出てくる新出語彙を学び、使用することができる。
- 3 課題文のテーマに即した語句を使用し、文章を書くことができる。

評価方法

授業態度・課題レポート提出・発表・確認テスト・JLPT模試対策など（70％）と定期試験（30％）で評価する。

注意事項

- ・適宜配布するプリントを必ず授業に持ってくること。
- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が支持するJtestの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、テスト
第2回	読解「お知らせや案内」から情報をさがす、作文「お知らせ」
第3回	読解「カタログや説明書」から情報をさがす、作文「写真を説明する」
第4回	読解「手紙」のキーワード、作文「手紙」
第5回	読解「依頼のメール」のキーワード、作文「依頼メール」
第6回	読解「新聞」の見出し、作文「新聞の見出し」
第7回	JLPT模試対策①、読解「広告」から情報を探す
第8回	JLPT模試対策②、読解「広告」を比較
第9回	JLPT模試対策③、読解「グラフ」を説明することば
第10回	JLPT模試対策④、読解「1コマまんが」から意図をさがす
第11回	読解「日記」で使われる表現、作文「日記1」
第12回	J-test 模擬試験
第13回	読解「小説」の指示語 1（答えが前にある場合）、感想文
第14回	Jtest筆記問題練習①、読解「小説」の指示語 2（答えが後ろにある場合）
第15回	Jtest筆記問題練習②、読解「小説」の接続語

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業で指示された課題は期限を守って提出すること。
 - ・随時小テストを行うので、復習しておくこと。
-

教科書

適宜プリントを配布する

適宜案内する

参考書

『N2合格！日本語能力試験問題集 N2語彙スピードマスター』Jリサーチ出版 ISBN978-4-86392-060-6

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

中級レベルの日本語を復習し、次の段階に進むための足掛かりとなる授業です。まず、文章を読んで読解力を伸ばしていきましょう。テーマに沿った文章を読むことによって興味を持ちながら語彙を増やしていきましょう。そして、新しい文型を学び、それを使って作文を書き、積極的に発表していきましょう。これらの活動を通して「読む・書く」「話す・聞く」の四技能の相互的な言語能力と自立学習の能力を伸ばしていきます。

到達目標

- 1．文章を読んで内容を把握することができる。
- 2．文章の中に出てくる新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3．日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4．機能別目標に沿った文型を学び、場面に応じて使うことができるようになる。
- 5．学んだ文型を使って会話をしたり、文を書いたりすることができるようになる。

評価方法

- ・授業態度・課題レポート提出・発表・確認テストなど（70%）と定期試験（30%）で総合評価する。
- ・授業内で実施するJLPT模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・日本語能力試験N2に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・アンケート
第2回	「感情を表す」ときに使う文型、会話 読解「感激したこと、驚いたこと」、作文「私の周りにいるすごい人」
第3回	「決心を表す」ときに使う文型、会話 読解「意志・決心」、作文「試合に出るからには」
第4回	「気持ちを強調する」ときに使う文型、会話 読解「衝動を表現する」、作文「がまんできずにしてしまったこと」
第5回	「原因や理由を表す」ときに使う文型、会話 読解「結果の元となった理由」、作文「きっかけになったこと」
第6回	「することが難しいことを表す」ときに使う文型、会話 読解「『できない』ということを表現する」、作文「せざるを得なかったこと」
第7回	発表
第8回	「動作の対象を表す」ときに使う文型、会話 読解「物事の対象を示す」、作文「～をめぐる問題」
第9回	「出来事の瞬間を表す」ときに使う文型、会話 読解「出来事の途中の様子」、作文「～たきり会っていない人」

回数	内容
第10回	学習のまとめ
第11回	「同時に起こる物事を表す」ときに使う文型、会話 読解「同時に起こっているように見えること」、作文「ついでに〜てくれるサービス」
第12回	「時間の前後を表す」ときに使う文型、会話 読解「物事を順番に説明する」、作文「生まれつきの才能次第で人生が決まるか」
第13回	「注意や連絡」ときに使う文型、会話 読解「場面や時点を表現する」、作文「〜際に気をつけること」
第14回	学習のまとめ
第15回	学習のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計180時間

- ・授業の前には新出語彙の意味を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『学ぼう！にほんご 中級』専門教育出版 ISBN978-4-88324-420-1

『日本語総まとめ N2文法』アスク出版 ISBN978-4-87217-726-8

参考書

適宜プリントを配布します。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2．0 単位
担当教員	 小西裕美

授業の概要

日本語初中級を学習した学生が復習をしつつ、中級前期レベルの教材を用い、日本の大学で求められる基礎的な読解力及び表現力を身に付けるための授業です。大学生活で必要なレポートを書くことを視野に入れ、作文や発表などの表現練習を繰り返し行う中で、語彙、表現能力を高めていきます。さらに、日本語能力試験のための試験対策も行います。

到達目標

- 1 一般的な話題について書かれた新聞記事などの短い文章を読んで、要旨を理解することができる。
- 2 文章の中に出てくる新出語彙を学び、使用することができる。
- 3 課題文のテーマに即した語句を判断し、文章を書くことができる。

評価方法

授業態度・課題レポート提出・発表・確認テスト・JLPT模試対策など（70％）と定期試験（30％）で評価する。

注意事項

- ・適宜配布するプリントを必ず授業に持ってくること。
- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が支持するJtestの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	読解「情報検索・身の回りの文書」、作文「観光案内」
第2回	読解「通知文」、作文「メール」
第3回	読解「意見文」、作文「社会について」
第4回	読解「説明文」、作文「ニュース」
第5回	読解「エッセイ」、作文「人や場所などを説明」
第6回	読解「小説」、作文「物事や状態を説明」
第7回	JLPT模試対策①、読解「情報文のスキャニング」
第8回	JLPT模試対策②、読解「キーワード①何度も出てくるキーワード」
第9回	JLPT模試対策③、読解「キーワード②対の言葉」
第10回	JLPT模試対策④、読解「指示詞」
第11回	読解「新聞①見出し、記事」、作文「比較・対照①」
第12回	読解「新聞②書評」、作文「比較・対照②」
第13回	読解「論説文」、作文「理由・原因」
第14回	Jtest筆記問題練習①、読解「接続詞①理由」
第15回	Jtest筆記問題練習②、読解「接続詞②逆説」

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
 - ・随時小テストを行うので、復習しておくこと。
-

教科書

適宜プリントを配布する

適宜案内する

参考書

『N2合格！日本語能力試験問題集 N2語彙スピードマスター』Jリサーチ出版 ISBN978-4-86392-060-6

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 22 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 児玉正子

授業の概要

中級レベルの日本語を復習し、次の段階に進むための足掛かりとなる授業です。まず、文章を読んで読解力を伸ばしていきましょう。テーマに沿った文章を読むことによって興味を持ちながら語彙を増やしていきましょう。そして、新しい文型を学び、それを使って作文を書き、積極的に発表していきましょう。これらの活動を通して「読む・書く」「話す・聞く」の四技能の相互的な言語能力と自立学習の能力を伸ばしていきます。

到達目標

1. 文章を読んで内容を把握することができる。
2. 文章の中に出てくる新出語彙を学び、使うことができるようになる。
3. 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
4. 機能別目標に沿った文型を学び、場面に応じて使うことができるようになる。
5. 学んだ文型を使って会話をしたり、文を書いたりすることができるようになる。

評価方法

- ・授業態度・課題レポート提出・発表・確認テストなど（70％）と定期試験（30％）で総合評価する。
- ・授業内で実施するJLPT模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・日本語能力試験N2に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。

授業計画

回数	内容
第1回	「立場を表す」ときに使う文型、会話 読解「物事をどの立場から考えているか」、作文「～なわりに…」
第2回	「それ以外にも方法がある」ということを表す文型、会話 読解「物事を部分的に否定する」、作文「～わけではないが」
第3回	「物事が実現するための条件を表す」ときに使う文型、会話 読解「逆接の表現」、作文「外見や出身国で判断することについて」
第4回	「条件を仮定する」ときに使う文型、会話 読解「条件を仮定する」、作文「無人島に行くとしたら」
第5回	「何かが起こる可能性を表す」ときに使う文型、会話 読解「『否定はできない』という気持ちを表現する」、作文「研究や開発の功罪」
第6回	発表
第7回	「注意・忠告する」ときに使う文型、会話 読解「人にうまく注意や忠告をする」、作文「アドバイス」
第8回	「自分の主張を客観的に表す」ときに使う文型、会話 読解「間違いないと思われる物事を断定して言う」、作文「～に違いない」
第9回	「代表例を挙げる」ときに使う文型、会話 読解「例を挙げる表現」、作文「人生はお金さえあれば幸せか」

回数	内容
第10回	学習のまとめ
第11回	「対比を表す」ときに使う文型、会話 読解「対照的な物事を説明する」作文「自分の性格の長所と短所」
第12回	「範囲を定める」ときに使う文型、会話 読解「物事を限定する表現」、作文「性別に関係なくできる職業」
第13回	発表
第14回	学習のまとめ
第15回	学習のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計180時間

- ・授業の前には新出語彙の意味を調べ、本文を読んでおくこと。
- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

『学ぼう！にほんご 中級』専門教育出版 ISBN978-4-88324-420-1

『日本語総まとめ N2文法』アスク出版 ISBN978-4-87217-726-8

参考書

適宜プリントを配布します。

備考

年次	1 年
対象	27 ～ 23 R,,
単位数	2． 0 単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWeb の活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 1 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 2 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 3 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 4 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点 6 0 %（到達目標 1 ～4を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 2 ～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェ クト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Web の活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Web の活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

年次	1 年
対象	27 ～ 17 芸,生,危,セ
単位数	2． 0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。
多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。

【フィードバック】

- ・各回のシャトルカードで質問等に答えるとともに、重要な点については補足説明を行う。
- ・課題レポートについて、模範解答の呈示と解説を行う。

【I C Tを活用した双方向型授業】

- 本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
- ・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
 - ・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
 - ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- (1) 心理学の各領域での主要トピックを理解する。
- (2) 自身の生活体験と、講義内容を関連づけることができる。
- (3) 自他への人間理解を深める。

評価方法

シャトルカード（到達目標2・3）、課題レポート（到達目標1・2）と定期試験（到達目標1）で評価を行う。評価は、シャトルカード10%、課題レポート20%、定期試験70%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学に関係する調査・実験への参加者を募集する場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー素朴心理学と行動科学としての心理学の 違い 予習：高校までに履修した内容で、心理学に関係すると思われるものを探す 復習キーワード：素朴心理学、イギリス経験主義哲学、構成主義心理学、機能主義心理学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、操作主義
第2回	知覚ー心理的世界と物理的世界 予習：3-19ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：知覚的世界、物理的世界、感覚、知覚、図と地、群化の要因、錯覚、知覚的恒常性、注意
第3回	認知ー脳の機能、パターン認知 予習：21-33ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：大脳半球機能差、パターン認識、トップダウン／ボトムアップ処理 課題レポート作成。

回数	内容
第4回	学習（１）条件づけのしくみ 予習：41-49ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、オペラント条件づけ、強化、消去、般化と分化、弁別、強化スケジュール
第5回	学習（２）学習理論の展開 予習：50-57ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：社会的学習、行動療法、認知理論、連合理論 課題レポート作成。
第6回	記憶・思考（１）－記憶のしくみ 予習：34-37、59-73ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：感覚貯蔵、短期記憶、長期記憶、リハーサル、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ、チャンク、体制化、忘却 課題レポート作成。
第7回	記憶・思考（１）－問題解決 予習：74-77ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：問題解決、学習の構え、ヒューリスティック、アルゴリズム、メタ認知
第8回	発達（１）－発達観の変遷 予習：81-87ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：愛着、敏感期、マターナル・ディプリベーション、野性児、遺伝的要因、環境的要因、相互作用
第9回	発達（２）－さまざまな発達課題 予習：88-95ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：象徴遊び、自己中心性、前／具体的／形式的操作期、思春期、第二反抗期、自己像、自我同一性、モラトリアム、ライフ・サイクル、エディプス・コンプレックス 課題レポート作成。
第10回	動機づけ・情緒（１）－動機づけの種類 予習：97-103ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：動機、誘因、一時的／二次的動機、内発的／外発的動機、ホメオスタシス、社会的動機、葛藤、欲求不満、自己実現
第11回	動機づけ・情緒（２）－動機づけ水準の変動（原因帰属など） 予習：104-111ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習性無力感、原因帰属、自己効力感、ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動の認知説 課題レポート作成。
第12回	パーソナリティ（１）－こころの構造 予習：116-123ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：イド、自我、超自我、リビドー、意識、無意識、集団的無意識、アニマ／アニムス、性格類型、性格特性
第13回	パーソナリティ（２）－適応 予習：124-131ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 課題レポート作成。 復習キーワード：自我防衛機制、コンプレックス
第14回	対人行動－対人認知、人間関係の深化 予習：152-167ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：印象形成、認知的バランス理論、自己呈示、自己開示、説得、リアクタンス理論、ノンバーバル・コミュニケーション
第15回	集団と社会－集団の構造と機能 予習：169-185ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：リーダーシップ、PM理論、集団思考、集団決定、社会的手抜き、集団規範、集団凝集性、集団モラル 課題レポート作成。

授業外学習

学習時間の目安：予習・復習をあわせて各回４時間

予習：教科書の該当ページを読み、概略をつかむ。キーワードについて調べておく。

復習：それぞれのキーワードを正しく説明することができるようにする。

各単元ごとに、指定したキーワードをもとに概念間の関連性とそれらの共通点・相違点を理解してまとめて、課題レポートを作成する。

教科書

心理学ナビゲータ Ver.2|神田義浩他|北大路書房|978-4-7628-2749-5

参考書

適宜案内する。

備考